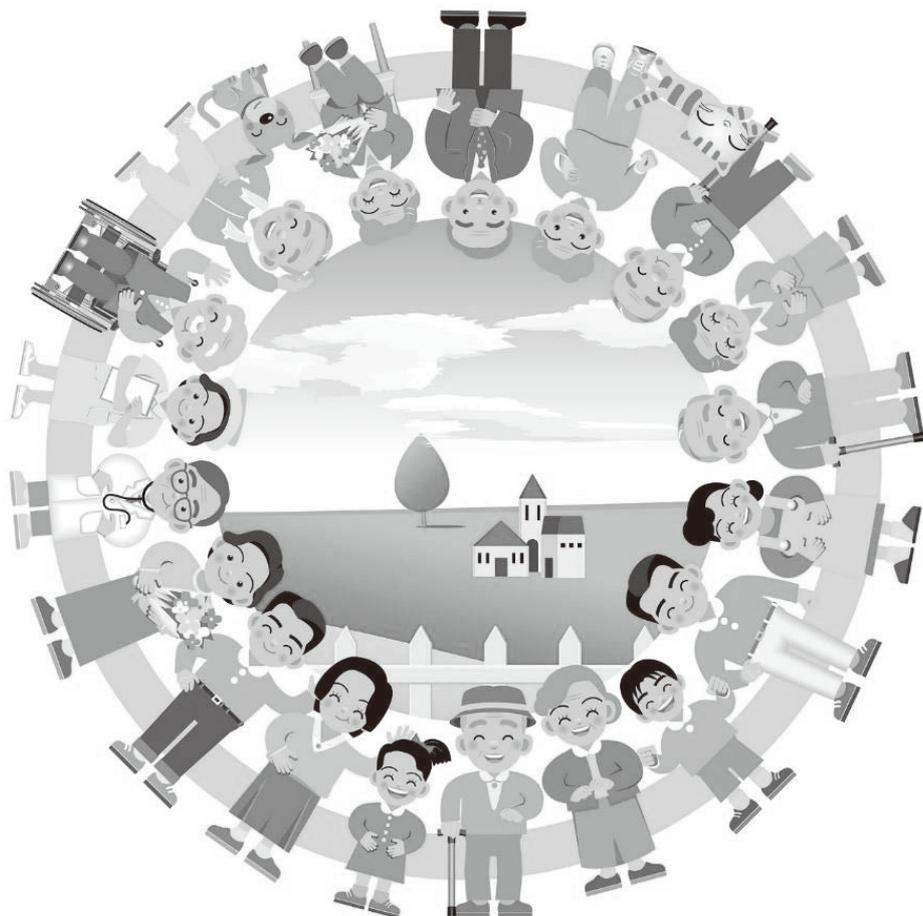


第3次阿波市地域福祉活動計画



令和 6 年3月

 社会福祉法人 阿波市社会福祉協議会
阿波市地域福祉活動計画策定委員会

はじめに

阿波市社会福祉協議会（以下、「社協」という。）では、平成31年度から令和5年度までの「第2次阿波市地域福祉活動計画」を策定し、行政の計画である「阿波市地域福祉計画」と連携を図り、少子高齢化の進行、独居高齢者の増加、核家族化の増加などの社会構造の変化に対し、阿波市の地域課題を住民自らが発見し解決していくことができる地域づくりを目的に、地域福祉を推進してきました。



その間、国においては、平成30年に社会福祉法が改正され、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて繋がることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共につくっていくことが求められる地域共生社会を目指す取り組みを開始したことや、また阿波市においても令和4年3月に新たに第3次地域福祉計画が策定されました。

このたび、社協においても第2次阿波市地域福祉活動計画が終了することに伴い、これらの社会情勢を踏まえるとともに、各地区で活動されている地域福祉活動実行委員の代表者で構成される「阿波市地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、「第3次地域福祉活動計画（以下、本計画という。）」を策定しました。

本計画は、第2次阿波市地域福祉活動計画の成果や検証、そしてアンケート調査を行い、地域にある課題を市民の力で解決するため具体的な取り組みを盛り込んだ、いわば手作りの計画となっています。

阿波市をはじめ、さまざまな福祉団体等と連携しながら、本計画の推進に全力を尽くしてまいりますので、地域の皆さまの一層のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、本計画の策定にあたり、多大なご尽力をいただきました、地域福祉活動計画策定委員及び各地区の地域福祉活動実行委員の皆さまをはじめ、アンケート調査への貴重なご意見と多大なるご協力をいただきましたすべての皆さま方に心から感謝申し上げます。

令和6年3月
社会福祉法人阿波市社会福祉協議会
会長 関 敏行

ごあいさつ

この度「第3次阿波市地域福祉活動計画」が、たくさんの方々のご協力によって完成しました。関わってくださった皆さま、ありがとうございました。



この計画策定にあたって、地域福祉活動アンケートのデータや意見を活用した地域福祉活動計画研修会と計画会議を重ねるうちにいろいろなことを感じ、学ぶことができました。ごく普通の暮らしの中でさまざまな福祉課題が存在し、支援をもとめる意見や行政による福祉制度や福祉サービスだけでは解決しきれない課題が存在しています。この課題を真剣に考えなければならないと思いました。

それと同時に、地域の課題を解決するために多くの方々が立ち上がり、活動を実践していることも知りました。各地区の地域福祉活動計画実行委員会でもその地域の特性や課題に即した活動をしています。

また、日々さまざまな課題と向き合って制度だけでは解決できないからこそ、住民同士が支え合い、助け合う行動が必要であり、もっと多くの方に活動に参加していただけることが策定を進めるうちに大切だと改めて感じました。

しかし、住民参加の地域福祉活動計画の存在はまだまだ知られていません。私たち自身がさらにアピールして、ひとりでも多くの方に理解と参加を促す努力が必要です。本計画を通じて住民同士の支え合いや助け合う行動を伝え続けていかなければなりません。

本計画を手にした方は、ぜひ最後まで目を通してみてください。このまちにいろいろな課題があって、解決のために多くの活動が必要なことを知って欲しいのです。そしてこれからは、この阿波市を住民同士が支え合いながら、すてきな暮らしができるように、あなたの力をお貸しください。

令和6年3月
第3次阿波市地域福祉活動計画策定委員会
委員長 佃 浩行

目次

頁番号

第1章 計画の策定にあたって

第1節	計画策定の趣旨と背景	1
第2節	地域福祉活動計画とは	2
第3節	計画の位置づけ	2
第4節	計画期間	2
第5節	策定の経緯	3
第6節	第2次地域福祉活動計画評価表	3

第2章 阿波市の概要と地区カルテ

第1節	阿波市概要	8
第2節	地区別カルテ	9

第3章 アンケート調査結果からみた現状と課題

第1節	調査対象と方法について	11
第2節	関係者のアンケート調査結果・分析	13
第3節	一般市民のアンケート調査結果・分析	32
第4節	中高生のアンケート調査結果・分析	47

第4章 基本目標(阿波市地域福祉計画と共有)

第1節	4つの基本目標	63
-----	---------	----

第5章 第3次地域福祉活動計画

第1節	計画策定までの流れと体系	65
-----	--------------	----

第2節	地区別計画	66
-----	-------	----

第6章 計画の推進

第1節	計画の推進	76
-----	-------	----

第2節	計画の進捗管理	76
-----	---------	----

第7章 資料編

I.	阿波市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会設置要綱	77
----	-----------------------------	----

II.	阿波市地域福祉活動計画策定委員会名簿	78
-----	--------------------	----

III.	計画の策定経過(工程表)	78
------	--------------	----

IV.	アンケート調査票	78
-----	----------	----

第1章 計画の策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨と背景

近年、少子高齢化や人口減少の進展に伴い、高齢者のみの世帯や単身世帯の増加、引きこもり、寝たきり・認知症高齢者の増加、孤独死といった問題が顕在化しています。さらに、8050問題（高齢の親と無職の子どもと同居）やダブルケア（介護と子育てを同時に行う）、ヤングケアラー（家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども）等、多様化・複雑化している新たな課題も生じています。

こうした中、国では、平成30年4月施行の改正社会福祉法において、市民一人ひとりがつながり、地域を共につくっていく「地域共生社会」の実現を目指すことが示されました。さらに、令和3年4月施行の改正社会福祉法では、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する「断らない相談支援」を実現するための「重層的支援体制整備事業」が創設され、阿波市においても、既存の相談支援などの取り組みを活用しながら、地域住民の多様化・複雑化した課題を解決するための包括的な支援体制を構築していくことが求められています。

社会福祉法人阿波市社会福祉協議会(以下「社協」という)では、平成31年3月に「第2次阿波市地域福祉活動計画」を策定し、地域福祉の推進に取り組んできました。

しかしながら、令和2年早々からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域での活動が制限され、従来から行われていた様々なイベント・行事の中止が余儀なくされました。これにより、地域の中でのつながりが弱まり、複雑な課題を抱える人や世帯の孤立感が高まるなど、地域コミュニティに大きな問題が生じていると考えられます。本来であれば、社協は地域コミュニティをつくる、育てる、守ることが使命とされていますが、新型コロナウイルスによる分断によって、人々の助け合い精神までもが崩壊の危機に直面しており、地域福祉の要である社協の存在意義を今一度示すことが重要であると考えています。

そこで社協としましては、阿波市とともに地域共生社会の実現、今後ますます複雑化が予想される福祉課題に対応していくため、人々が自らの地域に愛着といきがいをもって、健康で幸せに暮らし続けることができる安心で安全な地域づくりを再構築する体制を整えることが必要不可欠であると考え、これらを計画的に推進することを目的とした「第3次阿波市地域福祉活動計画」（以下「本計画」という）を策定するものです。

第2節 地域福祉活動計画とは

地域福祉活動計画は、社会福祉法第109条で規定する市町村の社協が策定する計画です。地域で暮らす住民や福祉活動を行っている団体などが、地域の中にある生活課題や地域の課題を発見・共有し、それらの課題を解決するために、地域として取り組む事や目標などを具体的に計画に盛り込むことが必要とされています。

また、計画の進行状況も年度ごとに管理することで、地域の福祉活動支援を強化し、長期的には地域が主役となった地域福祉文化の醸成を図ることを目的としています。

なお、社協自身が運営・推進していく事柄に関しては、社協の事業計画に反映し、地域の方々と協働して参ります。

第3節 計画の位置づけ

地域福祉を推進するための理念や仕組みをつくる社会福祉法第107条の規定に基づく「地域福祉計画」と、具体的な取り組みの計画である「活動計画」は、次頁の資料に示すように車の両輪のような関係性となっています。この二つの計画により、地域に関わる全ての人たちの役割が明確になり、実効性の高い計画づくりが必要と考えています。

すでに阿波市では「みんなで支え合い築く地域福祉 快適で安心が実感できるまち・阿波」を基本理念とする第3次地域福祉計画が令和4年度当初から計画の実行に移されています。本計画は、第3次阿波市地域福祉計画において、社協や地域に対して求めている事柄に着目し、整合性を保ち、連携を図る位置づけとしました(次頁資料参照)。

第4節 計画期間

本計画は、令和6年度から令和10年度の5年間とします。

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
第3次阿波市地域福祉計画					第4次計画		
阿波市成年後見制度利用促進基本計画					次期		
阿波市再犯防止推進計画					次期		
第2次計画	第3次阿波市地域福祉活動計画					第4次計画	

第5節 策定の経緯

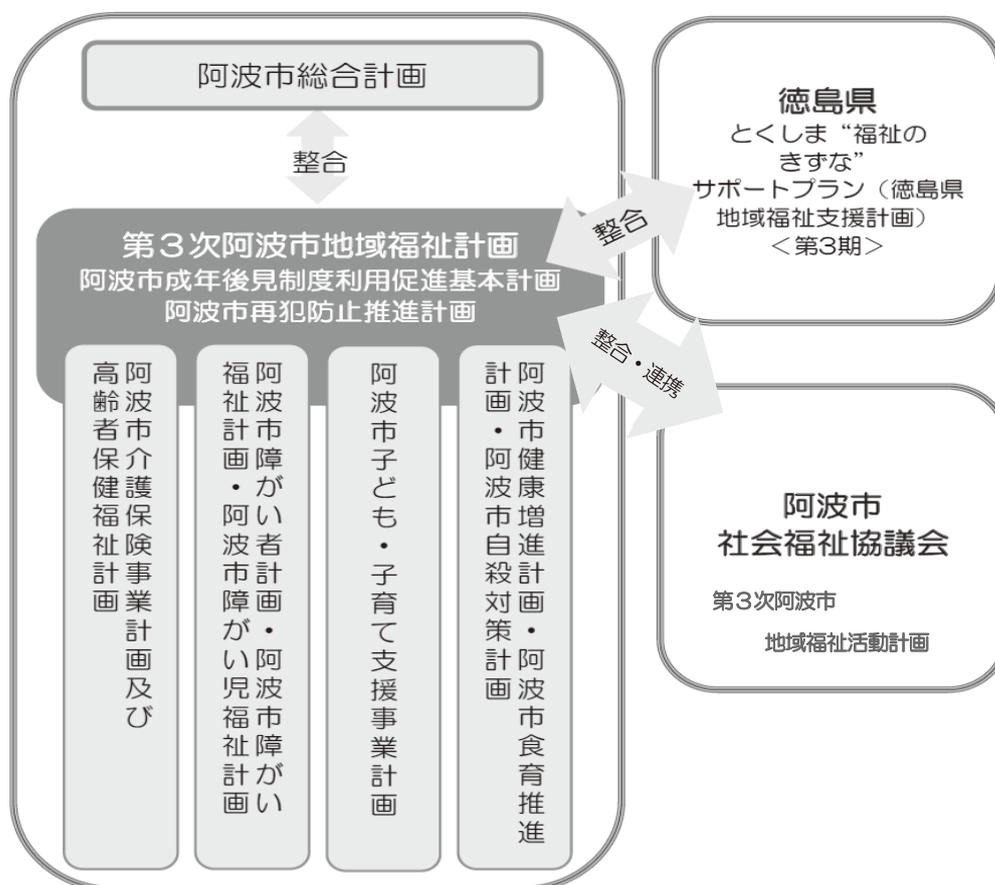
本計画を策定するにあたり、周知の徹底を図る目的から令和5年6月に「第3次地域福祉活動計画について」と題して全職員を対象とした研修会を実施しました。そして、本計画に係るアンケート調査(関係者、一般市民、中高生)を実施し、その結果を基に、地区ごとにワークショップを開催し、同時に吉野、土成、市場、阿波地区における地域福祉活動計画実行委員会を随時開催し、情報の共有と計画素案作成を行いました。最後には、各地区の代表と副代表から構成される第3次地域福祉活動計画策定委員会の審議を経て策定しました。

第6節 第2次地域福祉活動計画評価表

第2次地域福祉活動計画(平成31年度～令和5年度)の評価に関しては、地区ごとに実行委員会を開催し、その達成状況について意見を取りまとめました(次頁以降参照)。

資料

阿波市地域福祉活動計画と他の計画との関係(第3次阿波市地域福祉計画から抜粋改変)



吉野地区 第2次地域福祉活動計画 評価表

◎=達成 ○=やや達成 △=未達成 ×=未実施

	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
健康	生活習慣病が心配	不規則な生活をしない ◇各自が生活の見直し ↓ ◇改善方法を見つける ↓ ◇自分の目標を設定する (一無、二少、三多)	歩く習慣を身につける 情報の交換	・ジャキジャキラジオ体操 ・鯉のぼり・看板(今を一生懸命) ・阿波シティマラソン応援に参加 ・手作りマスクの配布	◎
	食に関する関心が低い		・食の改善 (バランスのとれた食生活)	・フレッシュラジオ体操・朝食会 (ワンプレート朝食バイキング)	
健康	<p>【評価に対する意見など】 (生活習慣病が心配)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により自粛生活が長引く中、誰もがができる健康体操を地域への健康予防啓発運動として推進することができた。 ・地域の特色を生かし、地元の特産品であるレタスや、伝統芸能を伝えることができた。 ・季節感を感じたり、地域や町が元気になる為に鯉のぼり、看板を設置することができた。 ・マスク不足の中、手作りマスクを小中学生、ひとり暮らし高齢者へ配布し、とても喜ばれた。 <p>(食に関する関心が低い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍直前のイベント開催であったが、バランスの取れた食事、食への意識向上につながった。 ・地元の子どもが大勢参加し、住民から好評であった 				
	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
自然	環境に対する意識の低さ	美しいまちづくりに対する意識の改善	・アドプト活動の報告 小中高、関係機関との連絡を図る(ホームページ掲載)	・アドプト(環境美化活動) ・SDGsバック(米袋再利用)	◎
	不法投棄の防止	ポイ捨て、不法投棄しにくい町づくり	・美しい環境PR、景観さがし	・吉野防災 見どころマップ (一条・柿原)	◎
自然	<p>【評価に対する意見など】 (環境に対する意識の低さ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「持続可能な開発目標」SDGs 達成の取り組みの一環として、幅広い世代の地域住民とともに協力し、将来にわたり豊かな生活を確保できるよう今後もバックアップしていきたい。 <p>(不法投棄の防止)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイ捨て、不法投棄の現状を知り、気づきを高めていくことにより、環境美化へつなげていく。 ・マップを作成することで、地域資源の再確認を行うことができた。小学校・地域住民へ配布を行い、啓発・広報が行えた。 				
	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
地域共助	防災意識、災害対策の弱さ	災害時のネットワークづくりを推進	・ハザードマップを作成し、備えと対策を認識する ・自主防災組織作り	・いのちを守るための防災イベント ・防災展示コーナー設置 ・防災水槽マップ ・防災釜土作り ほか ・身近なもので防災グッズ作り ・防災キャンドルづくり ・一条地区地域防災に参加 ・炊出し、防災展示会を開催 ・災害避難カード配布	◎
	<p>【評価に対する意見など】 (防災意識、災害対策の弱さ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により事業の変更はあったが、研修会や小中学校への授業に入ることで、地域住民や次世代への防災意識の向上に繋がった。今後も継続したい。 ・地区内外より見学者もあり好評だった。今後は地域への周知等も含め取り組みを続けていきたい。 <p>(自主防災組織づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民全般に啓発することができた。今後も続け、発信していきたい。 ・地域の子どもたちと避難場所までのルートを歩き、確認することができた。 ・ひとり暮らし高齢者の見守り活動を行うことができた。今後も継続していきたい。 				

土成地区 第2次地域福祉活動計画 評価表

◎=達成 ○=やや達成 △=未達成 ×=未実施

	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
地域の 支え 合い	コミュニティの希薄化	世代間交流を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ▶コミュニティの再生と活性化 ▶異世代が集うイベントや居場所づくり ▶ひとり親支援事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ドナナリエ夏 ▶ドナナリエ冬 ▶こどもひろばポケット（協力） 	○
		隣近所との繋がり・交流を深める	<ul style="list-style-type: none"> ▶ひとり暮らし高齢者の見守りと声かけの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ▶日常生活の中で、近所の高齢者の方の見守り等について啓発 ▶まちづくりセミナー開催（特別防災セミナー） 	○
	日常生活におけるマナーの欠如	地域全体での声かけ運動を定着させる	<ul style="list-style-type: none"> ▶日々の挨拶を元気よく大人から実践していく 	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域での声かけ運動実践 	◎
	<p>【評価に対する意見など】 (コミュニティの希薄化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の学校や施設、地域住民とともに世代間交流が実施でき、とても好評であった。 ・ 年1回の世代間交流イベントを今後も継続していきたい。 ・ ひとり親支援協力を今後も推進していきたい。 ・ 隣近所との交流を啓発し、各種団体と連携しながら、今後も繋がりのある福祉活動を推進していきたい。 ・ 実行委員や地域住民を交え、セミナーの開催ができて好評であった。 <p>(日常生活におけるマナーの欠如)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登下校などに大人から子どもたちに声をかけ、挨拶をするよう今後も努めていきたい。 				
	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
地域 防災 強化	災害時への備えの意識が弱い	地域住民が、災害に関して、自助・共助・公助の意味を理解し、危機意識や備えを持つことができるように支援する	<ul style="list-style-type: none"> ▶自主防災への参加や市や関係機関との連携をはかる ▶防災訓練やセミナー等に積極的に参加し、実践、体験していく機会を提供する ▶実際に地域の人や他団体と一緒に避難場所等の確認をしながらウォーキングを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ▶防災訓練に参加 ▶実践型防災セミナー開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別防災セミナー ・ 親子防災セミナー 	◎
				<ul style="list-style-type: none"> ▶健康ウォークの開催 	
	<p>【評価に対する意見など】 (災害時への備えの意識が弱い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりが積極的に、自治会等で実施している防災訓練に協力することができた。 ・ 今後も他団体と交流を持ちながら、防災についての研修会、実践、体験の機会を持ち、発信していく。 ・ 健康や災害時への関心が強くなった。様々な他団体と連携しながら今後も行いたい。 				
	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
地域 活動 支援	施設やNPO、各種団体との連携・支援が円滑に回っていない	相互に情報を交換、共有することで、支援・協力が円滑になる	<ul style="list-style-type: none"> ▶支援、協力及び地域資源を再度掘り起し、繋いでいけるよう工夫していく 	<ul style="list-style-type: none"> ▶研修会 ・ 生活支援体制整備事業について ・ terra小屋活動から見えるまちづくり ・ 子ども食堂について 	◎
		<p>【評価に対する意見など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修会で様々なことを学び、地域の課題を改めて発見できた。今後も施設、NPO、各種団体との連携を深め、地域の活動を継続していきたい 			
	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
環 境	不法投棄が後をたたない現状	一人ひとりの意識改革の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ▶定期的にクリーン運動やウォーキング等を交えた清掃活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ▶清掃活動 ▶健康ウォークの開催 	○
		<p>【評価に対する意見など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォーキング等を交えた清掃活動を実施し、不法投棄への啓発を行った。 ・ それぞれの家の周りから、自主的に清掃活動ができたが、依然として不法投棄がみられているため、今後も継続して清掃活動を行う。 			

市場地区 第2次地域福祉活動計画 評価表

◎=達成 ○=やや達成 △=未達成 ×=未実施

	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
高齢者・障がい者	地域の希薄化	交流の輪づくり	▶地域の声掛けで地域活動へ	▶あいさつ運動	◎
	移動手段がない (買い物・通院が困難)	社会参加が可能	▶外出や移動困難な人への支援	▶阿波市単独サービス「あわめぐり」で稼働中	◎
	健康寿命を延ばす	健康の維持、増進を図る	▶各種健診等の受診を呼びかけるとともに、健康づくりに関する講習やイベントへの参加呼びかけ	▶ラジオ体操 ▶2019年2021年認知症研修	◎
	<p>【評価に対する意見など】</p> <p><u>(地域の希薄化)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動などの顔の見える関係の啓発に努める活動ができた。 <p><u>(移動手段がない)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や実行委員間の意見交換を行うことができ、交通弱者の立場を考える機会を作る活動ができた。 <p><u>(健康寿命を延ばす)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症を深く知る研修会や、健康増進に必要な体力づくりに貢献することができた。 				
	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
少子化	地域で子どもを見かけなくなった (子どもの減少)	未来を担う子どもに人間力や行動力をつけてもらう	▶伝統行事を継承していく	▶4月 さくらまつり ▶8月 てあいマルシェ ▶10月 やねこじき	○
	若い人がおらず、地域に活気がない	子育てしやすい環境をつくる	▶子育てするなら阿波市		○
	<p>【評価に対する意見など】</p> <p><u>(地域で子どもを見かけなくなった)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事等を通してのふれあいができる機会を作ることが大切だと認識できた。 <p><u>(若い人がおらず地域に活気がない)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のお祭りなどに参加することで、阿波市の子育て環境を一部認識できた。活動を通して子育て世代とコミュニケーションがとれた。 				
	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
環境	市場公園、善入寺にゴミを捨てる人がいる	ゴミのポイ捨て防止活動	▶健康づくり、生きがいづくりを通じた地域力の育成	▶金清公園植物名札づくり ▶金清公園清掃 ▶切幡寺清掃	◎
	<p>【評価に対する意見など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動を通じて環境美化に対する意識を高めることができた。 ・ポイ捨て問題を改めて認識できた。 				
	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
地域防災	南海地震の備え	防災啓発して理解を深める	▶地域における防災、減災活動	▶阿波市防災フェスタ	◎
	<p>【評価に対する意見など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災研修や、自主防災訓練に参加して防災意識を高めることができた。 				

阿波地区 第2次地域福祉計画 評価表

◎=達成 ○=やや達成 △=未達成 ×=未実施

	課題	目標	活動内容	目標達成状況	評価
つながり	ひとり暮らし高齢者世帯の増加 近所付き合いが疎遠	世代間交流の機会を増やす	・交流イベントの開催	・マルシェを開催 ・SNSでの発信（広報）や施設等へ呼びかけをし、各世代が交流	◎
	【評価に対する意見など】 ・ マルシェを中心に地域活動の展開を考えているため、今後も続けて実施する予定である。 ・ 季節にあわせたイベントを毎月に行い好評だった。				
ふれあい	年代を超えてのふれあいが減少	世代間交流の機会を増やす	・出会いの場をつくる	・マルシェを開催 ・SNSでの発信（広報）や施設等へ呼びかけをし、各世代が交流	◎
	【評価に対する意見など】 ・ マルシェを中心に地域活動の展開を考えているため、今後も続けて実施する予定である。 ・ 小さな子どもから高齢者まで、いろいろな世代の参加があり、一定の効果がみられた。				
けんこう	生活習慣病の増加に対する危機感や予防意識が希薄	手作り料理で健康な体づくり	・米粉を使った料理教室を開始	・マルシェにて、無添加・自然食材の提供。併せて、無添加・自然素材を使った飲み物や食事も提供。 また、健康・悩み相談コーナーも設け、福祉関係従事者等へ対応	○
	【評価に対する意見など】 ・ 地元の食材を使ったものを提供・紹介することで、健康に対する興味を持つ良い機会になったといった評価をいただいております、今後も継続して行っていく予定である。				
かんきょう	旧庁舎周辺のゴミや草が目立つ	ゴミゼロ	・定期的な環境整備 ・ボランティアによる呼びかけ ・地域の見守り	旧庁舎周辺においては、市委託業者の清掃が入り、取りやめる。 委員・職員の自宅周辺や散歩道など、各自でそれぞれ気づいたときに「ちょこっと清掃」を行う	○
	【評価に対する意見など】 ・ 県境整備の一環として、お花見用ベンチを作成し、バーベナの里に設置した。				

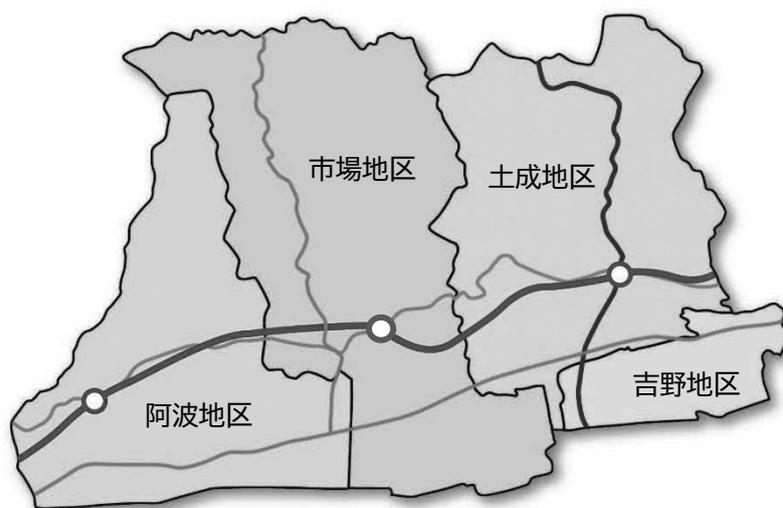
第2章 阿波市の概要と地区カルテ

第1節 阿波市概要

阿波市は、2005(平成17)年に吉野町、土成町、市場町、阿波町が合併して誕生しました。吉野町と土成町は、旧板野郡、市場町と阿波町は、旧阿波郡でした。徳島県中央北部の吉野川北岸に位置し、東は上板町、西は美馬市、南は吉野川市、北は香川県に隣接しています。この地域は、古くから交通の要衝として位置づけられ、現在では徳島自動車道が東西に走り、土成インターチェンジや阿波パーキングエリアが整備され、現在、スマートインターチェンジの建設も進められています。阿波市の総面積は191.11 km²となっており、現在の徳島県内の市町村では8番目の規模となります。また、可住地面積をみると、90.03 km²で、可住地面積割合は47.1%となっています。徳島県の可住地面積割合の平均は、24.4%となっており、阿波市は徳島県内でも平野部の多い地域といえます。気候は温暖で、山河に広がる美しい自然に恵まれており、国の天然記念物「阿波の土柱」は人々を感嘆させる自慢の風景です。誇るべき深い歴史や文化も有し「四国霊場」の4つの札所をはじめとする名所旧跡が点在しています。(阿波市ホームページより引用)

阿波市のデータ(2023(令和5)年9月末現在)

	阿波市	吉野地区	土成地区	市場地区	阿波地区
人口	34,922人	7,158人	7,417人	9,271人	11,076人
世帯数	15,454世帯	3,422世帯	3,117世帯	4,186世帯	4,729世帯
高齢化率	38.5%	36.3%	36.8%	40.0%	39.7%



* 高齢化率とは、65歳以上人口が総人口に占める割合のことを言います。

第2節 地区別カルテ

吉野地区カルテ

(令和5年9月末現在)

区分	人数	区分	世帯・割合
人口	7,158人	世帯数	3,422世帯
14歳以下	648人	一人暮らしの高齢者世帯数	763世帯
15~64歳以下	3,905人	高齢者のみ世帯数	1,248世帯
65歳以上	2,605人	高齢化率	36.3%
75歳以上	1,353人	後期高齢化率 (75歳以上)	18.9%
【社会資源】 ○病院・診療所……………3か所 ○老人入所施設・障がい入所施設…6か所 ○商業施設……………6か所 (スーパー・コンビニ・ドラッグストア・ホームセンターなど) ○学校・子ども園……………6か所		【市民活動と文化】 ○神社の祭り ○会館の祭り ○地域団体の移住者交流 ○自主防災訓練	

土成地区カルテ

(令和5年9月末現在)

区分	人数	区分	世帯・割合
人口	7,417人	世帯数	3,117世帯
14歳以下	777人	一人暮らしの高齢者世帯数	612世帯
15~64歳以下	3,909人	高齢者のみ世帯数	1,129世帯
65歳以上	2,731人	高齢化率	36.8%
75歳以上	1,394人	後期高齢化率 (75歳以上)	18.7%
【社会資源】 ○病院・診療所……………4か所 ○老人入所施設・障がい入所施設…7か所 ○商業施設……………7か所 (スーパー・コンビニ・ドラッグストア・ホームセンターなど) ○学校・子ども園……………4か所		【市民活動と文化】 ○神社の祭り ○道の駅の地域おこし ○地域団体のフェスタ ○地域団体の移住者交流 ○自主防災訓練	

市場地区データ

(令和5年9月末現在)

区分	人数	区分	世帯・割合
人口	9,271人	世帯数	4,186世帯
14歳以下	809人	一人暮らしの高齢者世帯数	934世帯
15~64歳以下	4,747人	高齢者のみ世帯数	1,617世帯
65歳以上	3,715人	高齢化率	40.0%
75歳以上	1,889人	後期高齢化率 (75歳以上)	20.3%
【社会資源】 ○病院・診療所……………3か所 ○老人入所施設・障がい入所施設…7か所 ○商業施設……………8か所 (スーパー・コンビニ・ドラッグストア・ホームセンターなど) ○学校・こども園……………7か所		【市民活動と文化】 ○神社の祭り ○伝統芸能行事 ○地域団体季節の祭り ○自主防災訓練	

阿波地区データ

(令和5年9月末現在)

区分	人数	区分	世帯・割合
人口	11,076人	世帯数	4,729世帯
14歳以下	1,044人	一人暮らしの高齢者世帯数	999世帯
15~64歳以下	5,630人	高齢者のみ世帯数	1,785世帯
65歳以上	4,402人	高齢化率	39.7%
75歳以上	2,299人	後期高齢化率 (75歳以上)	20.7%
【社会資源】 ○病院・診療所……………9か所 ○老人入所施設・障がい入所施設…7か所 ○商業施設……………9か所 (スーパー・コンビニ・ドラッグストア・ホームセンターなど) ○学校・こども園……………8か所		【市民活動と文化】 ○神社の祭り ○地域団体のマルシェ ○地域団体の趣味交流 ○天然記念物で地域おこし ○自主防災訓練	

第3章 アンケート調査結果からみた現状と課題

第1節 調査対象と方法について

● 調査対象と有効回答数について

対象は、阿波市の吉野・土成・市場・阿波地区において地域福祉活動に携わる「関係者」、それ以外の「一般市民」、阿波市内の学校に通う「中高生」としました。有効回答総数は967名であり、十分な回答数を得ることができました。各有効回答数は以下表のとおりです。

有効回答数	関係者	一般市民	中高生	総数
阿波市全体	261	303	403	967
吉野地区	72	51	64	187
土成地区	46	68	69	183
市場地区	77	91	76	244
阿波地区	65	88	120	273
その他	1	5	74	80

○ 関係者の配布先		
各地区地域福祉活動計画 実行委員会	各地区民生・児童委員協議会	各地区老人クラブ連合会
各地区身体障害者会	阿波市母子寡婦福祉連合会	阿波市手をつなぐ育成会
各地区婦人会	各地区ボランティア協議会	
○ 一般市民の配布先		
自治会	3歳児検診	囲碁クラブ
2歳児検診	輪踊り	にこにこクラブ
3B体操	1歳児半検診	サマーコンサート
○ 中高生の配布先		
吉野中学校	土成中学校	市場中学校
阿波中学校	阿波高等学校	阿波西高等学校

● 方法について

【アンケート用紙項目について】

本調査は、第3次阿波市地域福祉計画との整合性を鑑み、社協並びに地域に求められる項目を抽出しました。その結果、●地域福祉活動の推進について●地域福祉のネットワーク構築について●福祉サービスの充実と適切な利用の促進について●安心安全な地域づくりの推進について、を大項目としています。各設問

は、性別、年代などの個人属性と大項目に関する項目とで構成し、設問はできる限り 2 択方式を採用、多数該当の項目については、第 3 次阿波市地域福祉計画を参考としました。

【調査方法について】

アンケート調査とし、社協職員によるアンケート用紙の配布・回収(一部郵送あり)としました。アンケートの調査用紙は、関係者、一般市民、中高生の様式をそれぞれに作成しました。調査票は紙媒体を主とし、WEB 回答方式も併用しました。なお、配布に関しては随時配布のため、配布数から回収率の算出は行っていません。

アンケートの配布に際し、本計画の基礎資料とすること、匿名にて活用することを十分に説明し、調査対象者の同意を得て実施しています。調査期間は、令和 5 年 7 月 10 日から 8 月 25 日までとしました。

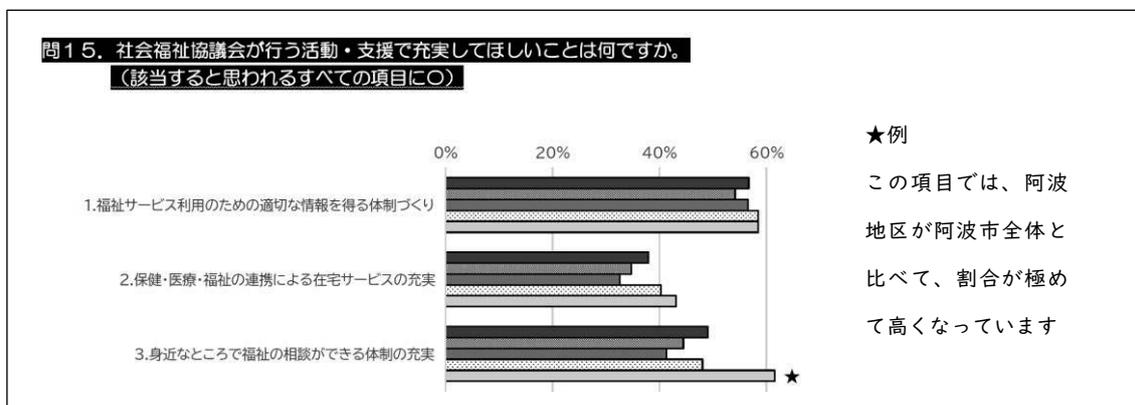
【分析方法について】

回収したアンケート用紙を関係者、一般市民、中高生に分けて単純集計し、設問ごとにその割合(%)を算出しています。欠損値のある調査票については、有効回答とした上で、欠損値のある設問については「無回答」として処理しました。

多数該当項目の設問については、制限数を超えて回答した場合も有効として割合を算出しています。項目の中で、50%を超える場合は、半数以上の方がその項目を選んだ、ということです。

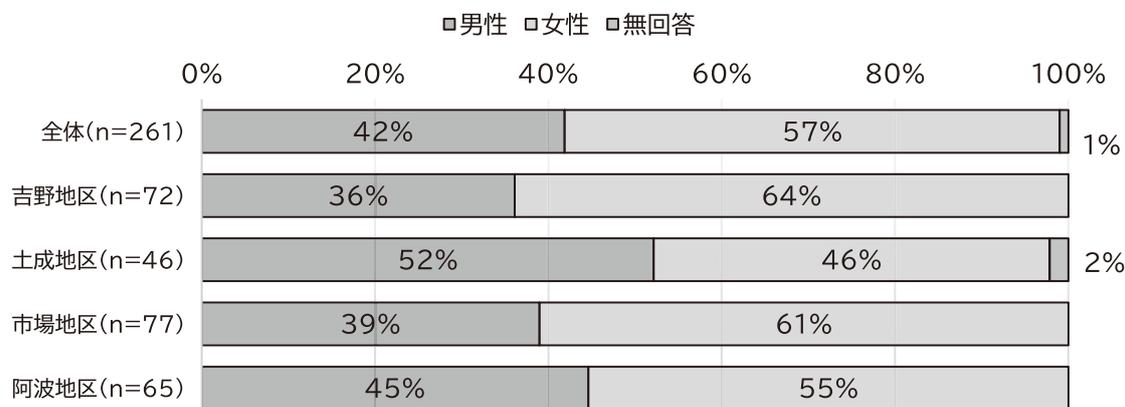
図中の★印は、阿波市全体と各地区とを統計的に比較して「回答の割合に極めて差がある」と解釈します(下記の図を参照)。また、回答矛盾については、関係者に関しては、問 17 の(1)と(2)とし、問 17(1)にて「避難できると思う」に回答した場合は、問 17(2)の回答を除外しました。

一般市民に関しては、回答矛盾の扱いはありません。中高生に関しては、問 14 にて「住みたい」と回答した場合は、問 16 の回答を除外しました。



第 2 節 関係者のアンケート調査結果・分析

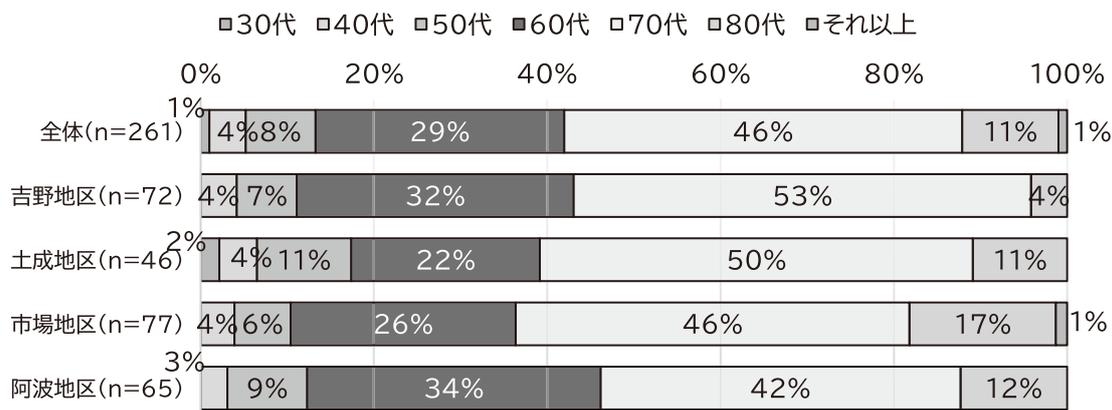
● 性別について



性別に関して、全体では、男性に比べて女性の割合が約 6 割と高くなっています。

地区別では、吉野、市場、阿波地区は全体と同様の傾向を示し、土成地区は男性の割合が他の地域と比べて若干高くなっていました。

● 年代について

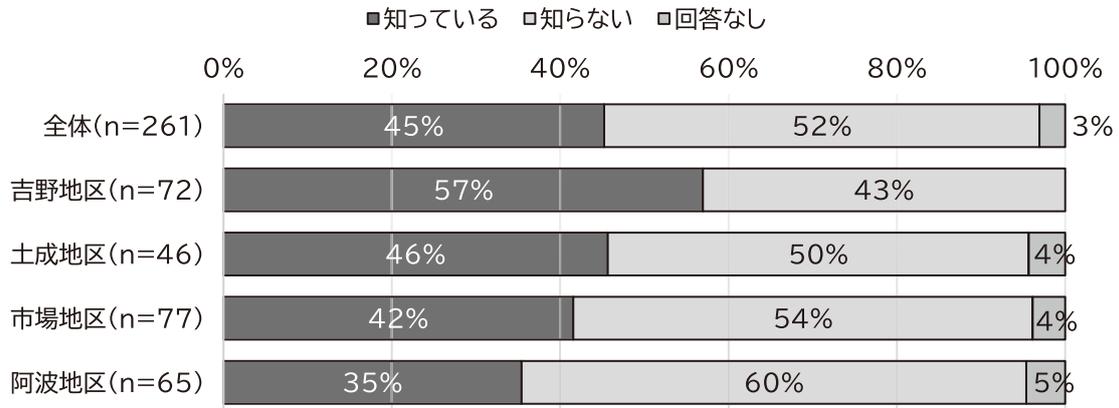


年代に関して、全体では、70代の割合が約 5 割を占め、次いで 60代が 3 割程度となっています。80代も約 1 割であり、高年齢層の方が多くなっています。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、吉野地区、土成地区では 70代が 5 割以上となっていました。

地域福祉活動を将来的に担うための早急な世代交代が必要と考えられます。

● 第2次地域福祉活動計画(2019年度～2023年度)の認知度について

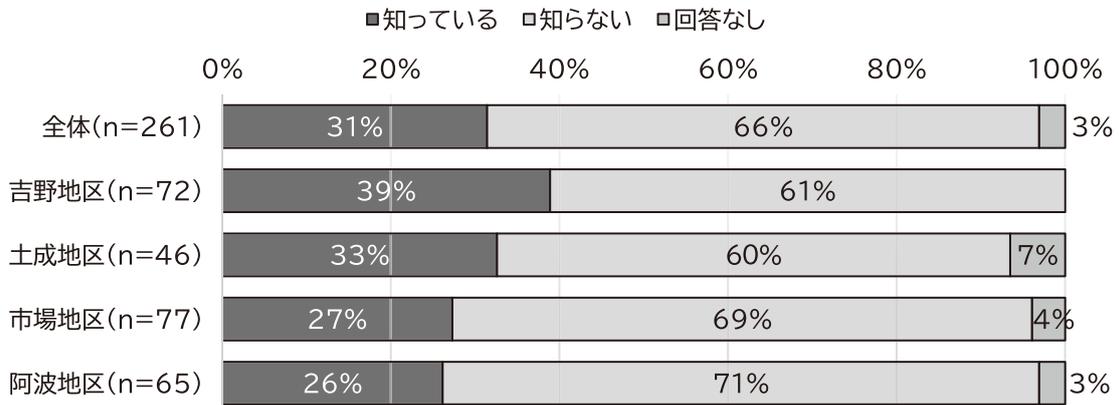


第2次地域福祉活動計画の認知度に関して、全体では「知らない」の割合が若干高くなっていました。

地区別では、土成、市場、阿波地区は全体と同様の傾向を示しましたが、吉野地区は他の地域に比べて「知っている」が高くなっていました。

地区によって、認知度に差があることから、本計画の普及啓発がいっそう求められます。

● 第2次地域福祉活動計画の内容の認知度について

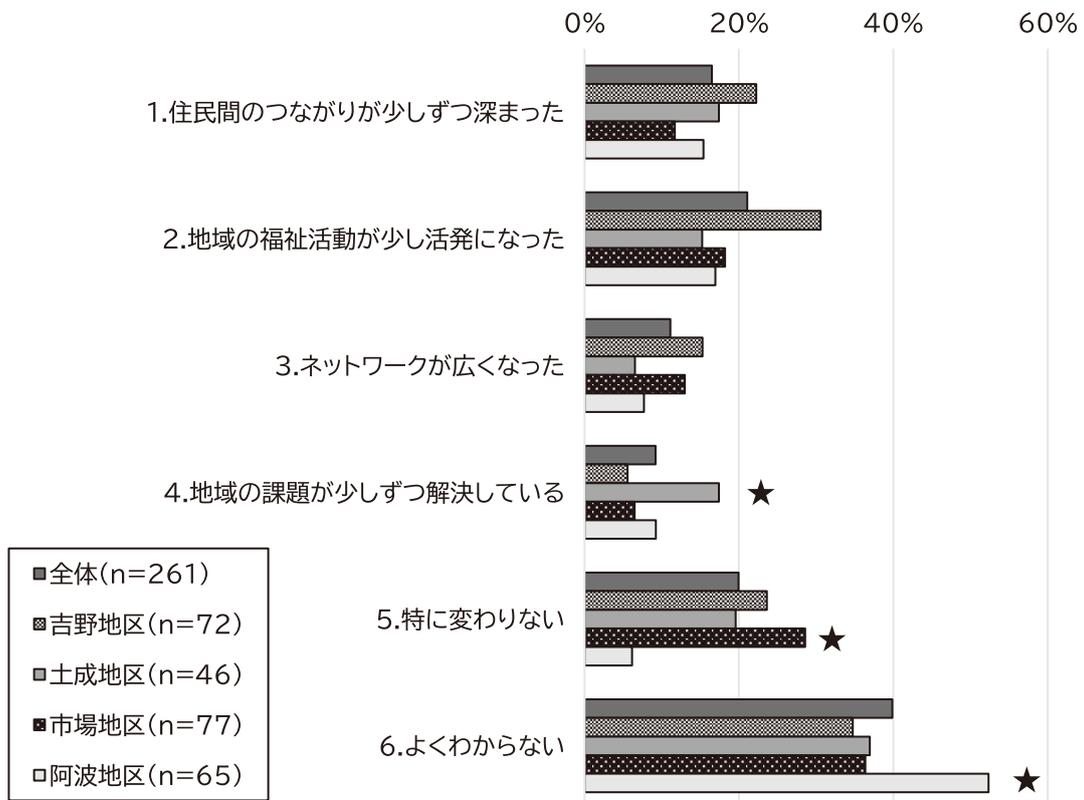


第2次地域福祉活動計画の内容の認知度に関して、全体では「知らない」と回答した割合が6割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区では「知らない」が7割を超えていました。

本計画の普及啓発において、内容の浸透がより必要と考えられます。

● 第2次地域福祉活動計画によって地域の活動や組織体制の変化について



第2次地域福祉活動計画によって地域の活動や組織体制の変化に関して、全体では「よくわからない」の割合が高く、続いて「地域の福祉活動が少し活発になった」でした。一方「特に変わらない」とした回答も2割程度ありました。

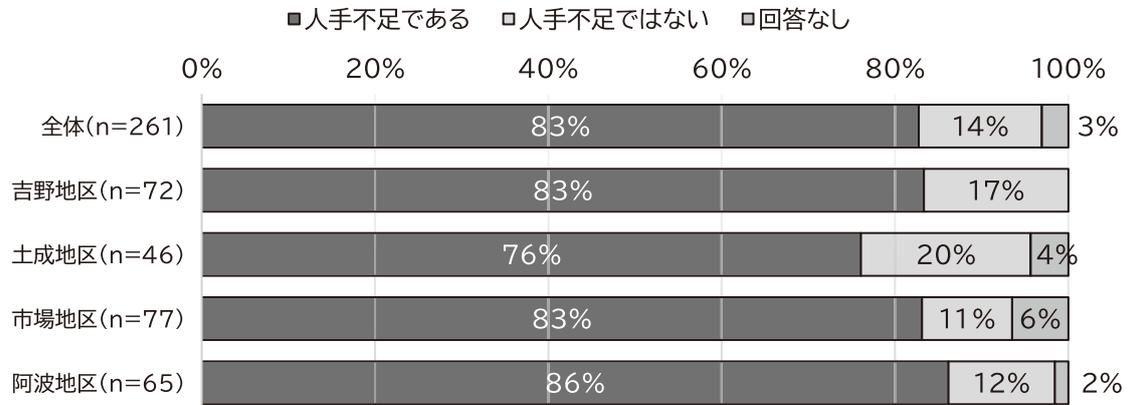
地区別では、土成地区の「地域の課題が少しずつ解決している」市場地区の「特に変わらない」阿波地区の「よくわからない」が全体と比較して極めて高くなっていました。

今後は本計画を利活用し、地域課題の解決や人的ネットワークの拡大へのきっかけづくりを行うことが望まれます。



I. 地域福祉活動の推進について

● 地域福祉活動に関わる人手について

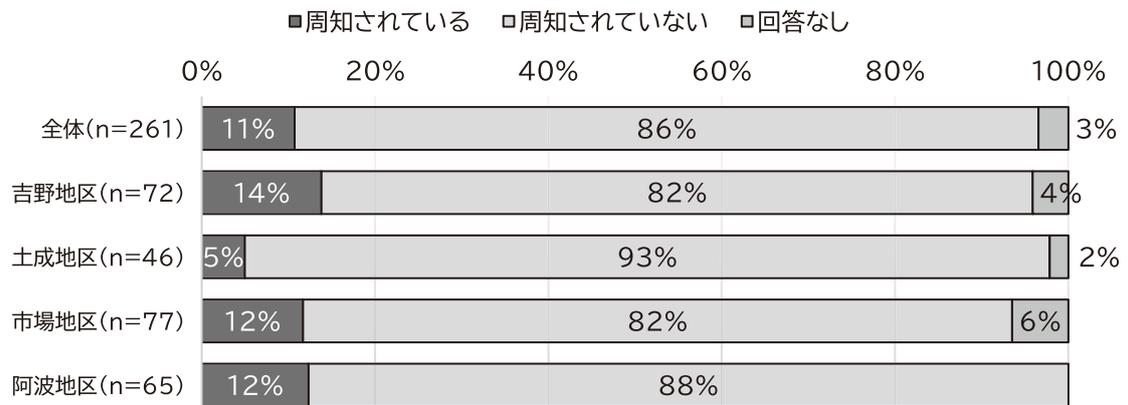


地域福祉活動に関わる人手に関して、全体では「人手不足である」と回答した割合が約8割でした。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、土成地区がもっとも低くなっていました。

地域福祉活動には、ボランティア活動、防災対策、地域・社会貢献事業など様々な分野がありますが、慢性的な人手不足になっており、今後、人手をどのように確保していくのかを検討する必要があると考えられます。

● 地区での活動内容の周知について

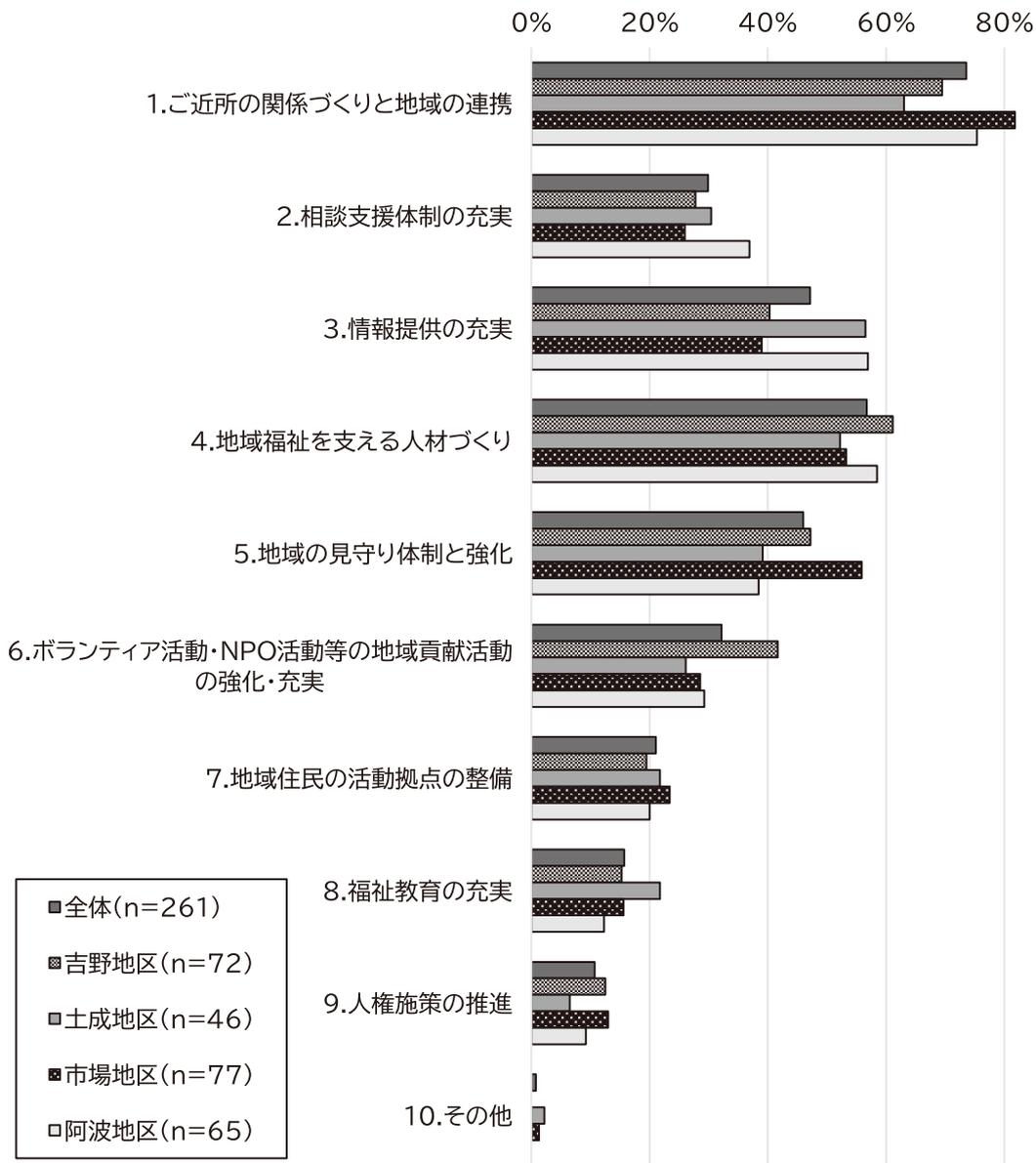


地区での活動内容の周知に関して、全体では、地区での活動内容が「周知されていない」が9割近くに上っています。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、土成地区がもっとも高くなっていました。

活動内容の周知に関して、広報紙やインターネット・SNSを活用しているものの、活動の中心世代が70代であり、その世代に届きにくい可能性が考えられます。社協と地域との関係性をより深め、情報の共有と発信を図っていくことが求められます。

● 地域福祉活動を推進するにあたって重要な事柄について

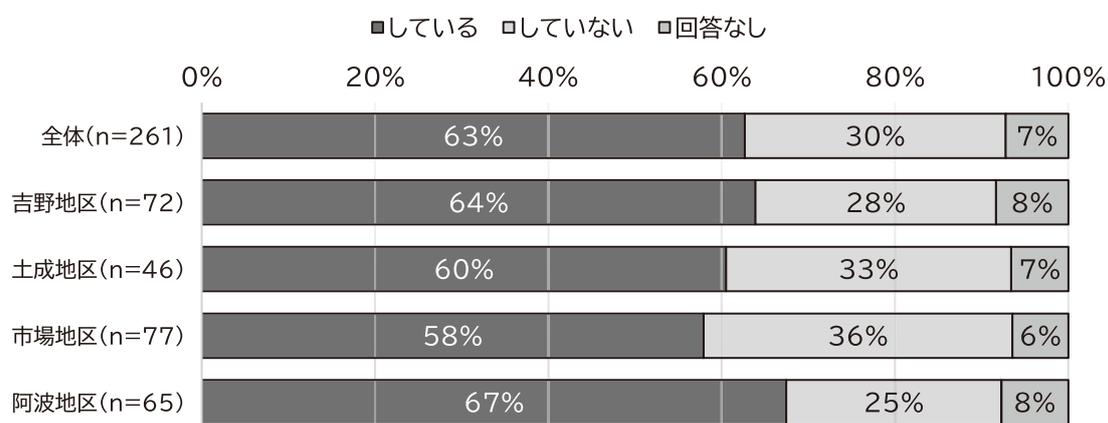


地域福祉活動を推進するにあたって重要な事柄に関して、全体では「ご近所の関係づくりと地域の連携」「地域福祉を支える人材づくり」「情報提供の充実」の割合が高くなっていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し「ご近所の関係づくりと地域の連携」では市場地区が「地域福祉を支える人材づくり」は吉野地区が「情報提供の充実」では土成、阿波地区がもっとも高くなっていました。

地域福祉活動を推進するにあたり、ご近所の関係づくりや地域福祉を支える人材づくりを土台とし、相互に情報が共有される仕組みづくりが必要と考えられます。

● 福祉活動やボランティア活動のマンネリ化について



福祉活動やボランティア活動のマンネリ化に関して、全体では、福祉活動やボランティア活動に関して「マンネリ化している」と回答した割合が6割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区がもっとも高く、市場地区がもっとも低くなっていました。

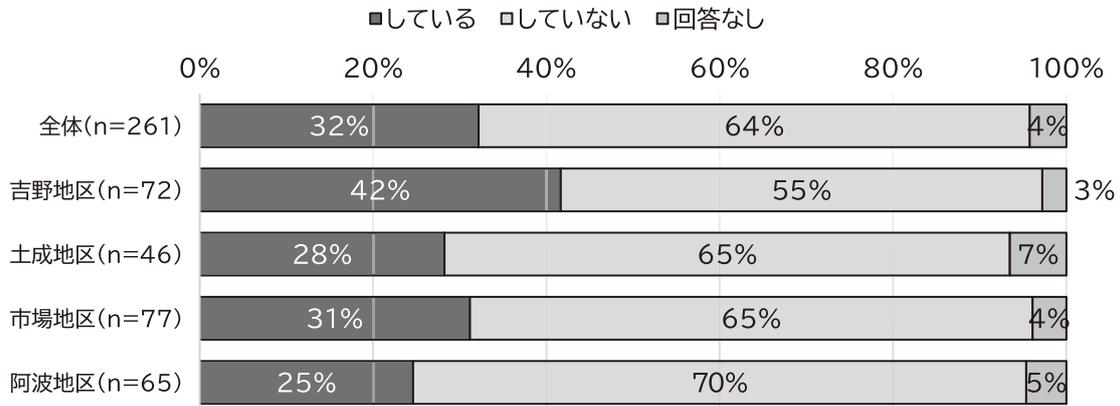
福祉活動やボランティア活動を継続していくには、マンネリ化を防止することが重要であり、新たな活動形態や事業を創出することが必要と考えられます。



Ⅱ. 地域福祉のネットワーク構築について

● 地区での地域福祉に関わる団体等との情報共有について

*団体等とは、住民組織(ボランティア、民生委員・児童委員、老人クラブ等)、社会福祉施設、その他の団体(福祉、保健、医療、教育、労働関係、NPO 団体)を指します

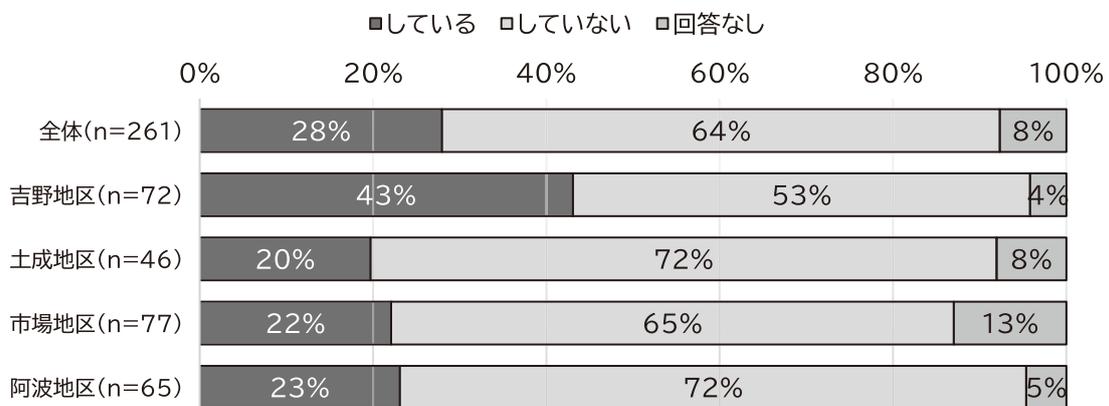


地区での地域福祉に関わる団体等との情報共有に関して、全体では、団体等と情報共有を「していない」と回答した割合が6割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区がもっとも高く、吉野地区がもっとも低くなっていました。

地区での福祉活動を推進するには、社協、住民だけでなく、様々な関係機関・団体と情報を共有し、連携していくことが求められます。そのためには、共通のプラットフォーム(共有の場)が必要と考えられます。

● 地域福祉に関係する利用者などの情報の取り扱いに関する検討について

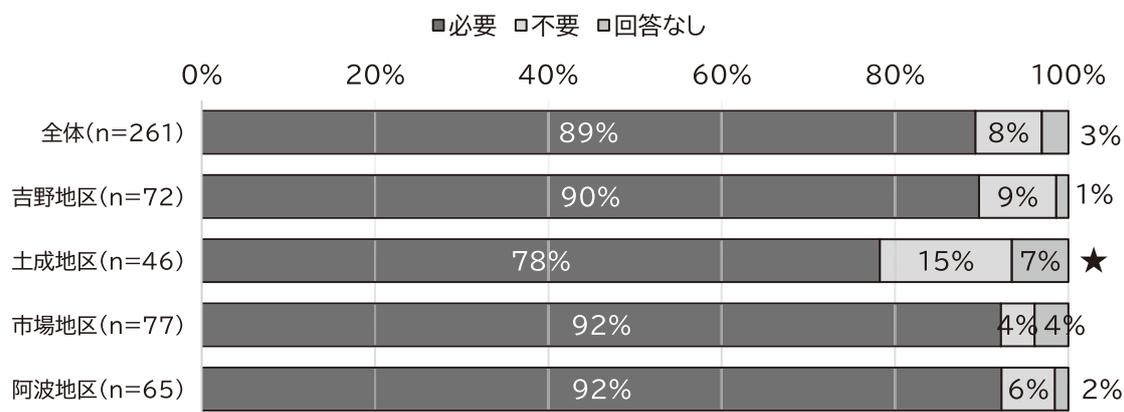


地域福祉に関する利用者などの情報の取り扱いに関する検討に関して、全体では、地域福祉に関する利用者などの情報の取り扱いについて「検討していない」が6割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、土成、阿波地区がもっとも高く、吉野地区がもっとも低くなっていました。

地域福祉を推進するには、支援やサービスの対象となる利用者の把握が重要である一方で、個人情報の取り扱いについて慎重を期すことが求められています。そういったことの検討について、今後、関係機関と協働して進めていくことが必要と考えられます。

● 地域福祉活動をつないでいくネットワークの必要性について



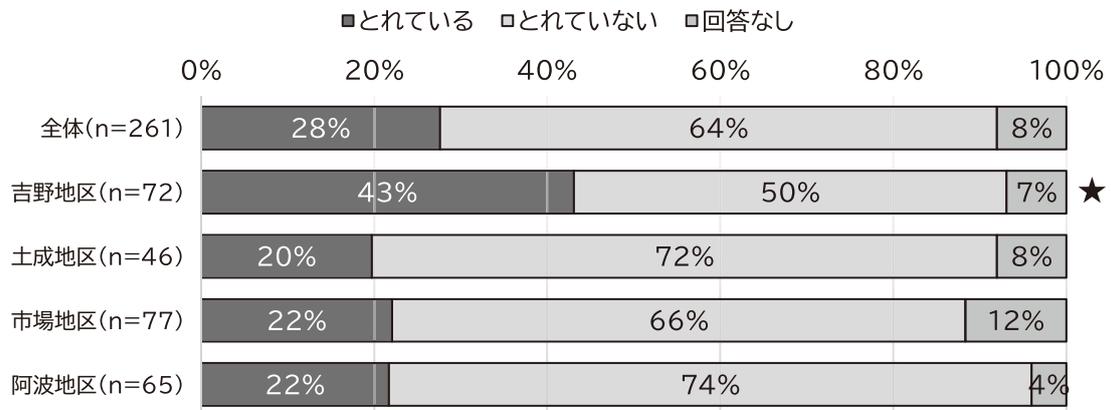
地域福祉活動をつないでいくネットワークの必要性に関して、全体では、地域福祉活動をつないでいくネットワークの必要性に関して「必要」と回答した割合が約9割でした。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、市場、阿波地区が高く、土成地区がもっとも低くなっていました。

ネットワークとは、地域の中で人々や関係機関・団体が目的をもってつながることを指し、地域福祉活動を高める重要な要素となっていることから、様々な世代や企業などを含めた関係機関・団体と連携を果たしていくことが重要と考えられます。



● 地域福祉に関わる個人、団体、行政、社会福祉協議会等との連携について



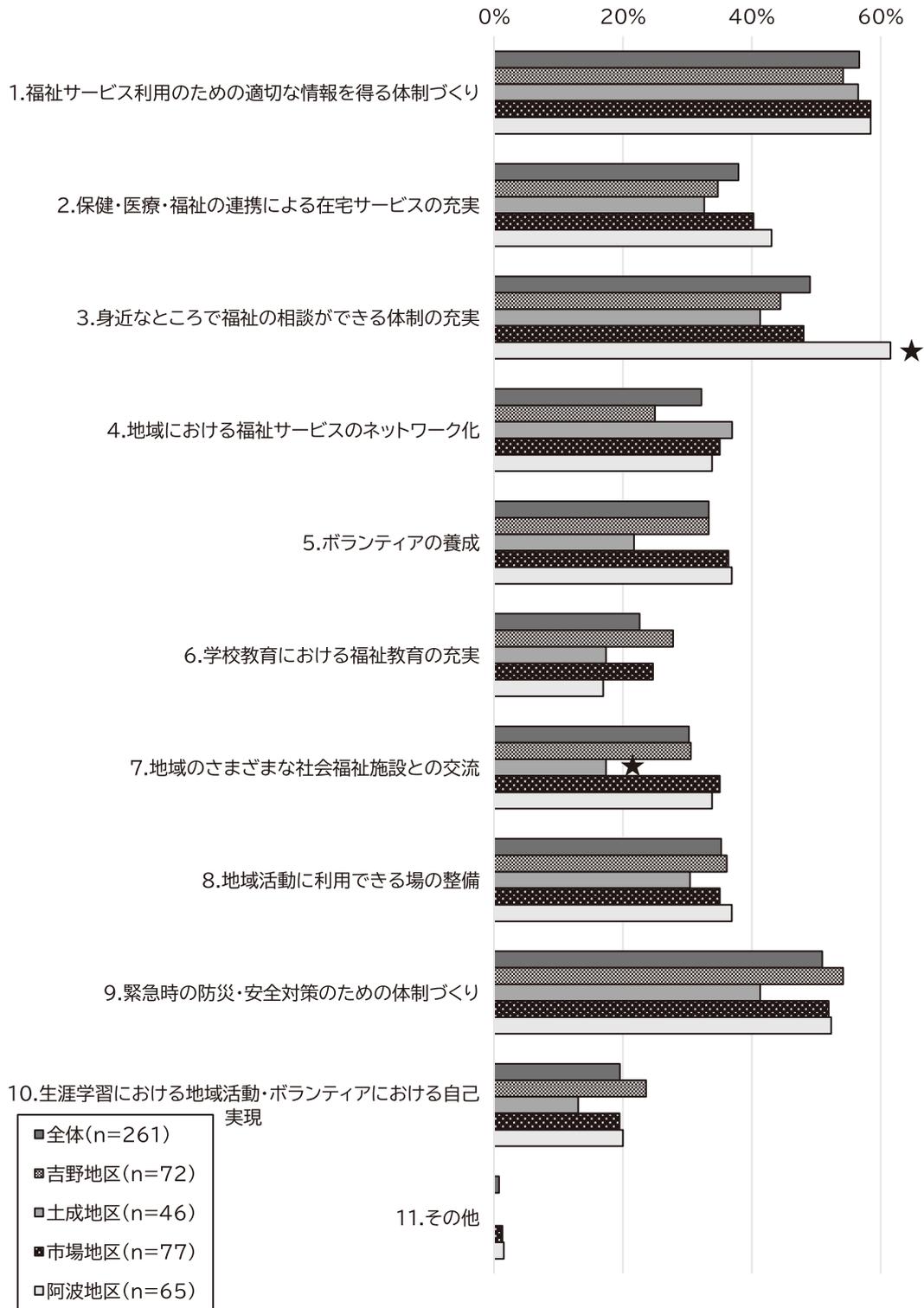
地域福祉に関わる個人、団体、行政、社協等との連携に関して、全体では「連携がとれていない」と回答した割合が6割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区がもっとも高く、吉野地区がもっとも低くなっていました。

地域福祉活動計画は、地域福祉活動の発展のためが目的であることから、より個人、団体、行政、社協等のつながりを強化していくことが重要であると考えられます。



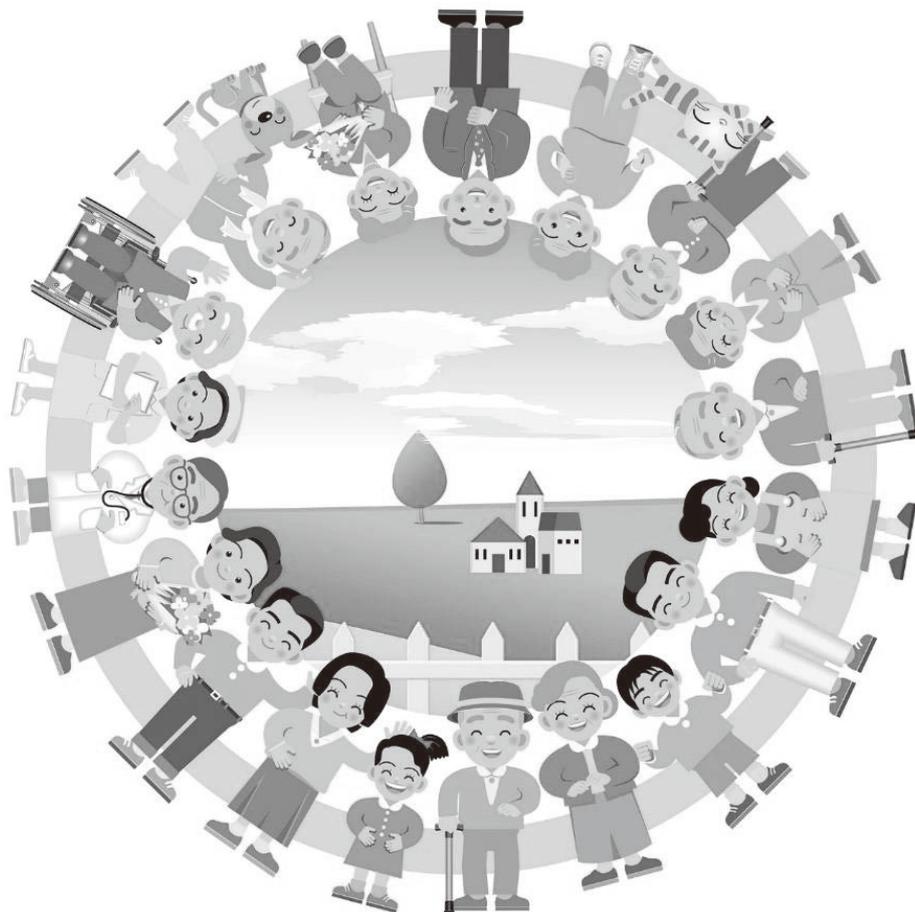
● 社会福祉協議会が行う活動・支援で充実してほしい事柄について



社会福祉協議会が行う活動・支援で充実してほしい事柄に関して、全体では「福祉サービス利用のための適切な情報を得る体制づくり」「緊急時の防災・安全対策のための体制づくり」「身近なところで福祉の相談ができる体制の充実」の順で割合が高くなっていました。

地区別では、阿波地区が全体と比較して「身近なところで福祉の相談ができる体制の充実」が極めて高く、土成地区が全体と比較して「地域のさまざまな社会福祉施設との交流」が極めて低くなっていました。

社協は、各地区における支所機能を活用し、阿波市における地域福祉活動拠点の要として大きな期待が寄せられています。



Ⅲ. 福祉サービスの充実と適切な利用の促進について

● 誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくための必要な事柄について



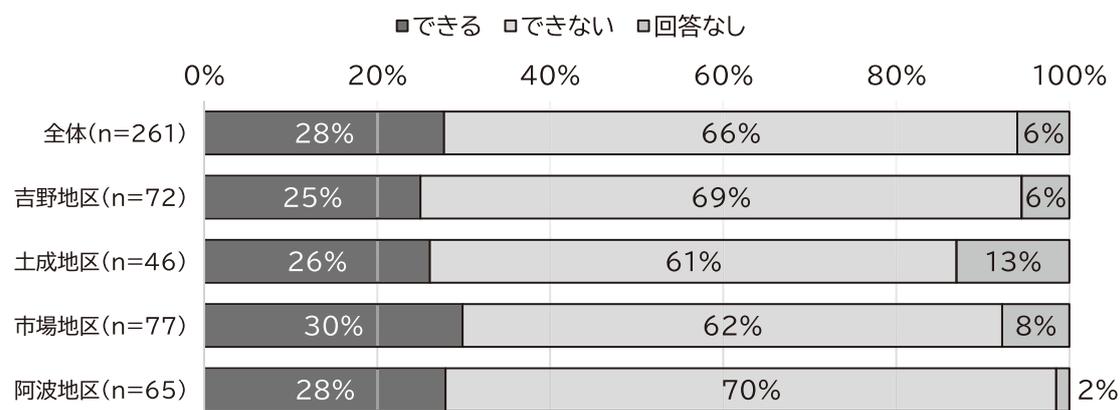
誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくための必要な事柄に関して、全体では「身近な場所での相談窓口を充実させる」と回答した割合がもっとも高く、次に「地域活動の中心となる人材を育てる」と「高齢者や障がいのある方を地域で支える取り組みを充実させる」でした。

地区別では「学校教育や社会教育での福祉教育を充実させる」が、吉野地区が全体と比べて極めて高く、阿波地区が極めて低くなっていました。

福祉サービスの充実と適切な利用の促進には、相談窓口と福祉教育のいっそうの充実が求められています。

IV. 安全・安心な地域づくりの推進

● 災害などの緊急事態が発生した場合の適切な避難について



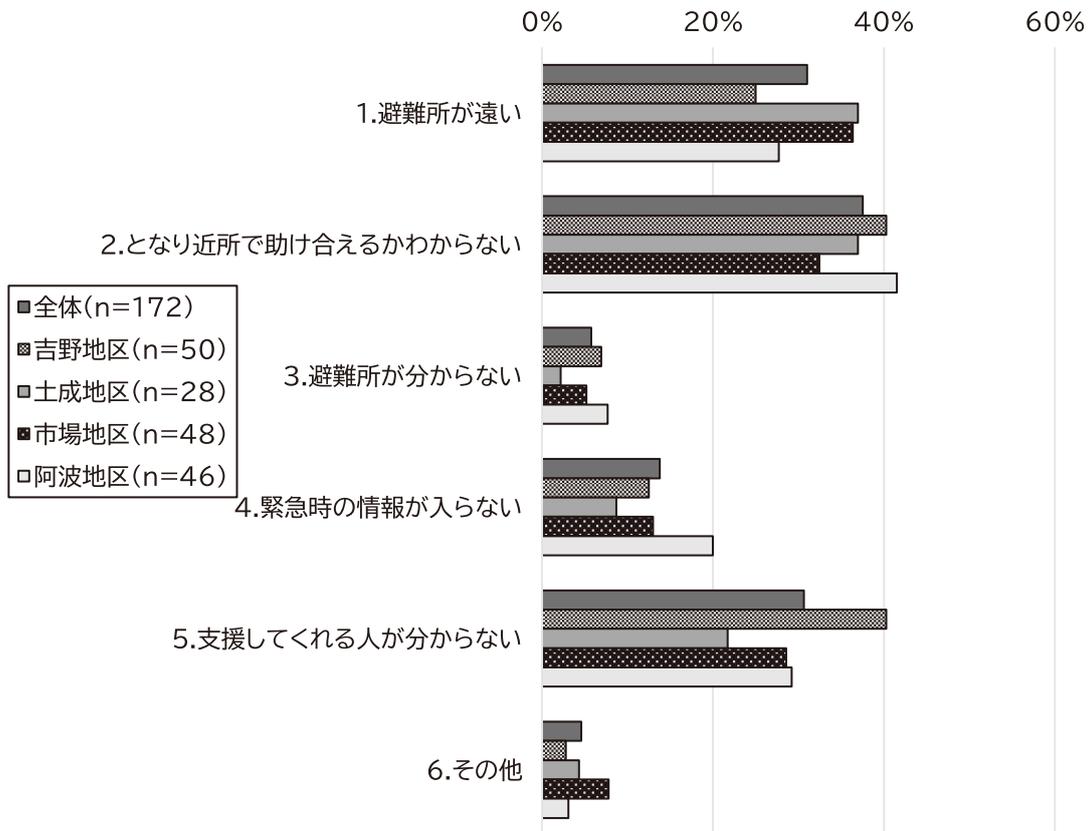
災害などの緊急事態が発生した場合の適切な避難に関して、全体では「避難できない」と回答した割合が6割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波、吉野地区が高く、土成地区が低くなっていました。

地区防災において、適切な避難は命を守るための必須事項です。そのため、まずは避難経路の確保や訓練、そして高齢者、障がい者といった災害弱者の避難方法について具体的に検討することが重要と考えられます。



● 避難できないと考えられる事柄について



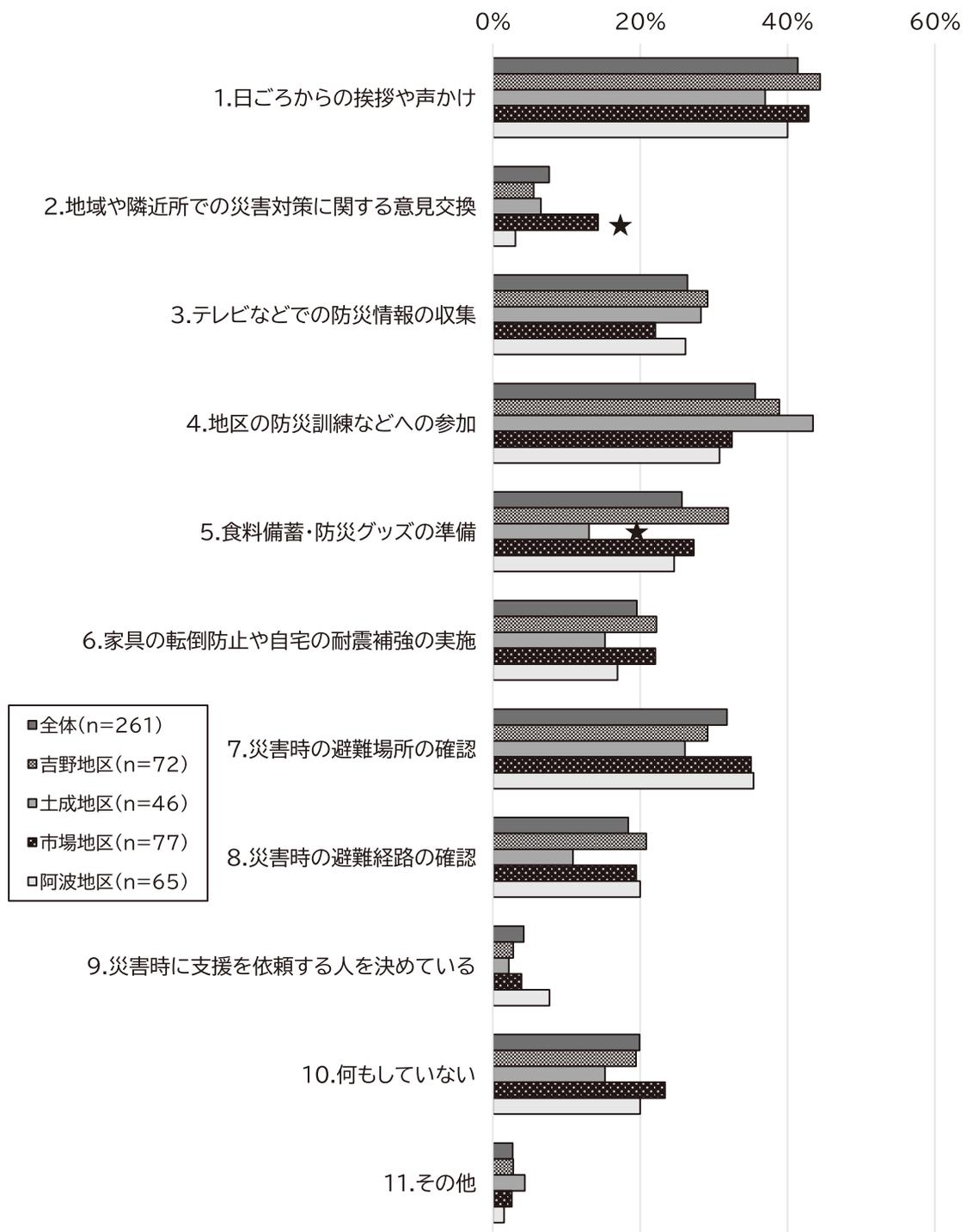
避難できないと考えられる事柄に関して、全体では「となり近所で助け合えるかわからない」の回答の割合がもっとも高く、次に「避難所が遠い」と「支援してくれる人が分からない」でした。

地区別では「となり近所で助け合えるかわからない」が吉野と阿波地区、「避難所が遠い」が土成と市場地区、「支援してくれる人が分からない」が吉野地区の割合が高くなっていました。

避難できない事柄に関して、平時からとなり近所での助け合いの機運を高め、避難所が遠い場合は、避難所までの移動支援について検討することが必要と考えられます。



● 災害の発生に備えた日ごろからの話し合いや準備について

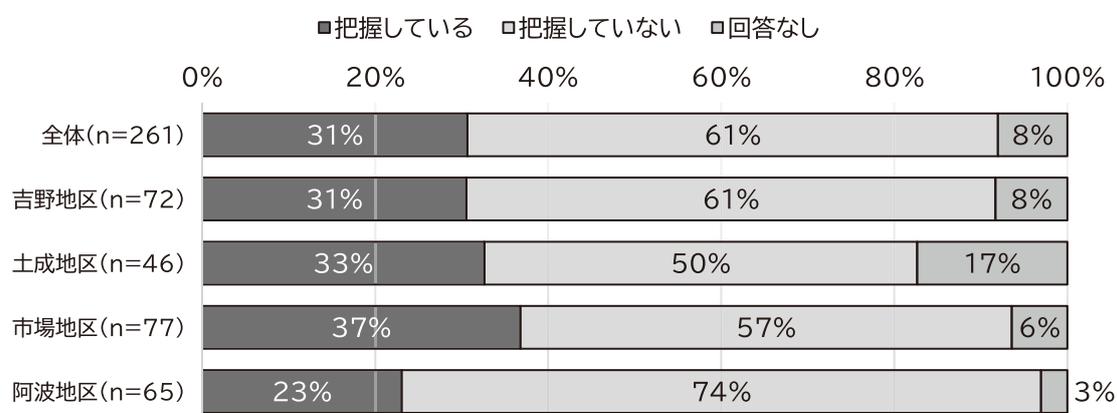


災害の発生に備えた日ごろからの話し合いや準備に関して、全体では「日ごろからの挨拶や声かけ」の割合がもっとも高く「地区の防災訓練などへの参加」「災害時の避難場所の確認」の順となっていました。

地区別では「地域や隣近所での災害対策に関する意見交換」について市場地区が極めて高く「食料備蓄・防災グッズの準備」について土成地区が極めて低くなっていました。

災害の発生に備えた日ごろからの話し合いや準備については、普段から地区ごとに協議を重ねておくことが重要であり、そこで挙がった課題や情報を常に更新していくことが求められます。

● 災害発生時の避難場所への移動に援助が必要な高齢者等の把握について



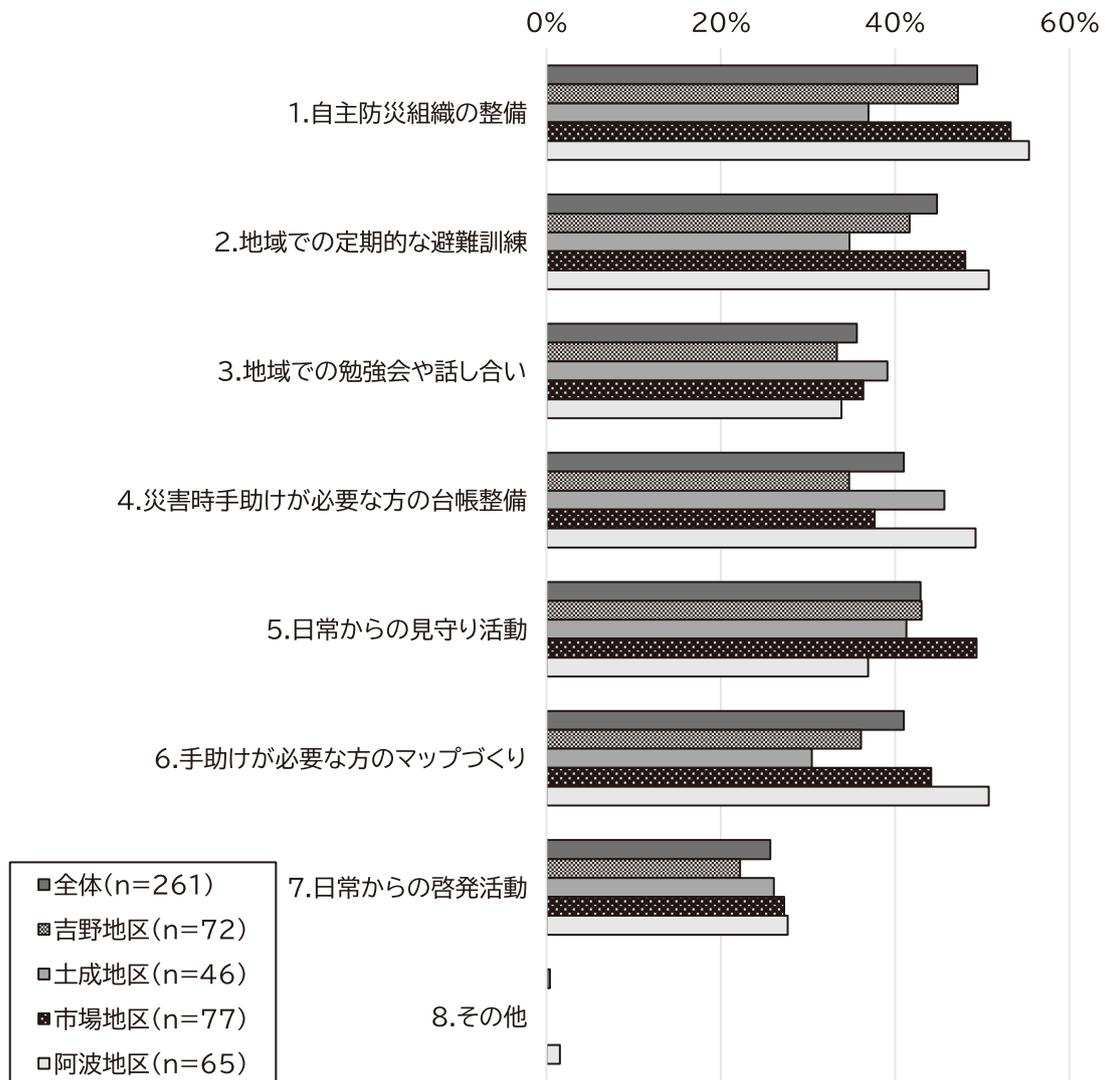
災害発生時の避難場所への移動に援助が必要な高齢者等の把握に関して、全体では「把握していない」が約6割となっていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区がもっとも高く、土成地区がもっとも低くなっていました。

災害発生時の避難場所への移動に援助が必要な高齢者等を事前に把握しておくことが望ましいですが、名簿の作成など、個人情報の取り扱いが障壁となっている背景も伺えることから、阿波市との連携が重要と考えられます。



● 災害時に住民が支え合う地域づくりに必要な事柄について

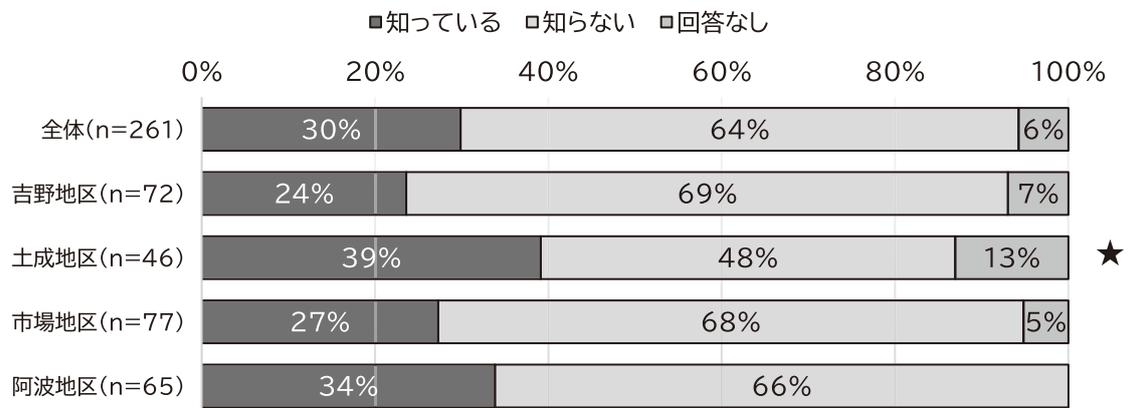


災害時に住民が支え合う地域づくりに必要な事柄に関して、全体では「自主防災組織の整備」「地域での定期的な避難訓練」「日常からの見守り活動」の割合が高くなっていました。

地区別では「自主防災組織の整備」と「地域での定期的な避難訓練」について阿波地区が高く、「日常からの見守り活動」は市場地区が高くなっていました。

防災は、地区によって背景や人々の向き合い方が異なるため、画一的な方策ではなく、より地域に寄り添ったあり方が求められます。

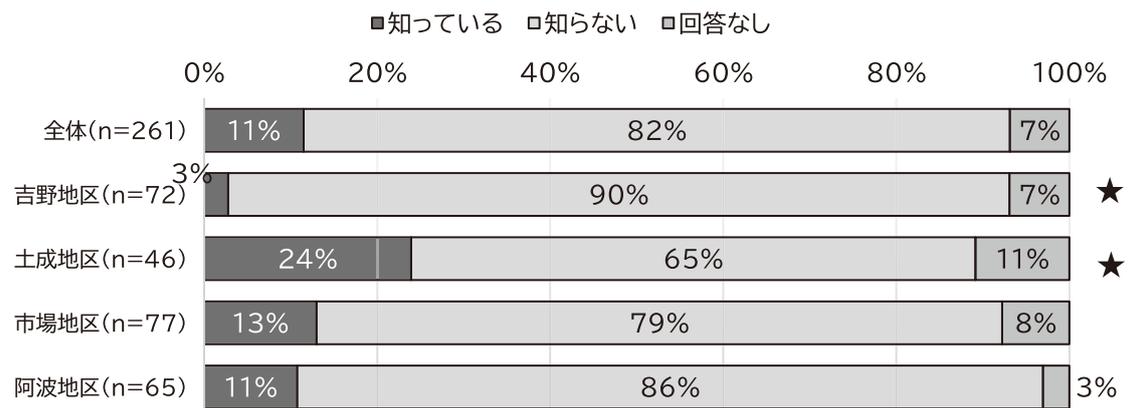
● 阿波市成年後見利用促進基本計画の認知度について



阿波市成年後見利用促進基本計画の認知度に関して、全体では「知らない」と回答した割合が6割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、吉野地区がもっとも高く、土成地区がもっとも低くなっていました。

● 阿波市再犯防止推進計画の認知度について



全体では、阿波市再犯防止推進計画について「知らない」と回答した割合が8割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区が極めて高く、土成地区が極めて低くなっていました。

● 具体的意見のまとめ

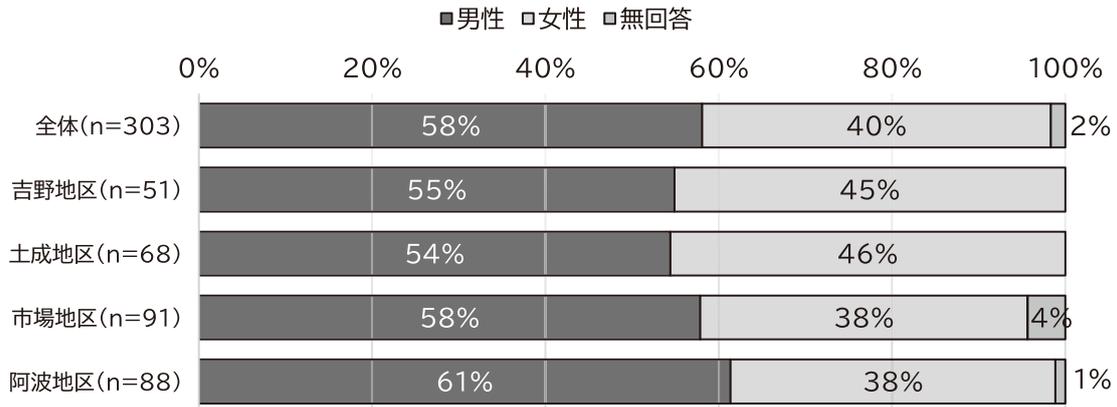
全体では、第2次地域福祉活動計画は、新型コロナウイルスのパンデミックなどを経験し、人とのつながり、関係機関とのつながりなど、あらゆるつながりが希薄しました。そのため、孤独・孤立する高齢者や障がい者の方も増え、地域力の低下が顕著にみられた、という意見が多かったです。

地区別では、吉野地区は若い世代の地域福祉活動への参加、活動の見える化を望む意見が多く、土成地区では、行動制限による活動の低下、活動に誘っても参加してくれない方へのアプローチなどが課題という意見が聞かれました。市場地区では、休日などの相談窓口の設置や社協活動の推進の要望が挙がり、阿波地区では、マンパワー不足、地域福祉活動の広報のあり方が聞かれました。



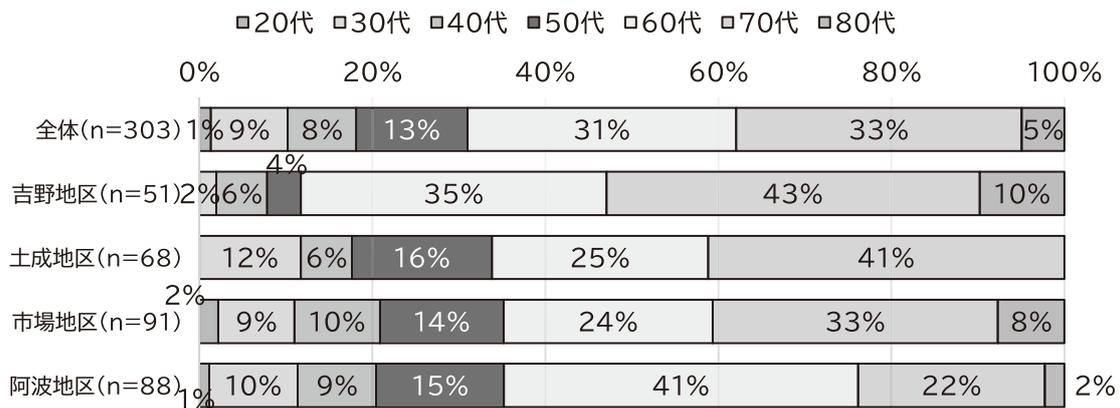
第3節 一般市民のアンケート調査結果・分析

● 性別について



性別に関して、全体では、女性に比べて男性の割合が多く、約6割でした。地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区がもっとも高く、土成地区がもっとも低くなっていました。

● 年代について

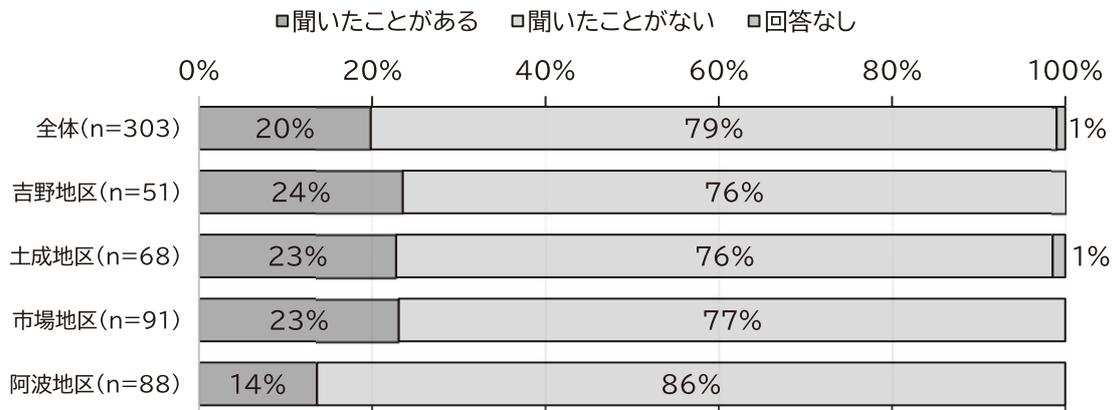


年代に関して、全体では、70代の割合がもっとも高く、次に60代でした。20代、30代は、合わせて1割でした。

地区別では、吉野、土成、市場地区が全体と同様の傾向を示し、阿波地区は、60代がもっとも高くなっていました。

地域福祉活動をより発展させていくには、若い世代の関心を集める工夫が必要と考えられます。

● 第2次地域福祉本計画(2019年度～2023年度)の認知度について

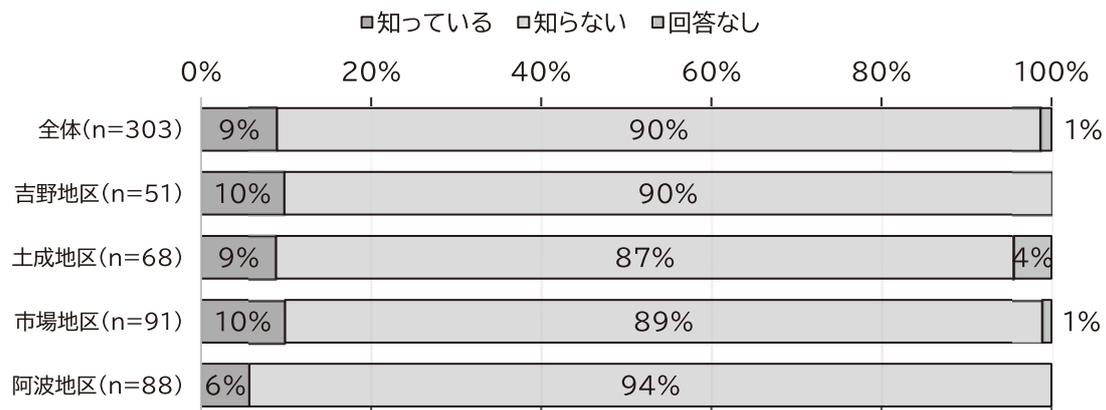


第2次地域福祉本計画(2019年度～2023年度)の認知度に関して、全体では「聞いたことがない」の割合が約8割でした。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区は8割を超えていました。

本計画をより一般市民の方に知ってもらうためには、情報発信の方法の検討が必要と考えられます。

● 第2次地域福祉本計画の内容の認知度について



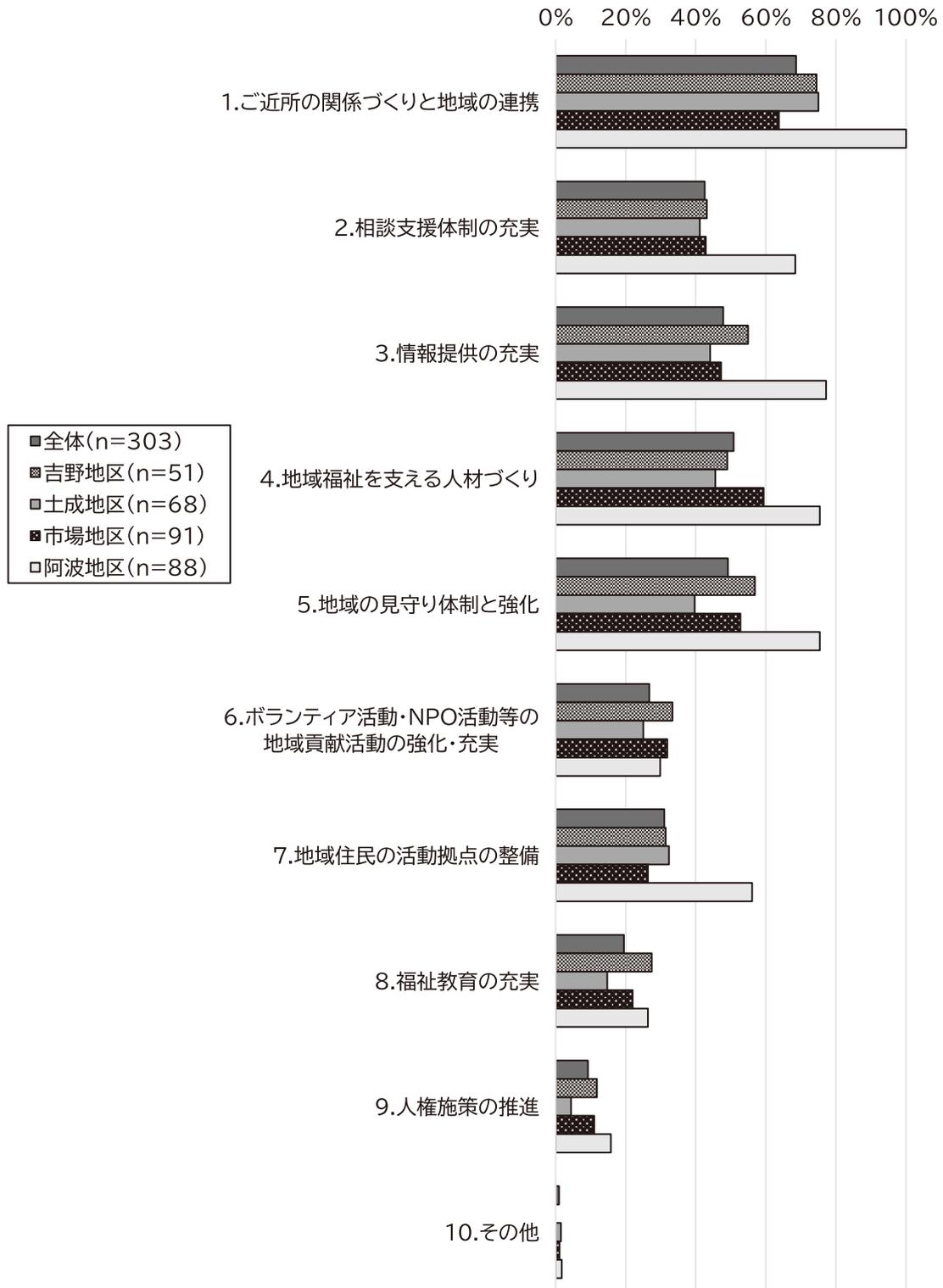
第2次地域福祉本計画の内容の認知度に関して、全体では「知らない」と回答した割合が9割でした。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区は9割を超えていました。

本計画の内容を一般市民の方に知ってもらうためには、内容を共有するための場が必要と考えられます。

I. 地域福祉活動の推進について

● 地域福祉活動を推進するにあたって重要な事柄について

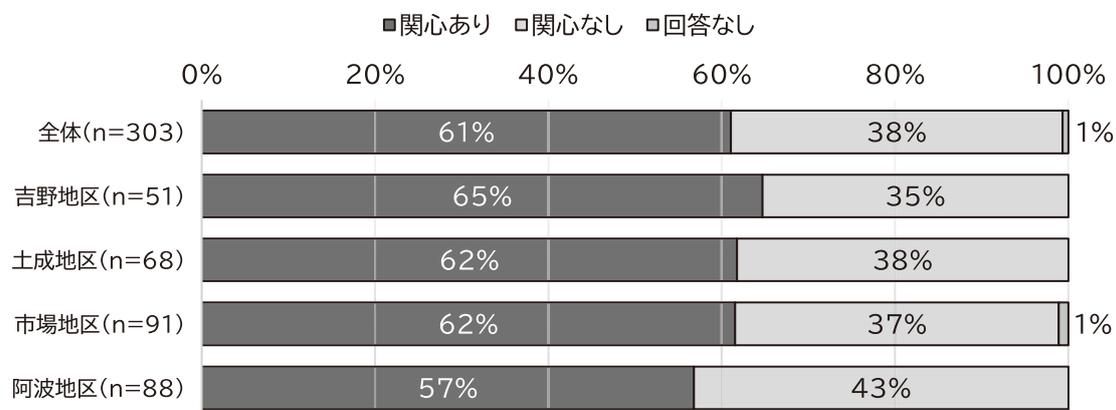


地域福祉活動を推進するにあたって重要な事柄に関して、全体では「ご近所の関係づくりと連携」が6割を超え「地域を支える人材づくり」「地域の見守り体制の強化」「情報提供の充実」の割合が高くなっていました。

地区別では「ご近所の関係づくりと連携」について阿波地区が10割ともっとも高く、他の地域は、全体と同様の傾向を示していました。

地域福祉活動は、地域におけるご近所の関係づくりが重要であり、交流の機会を増やす方法の検討が必要です。

● 地域福祉に関わる活動への関心について



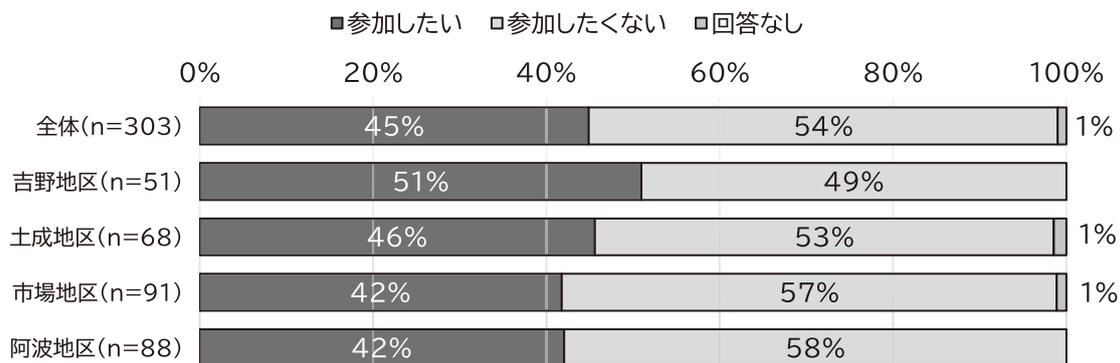
地域福祉に関わる活動への関心に関して、全体では「関心あり」の割合が約6割となっていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、吉野地区がもっとも高く、阿波地区が低くなっていました。

一般市民の方は、地域福祉に関わる活動へ高い関心を示しており、それを具体的な活動につないでいくことが重要です。



● 地域福祉に関わる勉強会や研修への参加について

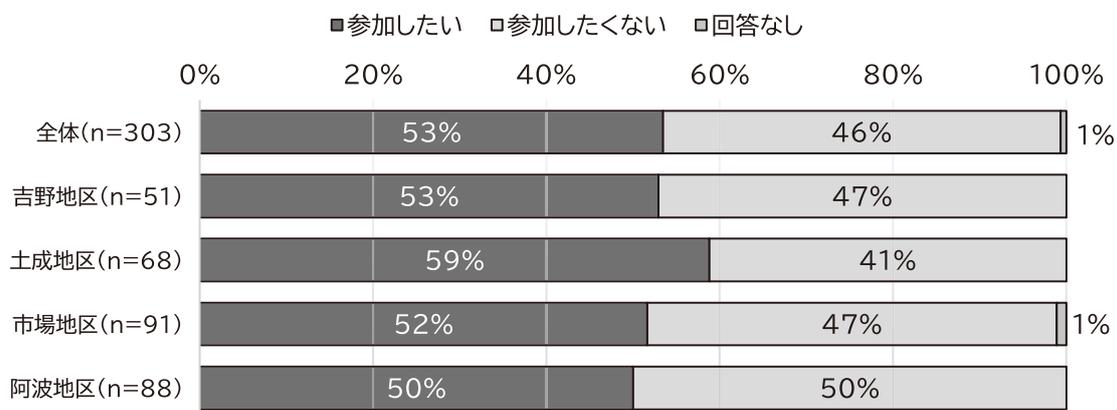


地域福祉に関わる勉強会や研修への参加に関して、全体では「参加したい」が4割を超えていました。

地区別では、吉野地区が5割を超え、市場地区と阿波地区が約4割でした。

地域福祉活動の推進に人材の育成が欠かせないことから、一般市民に届く情報提供を行い、多くの人に参加してもらう工夫が必要です。

● 地域の各種行事やイベントに参加について



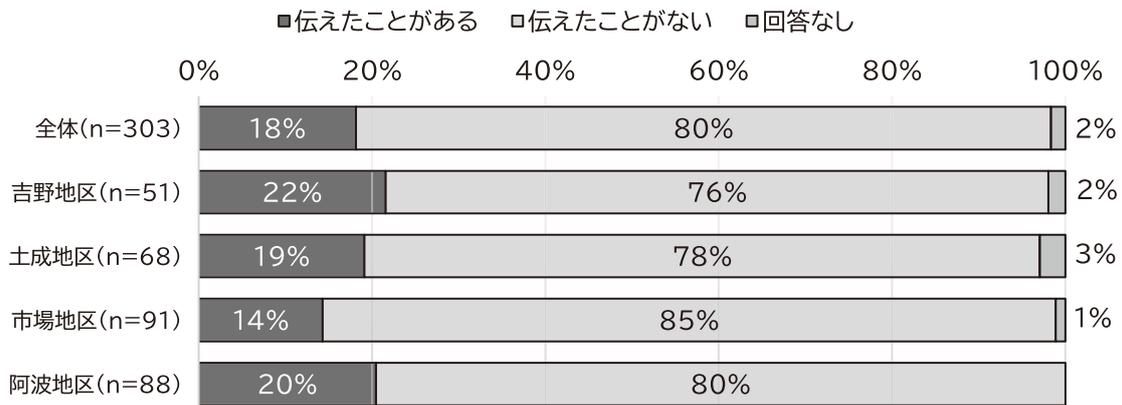
地域の各種行事やイベントに参加に関して、全体では「参加したい」の割合が5割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、土成地区がもっとも高く、阿波地区が低くなっていました。

地域コミュニティを形成する上で、一般市民における地域の各種行事やイベントへの参加意識が高いことから、多様な情報発信が求められます。

Ⅱ. 地域福祉のネットワーク構築について

● 行政や地域福祉に関わる団体などに、日々暮らしていく中で感じたことや意見を伝えた経験について

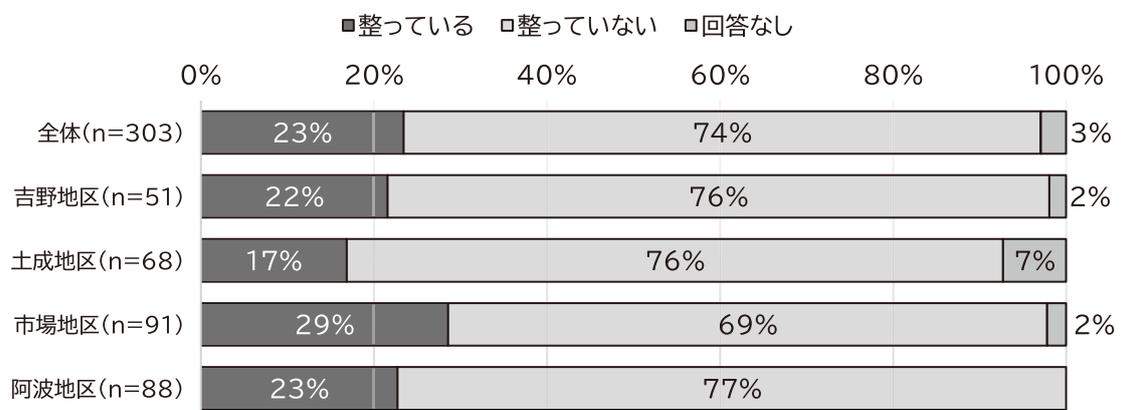


行政や地域福祉に関わる団体などに、日々暮らしていく中で感じたことや意見を伝えた経験に関して「伝えたことがない」の割合が8割となりました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、市場地区がもっとも高く、吉野地区が低くなっていました。

行政や地域福祉に関わる団体などに、日々暮らしていく中で感じたことや意見を伝えることは、関係強化の観点から重要であり、円滑な相互間の意思疎通が必要と考えられます。

● 福祉サービスについて、必要な情報を得る仕組みが整っていることについて

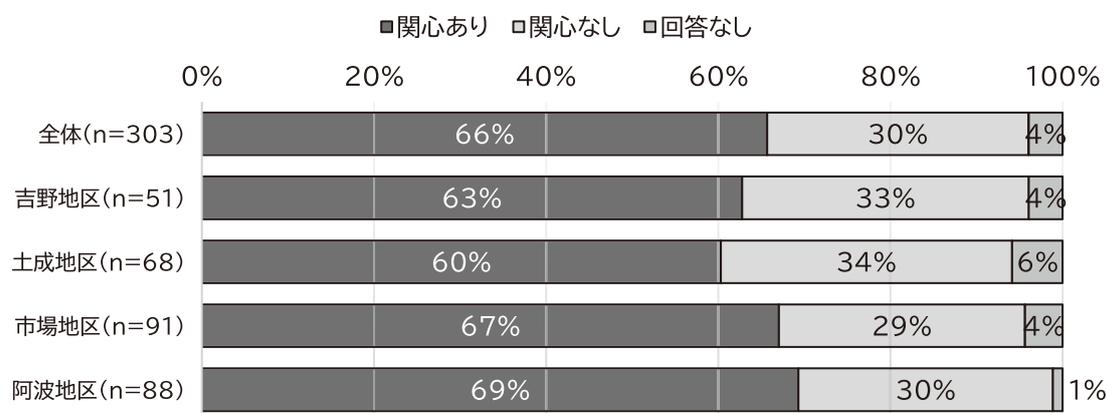


福祉サービスについて、必要な情報を得る仕組みが整っていることに関して、全体では「整っていない」の割合が7割を超えていました。

地区別では、阿波地区がもっとも高く、市場地区がもっとも低くなっていました。

必要な情報を得る仕組みは、広報紙やホームページなどで発信していますが、いっそうの仕組みづくりが求められます。

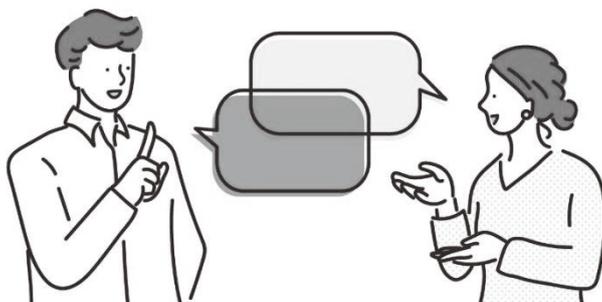
● 自分の周囲やご近所の方で困りごとを抱えている人への関心について



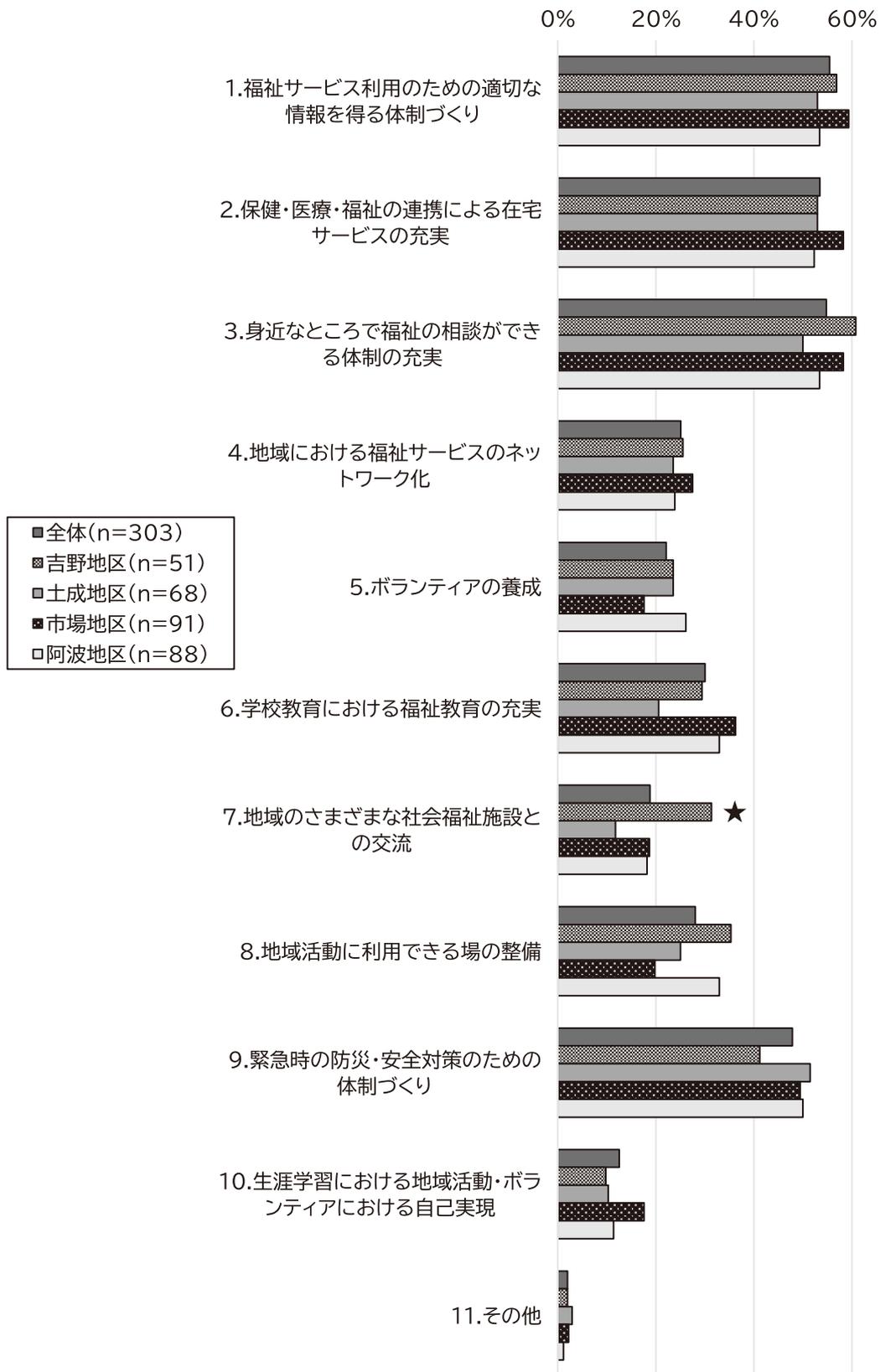
自分の周囲やご近所の方で困りごとを抱えている人への関心について、全体では「関心あり」が6割を超えていました。

地区別では、阿波地区がもっとも高く、土成地区がもっとも低くなっていました。

周囲の人が困っている際に、手を差し伸べたいと思っている人が多くいることから、地域福祉活動をいっそう高め、一般市民の力が活かせるような取り組みの検討が必要と考えられます。



● 社会福祉協議会が行う活動・支援で充実してほしい事柄について



社協が行う活動・支援で充実してほしい事柄に関して、全体では「身近なところで福祉の相談ができる体制の整備」と「福祉サービス利用のための適切な情報を得る体制づくり」の割合が高く、次に「保健・医療・福祉の連携による在宅サービスの充実」と「緊急時の防災・安全対策のための体制づくり」でした。

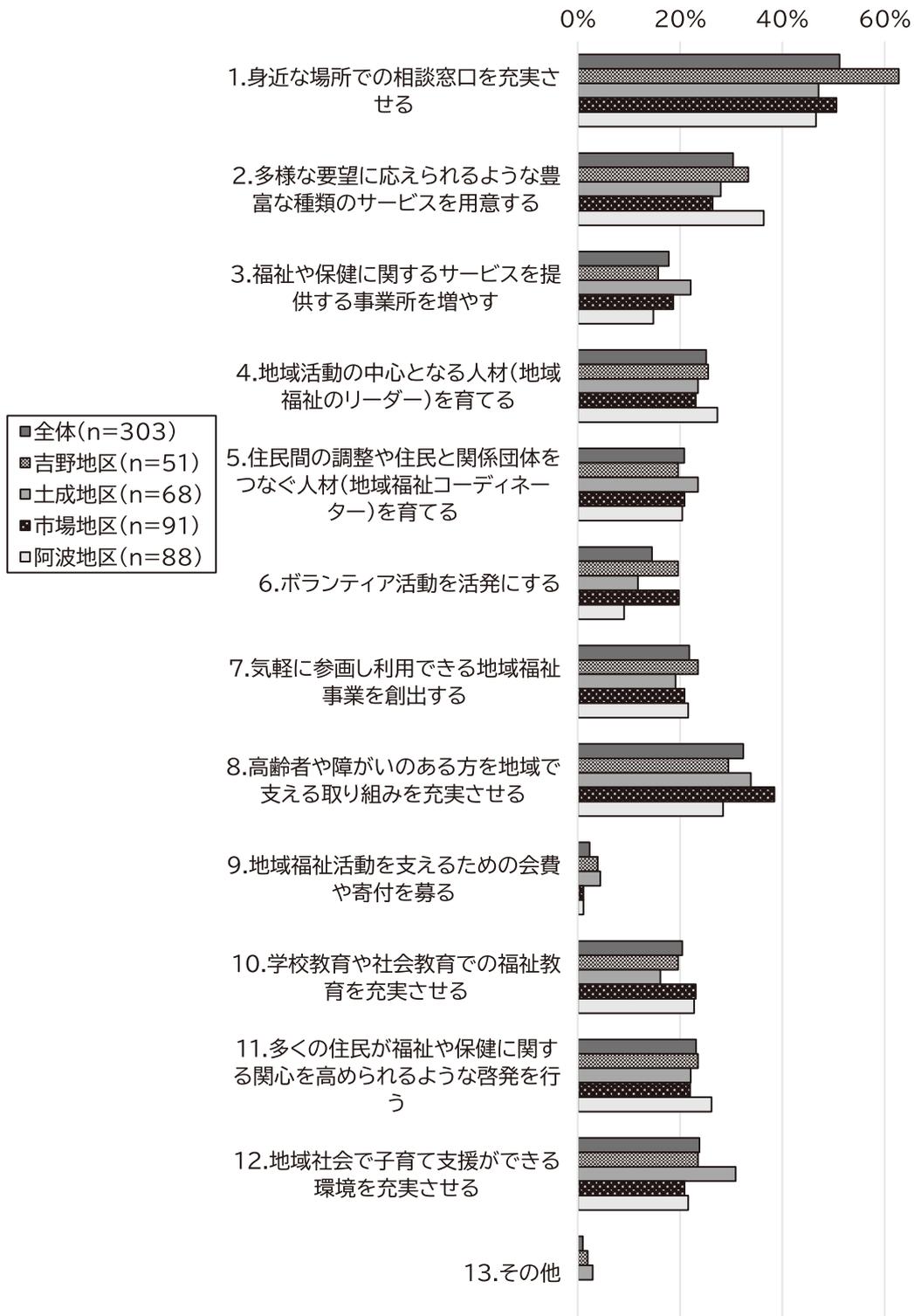
地区別では「地域のさまざまな社会福祉施設との交流」について、吉野地区が全体と比べて極めて高くなっていました。

一般市民が抱く多様なニーズを汲み取り問題を解決していくには、社協の体制強化が必要と考えられます。



Ⅲ. 福祉サービスの充実と適切な利用の促進について

● 誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために必要な事柄について

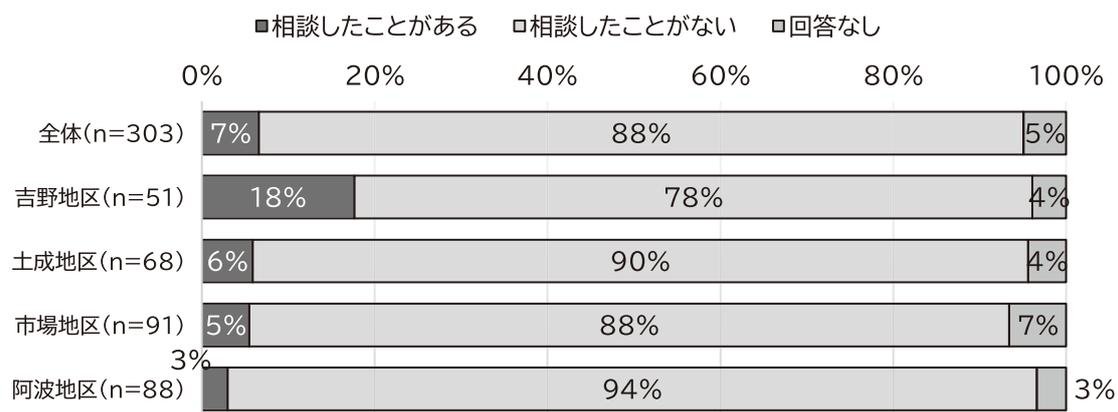


誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために必要な事柄に関して、全体では「身近な場所での相談窓口を充実させる」の割合が高く、残りの項目については4割以下となっていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し「身近な場所での相談窓口を充実させる」の吉野地区が6割を超えていました。

身近な場所での相談窓口の充実には、出向いていくアウトリーチ的な相談体制の充実が必要と考えられます。

● 地域で暮らしていく中での困りごとを地域福祉活動に関わる人(団体)に相談した経験について



地域で暮らしていく中での困りごとを地域福祉活動に関わる人(団体)に相談した経験に関して、全体では「相談したことがない」が約9割となっていました。

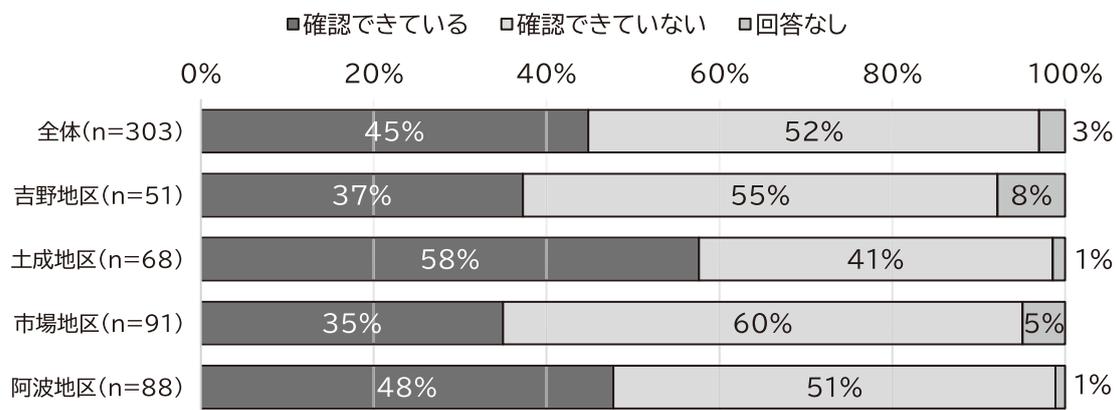
地区別では、阿波地区がもっとも高く、吉野地区が低くなっていました。

困りごとの相談をする場合「相談しやすい」という心理的要因や「相談する場所をあらかじめ知っている」という要素などが重要と考えられることから、相談される側の姿勢や場所の啓発が必要と考えられます。



IV. 安心安全な地域づくりの推進について

● 災害発生時の避難経路や避難方法の事前確認について



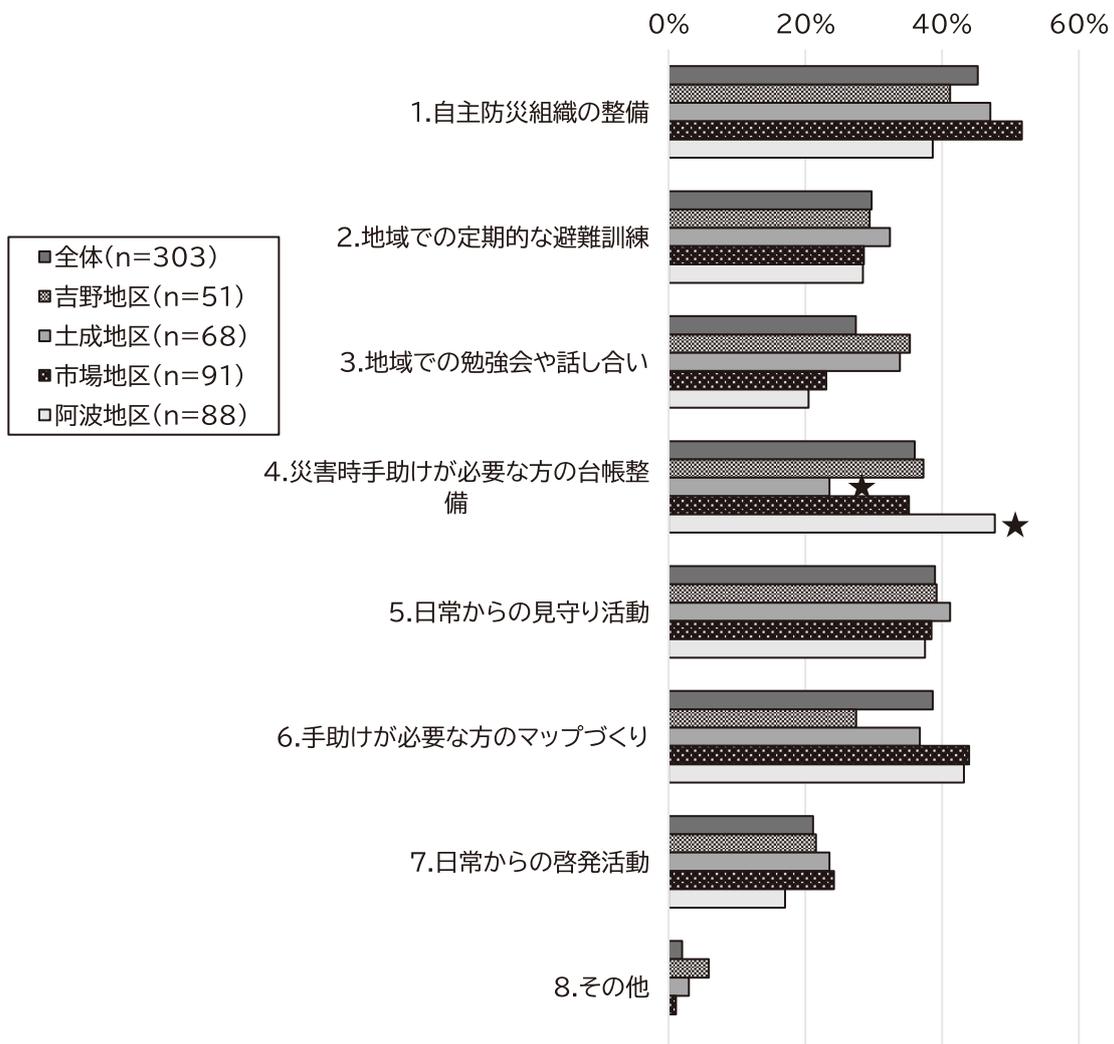
災害発生時の避難経路や避難方法の事前確認に関して、全体では「確認できていない」が5割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示したのは、吉野、市場、阿波地区でしたが、土成地区は、逆に「確認できている」とした割合が高くなっていました。

災害発生時の避難経路や避難方法の周知は重要であり、今後も訓練などを通じて、確認の浸透を図っていくことが必要と考えられます。



● 災害時に住民が支え合う地域づくりに必要な事柄について



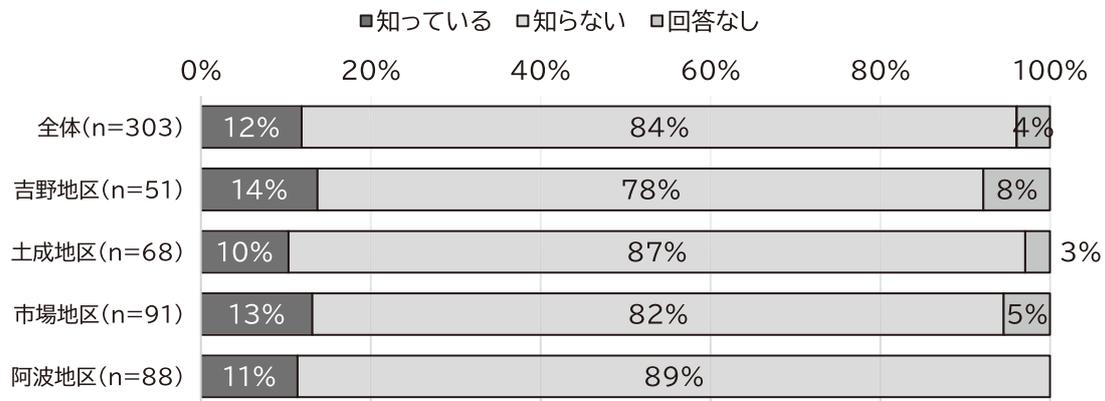
災害時に住民が支え合う地域づくりに必要な事柄に関して、全体では「自主防災組織の整備」が、次に「日常からの見守り活動」の割合が高くなっていました。

地区別では「災害時手助けが必要な方の台帳整備」について、土成地区が全体と比べて極めて低く、阿波地区が極めて高くなっていました。

大きな災害に備えて、一般市民を含めた自主防災組織を整備し、優先的に避難を手助けする方の台帳を阿波市と連携し共有しておくことが求められます。



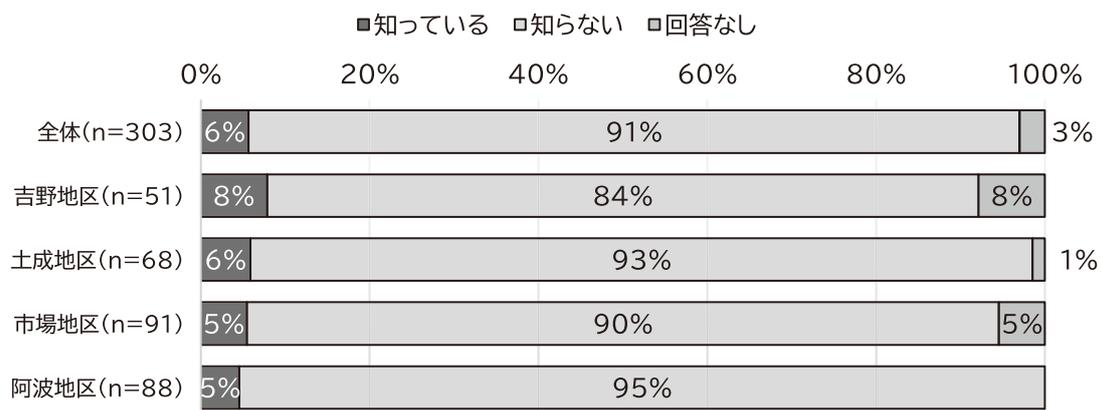
● 阿波市成年後見利用促進基本計画の認知度について



阿波市成年後見利用促進基本計画の認知度に関して、全体では「知らない」と回答した割合が8割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区がもっとも高く、吉野地区がもっとも低くなっていました。

● 阿波市再犯防止推進計画の認知度について



全体では、阿波市再犯防止推進計画について「知らない」と回答した割合が9割を超えていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し、阿波地区がもっとも高く、吉野地区が低くなっていました。

● 具体的意見のまとめ

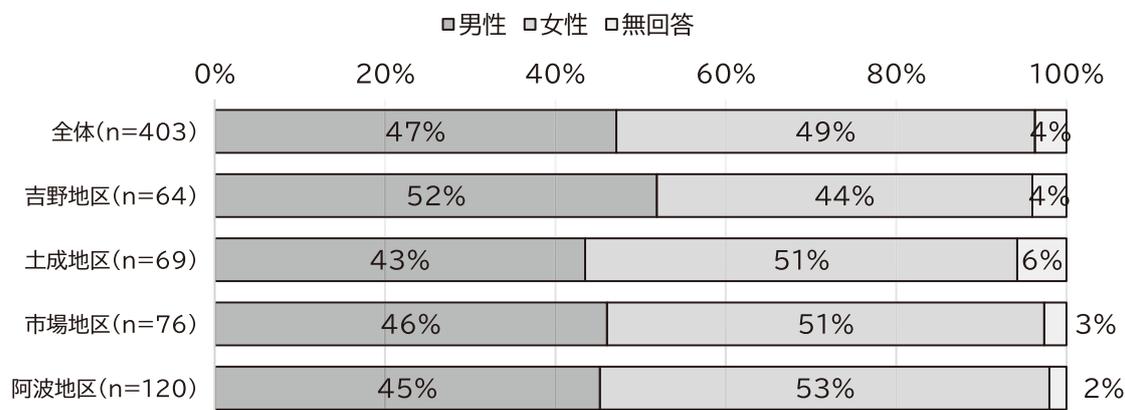
全体では、阿波市全体が高齢化・人口減少を迎えている中で「地域福祉活動に参加したい」や「活動内容をもっと知りたい」という意見が多く聞かれました。また、防災に関しての関心が高く、定期的な防災訓練の実施や避難経路と避難場所の積極的な確認が必要との意見も散見されました。

地区別では、吉野地区は、地域福祉活動への参加を躊躇する理由として、人間関係の希薄化という意見も聞かれ、また、参加促進のための広報のあり方を問う声もありました。土成地区は、中央構造線に近いため防災面での意見が多く集まり、市場地区は、本計画の実行性を高く望む声がありました。阿波地区は、災害発生時の高齢者や障がいのある人の対応を懸念する意見や社協との連携をいっそう望む声が聞かれました。



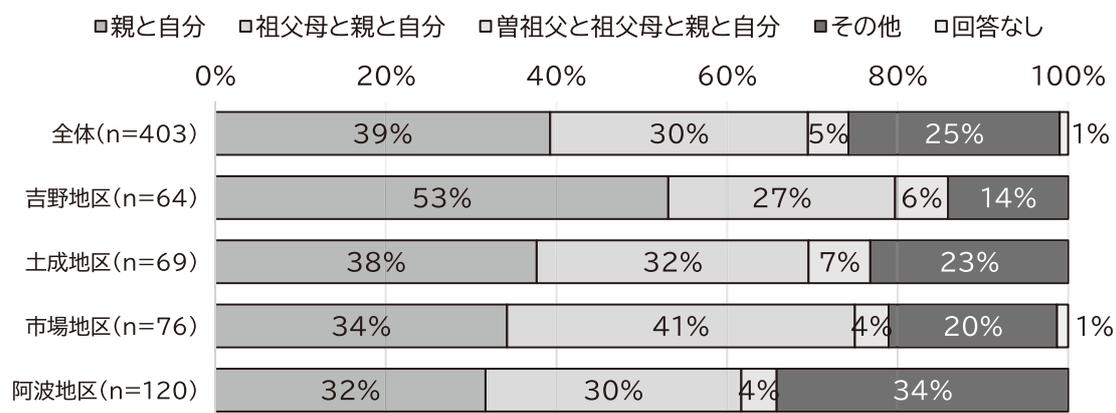
第4節 中高生のアンケート調査結果・分析

● 性別について



性別に関して、全体では、男女の比率は半々でした。
 地区別では、阿波、土成地区において、女性の方が若干高くなっていました。

● 家族構成について

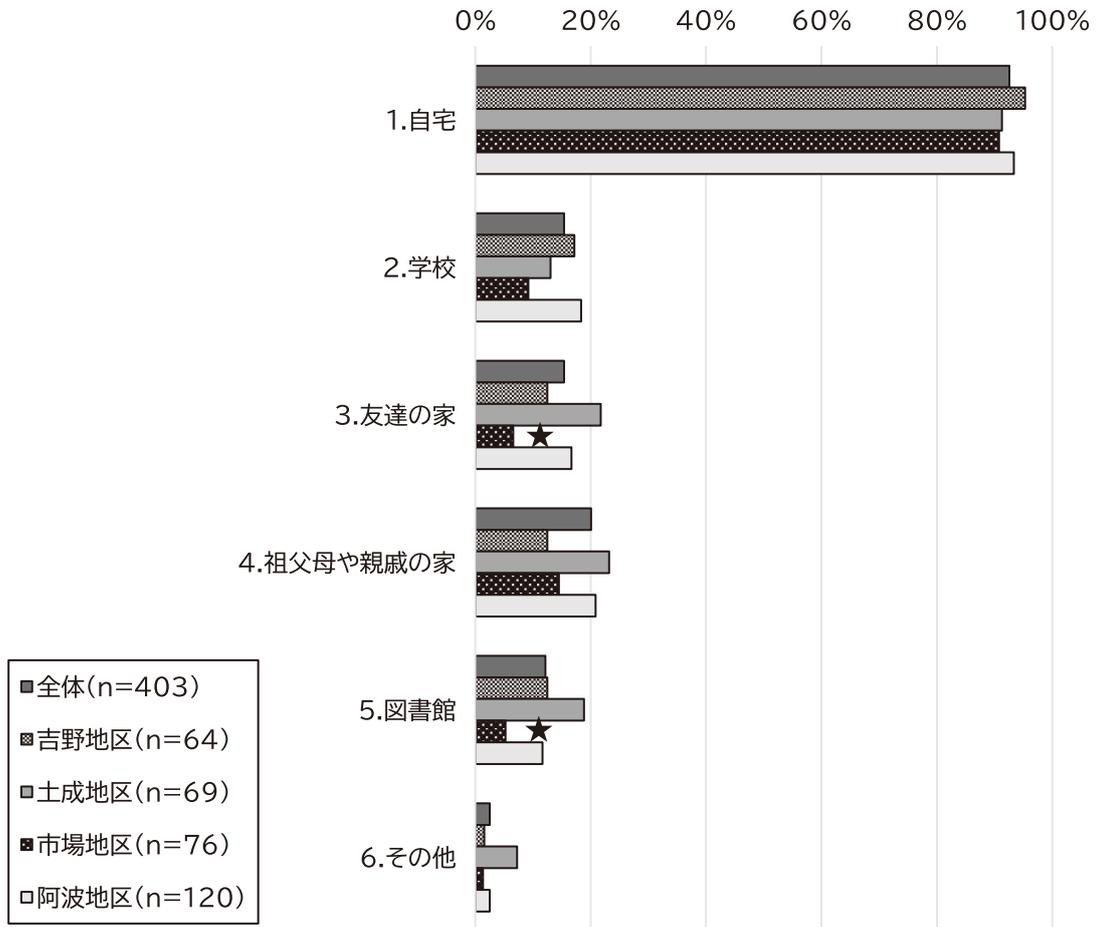


家族構成に関して、全体では「親と自分」の割合がもっとも高く、次いで「祖父母と親と自分」でした。

地区別では「親と自分」について吉野地区がもっとも高く、阿波地区が低くなっていました。「祖父母と親と自分」については、市場地区がもっとも高く、吉野地区が低くなっていました。

3世代同居家族が3割を占めていることから、核家族中心の都市型地域とは異なることが分かりました。

● 落ち着く(心が安らぐ)場所について



落ち着く(心が安らぐ)場所に関して、全体では「自宅」の割合がもっとも高く、次に「祖父母や親戚の家」でした。

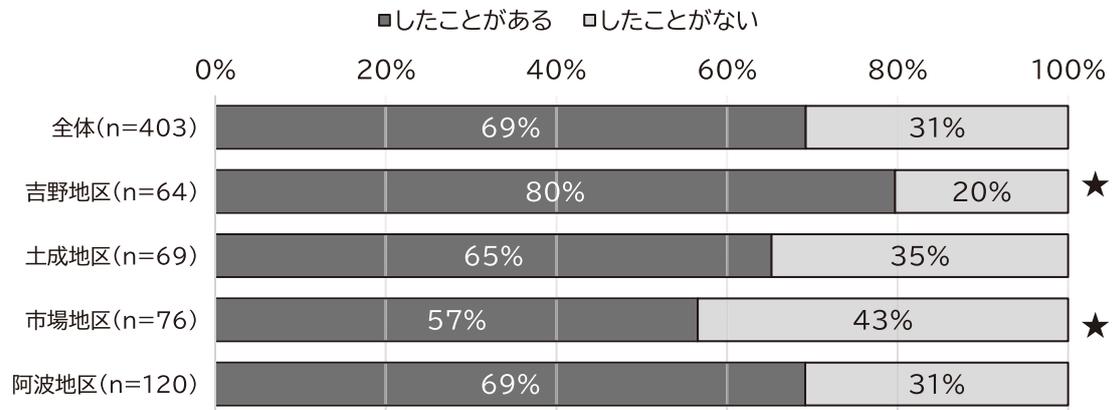
地区別では、全体と同様の傾向を示し「友達の家」・「図書館」の市場地区が全体と比べて極めて低くなっていました。

落ち着く(心が安らぐ)場所とは、中高生にとっての居場所であり、多様な居場所を有する(提供する)ことにより、魅力ある地域になると考えられます。



● ボランティア活動について

*ボランティア活動とは、缶拾いや町内会活動、道路・河川清掃などのことで、家でのお手伝いは含みません。

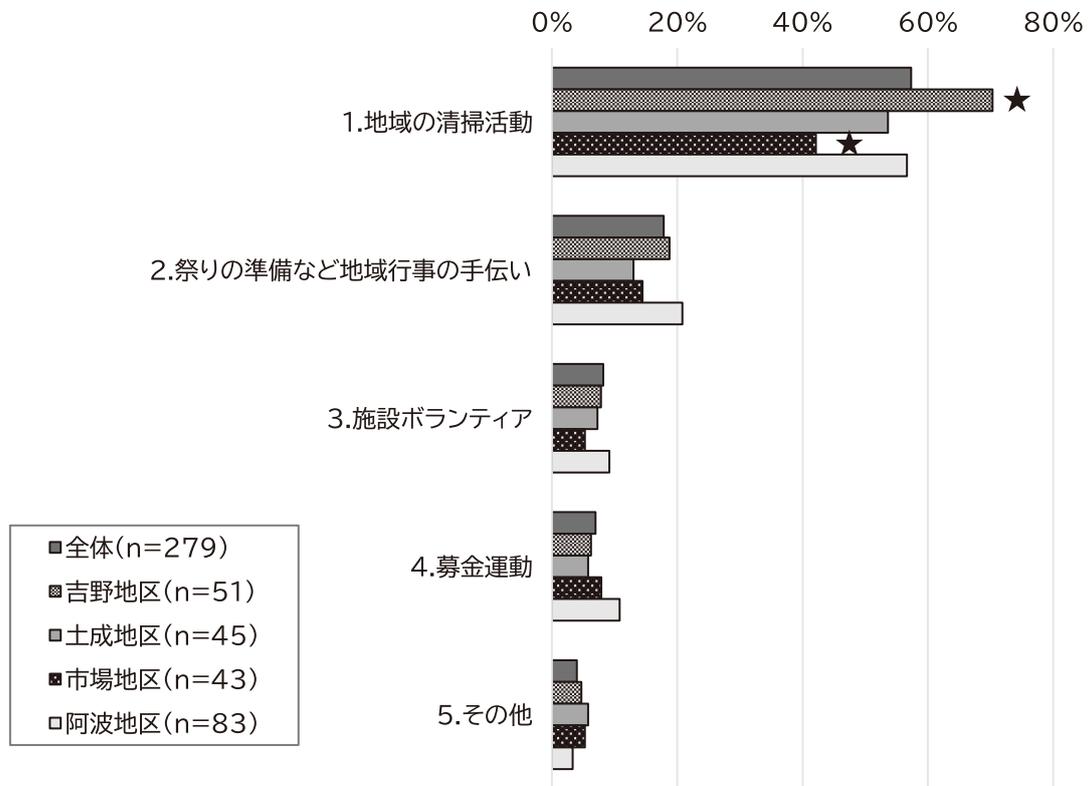


ボランティア活動に関して、全体では「したことがある」が約7割でした。地区別では「したことがある」は吉野地区が全体と比べて極めて高く、市場地区が極めて低くなっていました。

地区によってボランティア活動の経験に差があることから、活動の場の提供と均一な情報発信が求められます。



● ボランティア活動の内容について(経験があると回答した者)



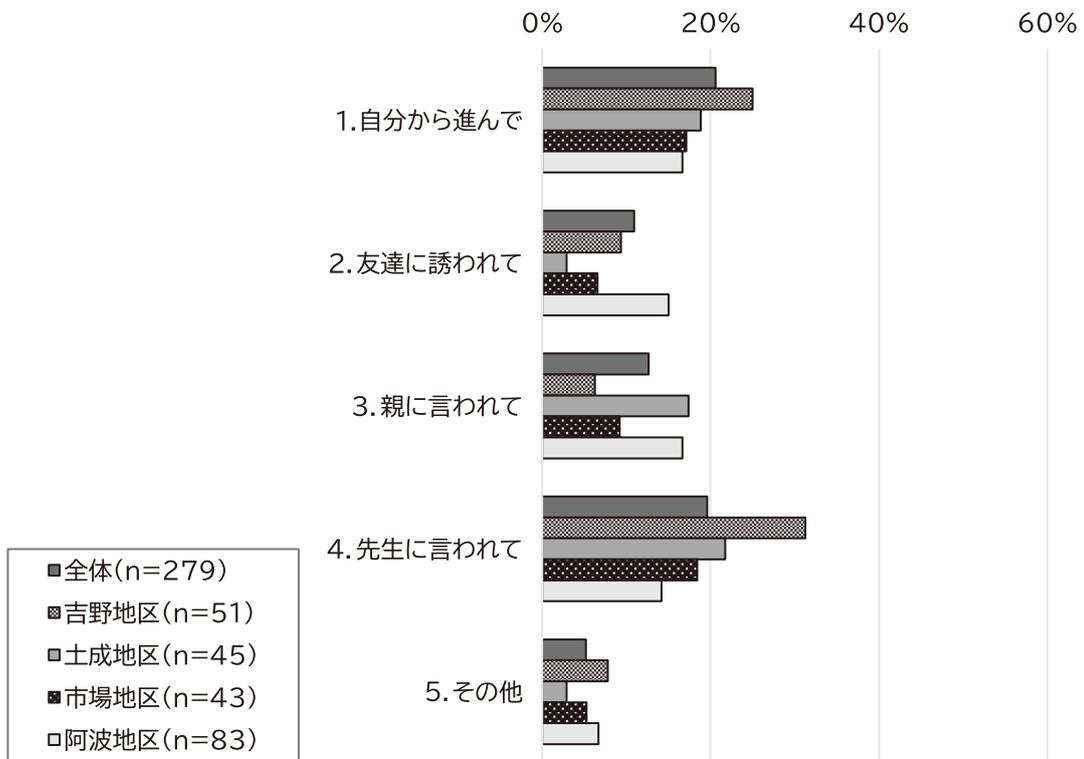
ボランティア活動の内容に関して「地域の清掃活動」の割合がもっとも高く、次いで「祭りの準備など地域行事の手伝い」でした。

地区別では「地域の清掃活動」は吉野地区の割合が極めて高く、市場地区は極めて低くなっていました。

ボランティア活動には、様々な内容がありますが、中高生におけるボランティア活動の入口として地域の清掃活動がもっとも参加しやすい内容と考えられます。



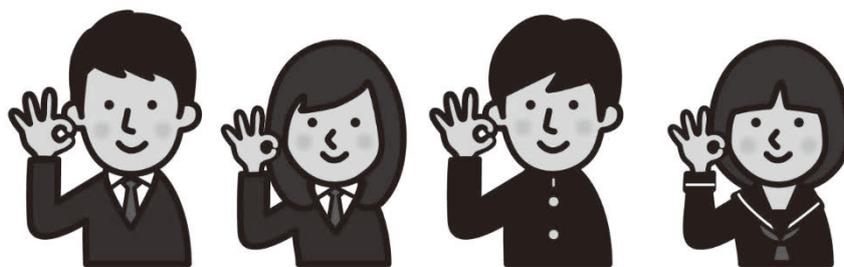
● ボランティア活動のきっかけについて(経験があると回答した者)



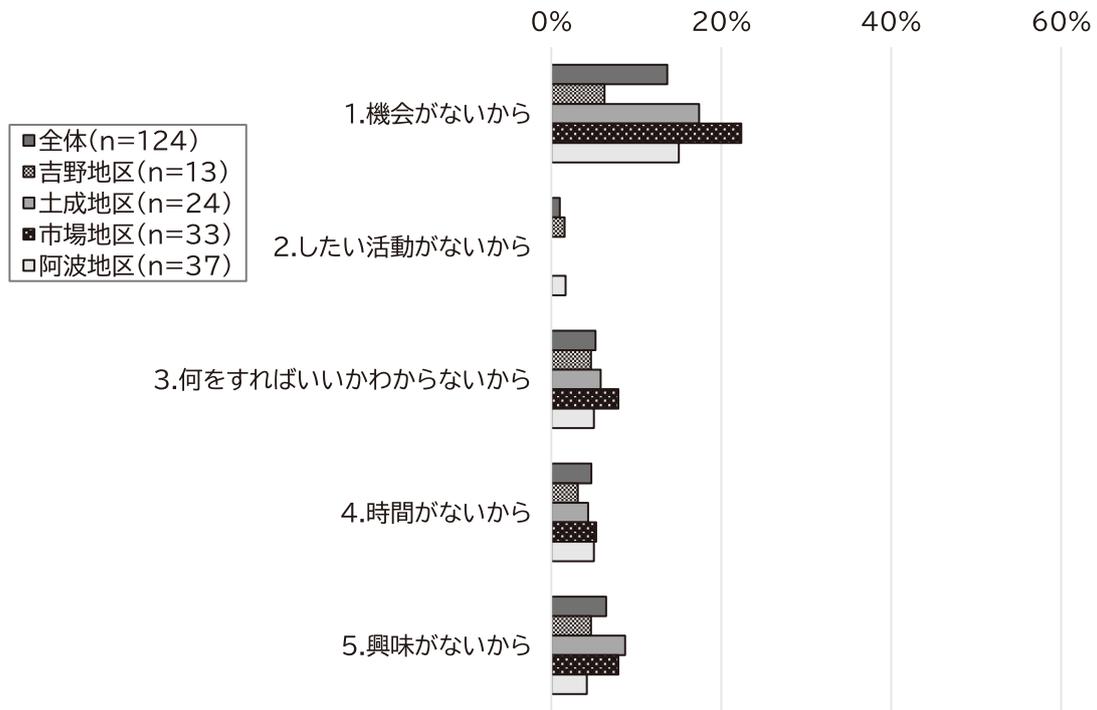
ボランティア活動のきっかけに関して、全体では「自ら進んで」の割合が最も高く、次に「先生に言われて」が高くなっていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し「自ら進んで」と「先生に言われて」の吉野地区がもっとも高くなっていました。

ボランティア活動は本来、自主的な活動である一方、先生や友達、親に言われたのがきっかけで活動した人もいることから、地域の人々全体によるきっかけづくりが必要だと考えられます。



● ボランティア活動の経験がない理由について(経験がないと回答した者)



ボランティア活動の経験がない理由に関して、全体では「機会がないから」の割合がもっとも高く、次いで「興味がないから」でした。

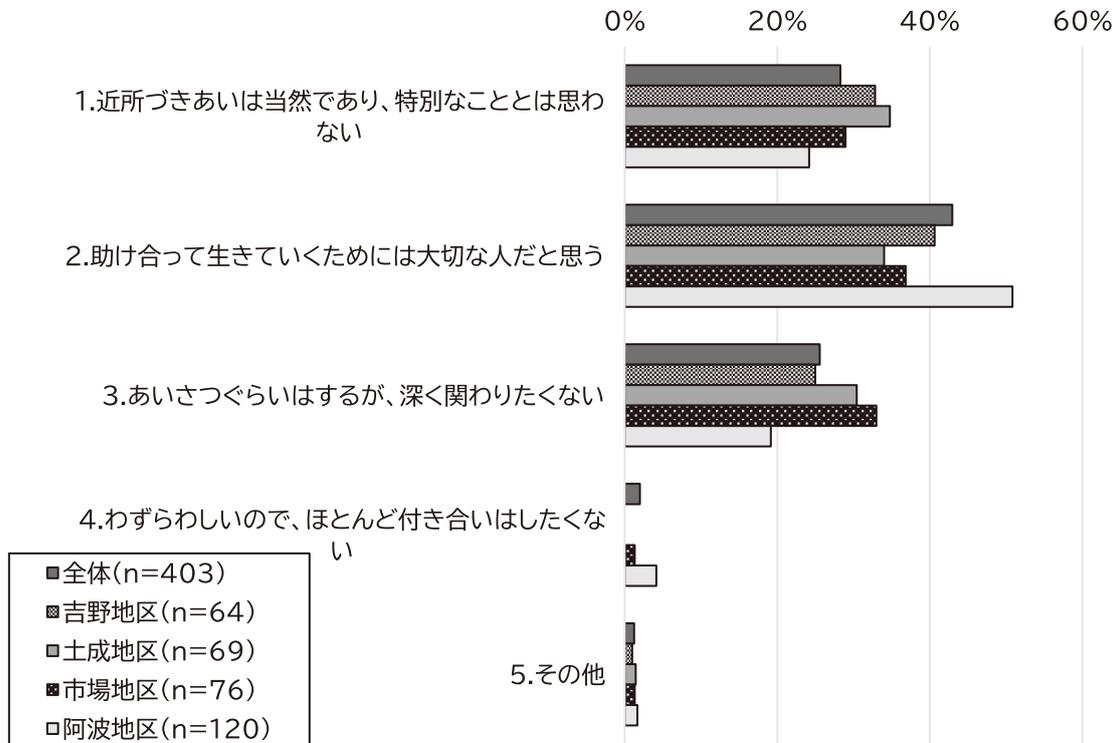
地区別では「機会がないから」の市場地区がもっとも高く、吉野地区が低くなっていました。「興味がないから」の土成地区がもっとも高く、阿波地区が低くなっていました。

ボランティア活動の参加促進には、機会の提供と情報発信が重要と考えられます。また、住んでいる地域のことを我がこととして捉えられるボランティア意識の醸成が求められます。



ご近所のことについて

● ご近所の人やその関係性について



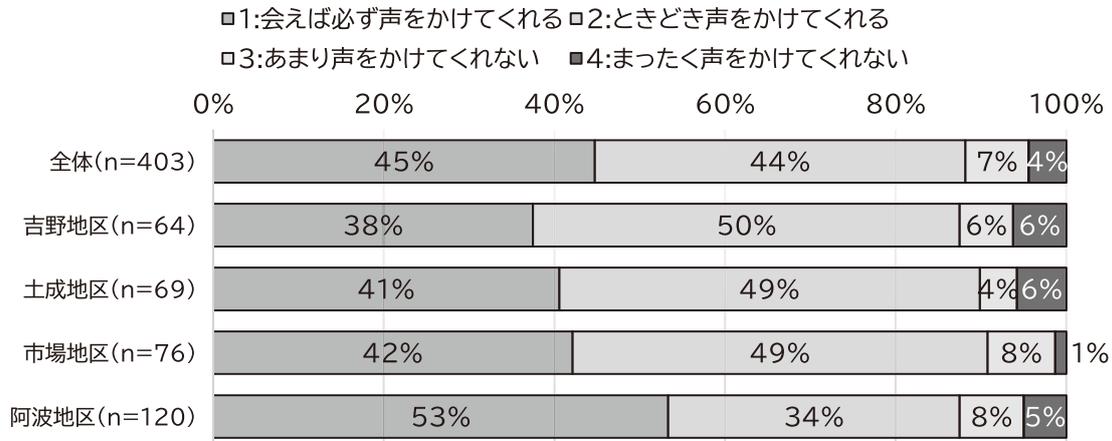
ご近所の人や関係性に関して、全体では「助け合って生きていくためには大切な人だと思う」の割合がもっとも高く、次いで「近所づきあいは当然であり、特別なこととは思わない」でした。

地区別では「助け合って生きていくためには大切な人だと思う」の阿波地区がもっとも高く「近所づきあいは当然であり、特別なこととは思わない」の土成地区がもっとも高くなっていました。

ご近所との関係強化は、少子高齢化や人口減少を迎えつつある阿波市において、将来を担う中高生がそういった意識をもつことにより、地域の持続可能性に繋がると考えられます。



● ご近所の人との交流について

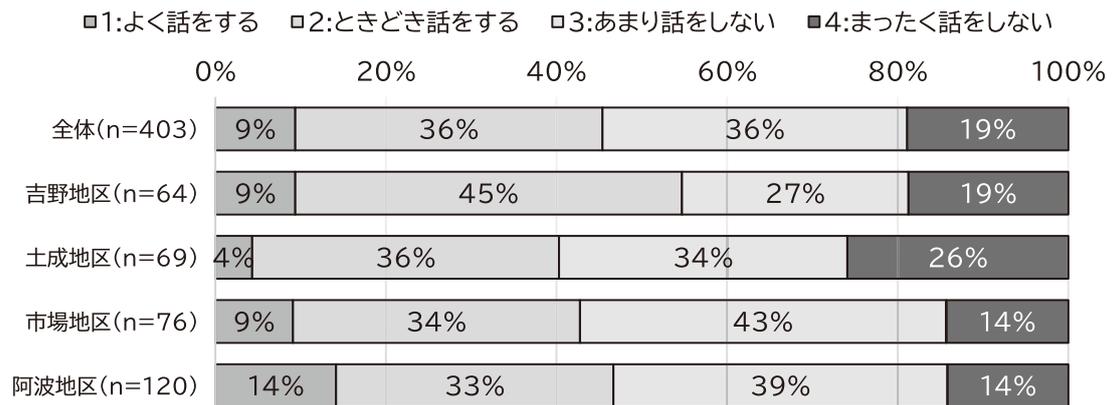


ご近所の人との交流に関して、全体では「会えば必ず声をかけてくれる」と「ときどき声をかけてくれる」の割合を合わせて約9割になっていました。

地区別では、全体と同様の傾向を示し「会えば必ず声をかけてくれる」は阿波地区がもっとも高く、吉野地区が低くなっていました。

ご近所の方からの声かけは、地域に対する安心・安全感を高めることにつながることから、引き続き交流を深めていくことが求められます。

● ご近所の人と話す頻度について

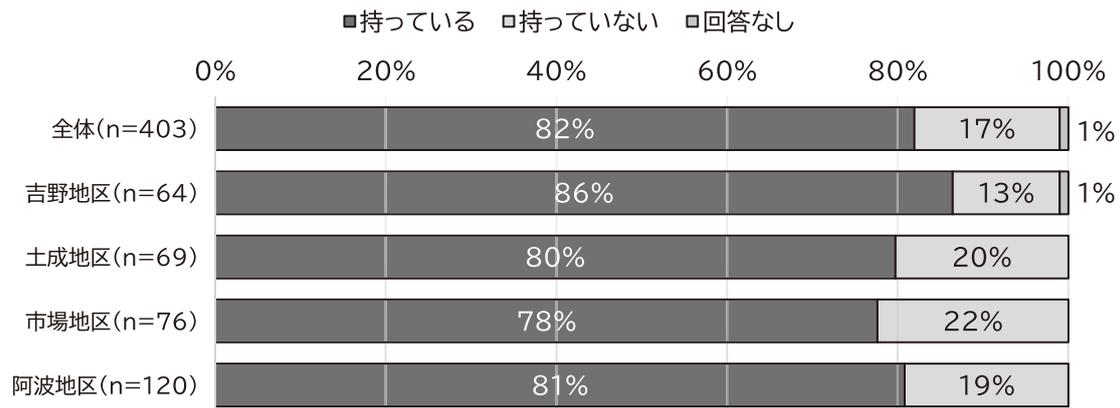


ご近所の人と話す頻度に関して、全体では「ときどき話をする」と「あまり話をしない」の割合が高く「ご近所の人との交流について」とは相反した結果でした。

地区別では、全体と同様の傾向を示し「ときどき話をする」は吉野地区がもっとも高く「あまり話をしない」は阿波地区がもっとも高くなっていました。

ご近所の関係性強化において、挨拶などの声かけはもとより、話をする機会を増やすことが重要であることから、関係者、一般市民、中高生を問わず、話やすい地域づくりが必要と考えられます。

● 地域に対する愛着について

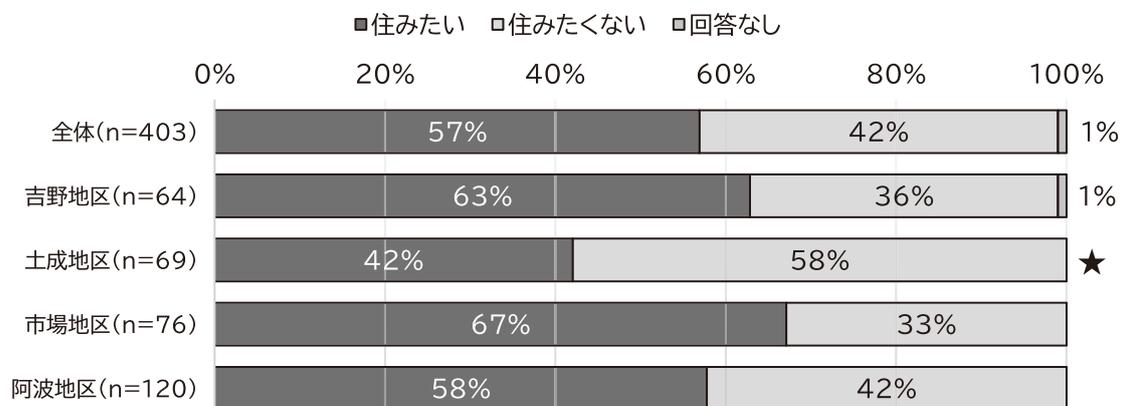


地域に対する愛着に関して、全体では「持っている」が8割を超えていました。

地区別では、吉野地区が最も高く、市場地区が低くなっていました。

地域に対する愛着の強さは、中高生が大学進学等で県外に出た場合、就職のために阿波市に回帰する傾向の高さと密接な関係があると考えられますので、地域が中高生を育む仕組みづくりがいっそう求められます。

● 生まれ育った地域への定住意識について

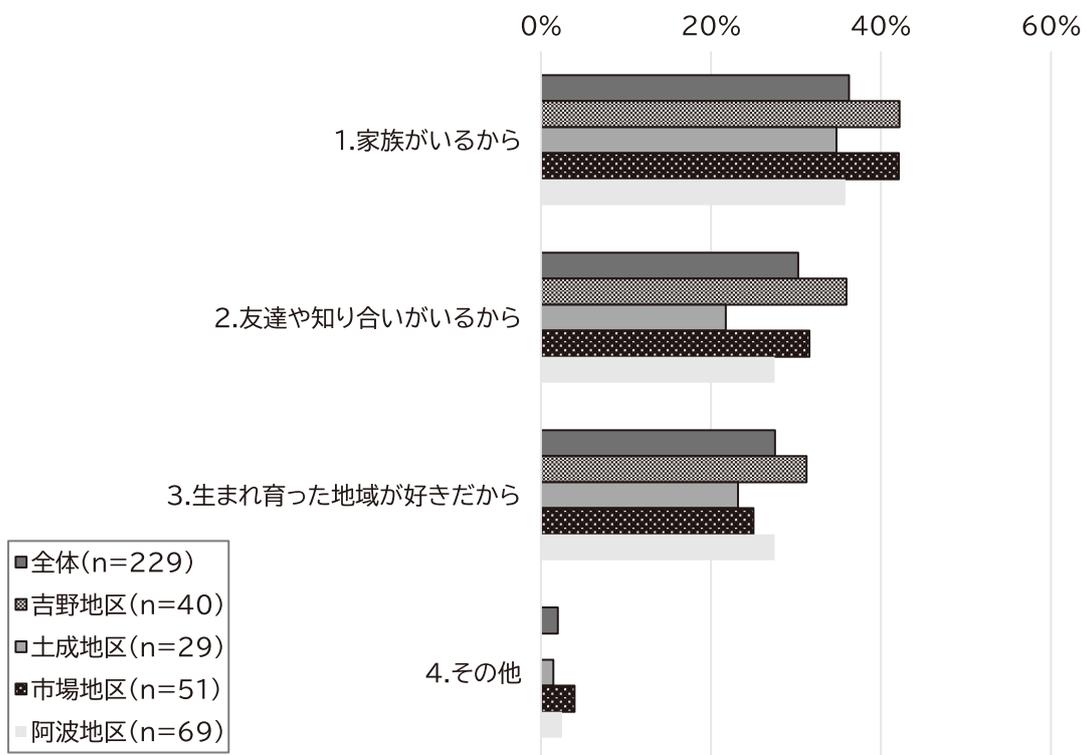


生まれ育った地域に今後も住みたいと思う希望に関して、全体では「住みたい」の割合が約6割でした。

地区別では、吉野地区がもっとも高く、土成地区が全体と比較して極めて低くなっていました。

中高生の定住意識は、阿波市の将来的な人口減少と関連しますので、普段から地域との関係性を強める働きかけが重要と考えられます。

● 生まれ育った地域への定住理由について(住みたいと回答した者)

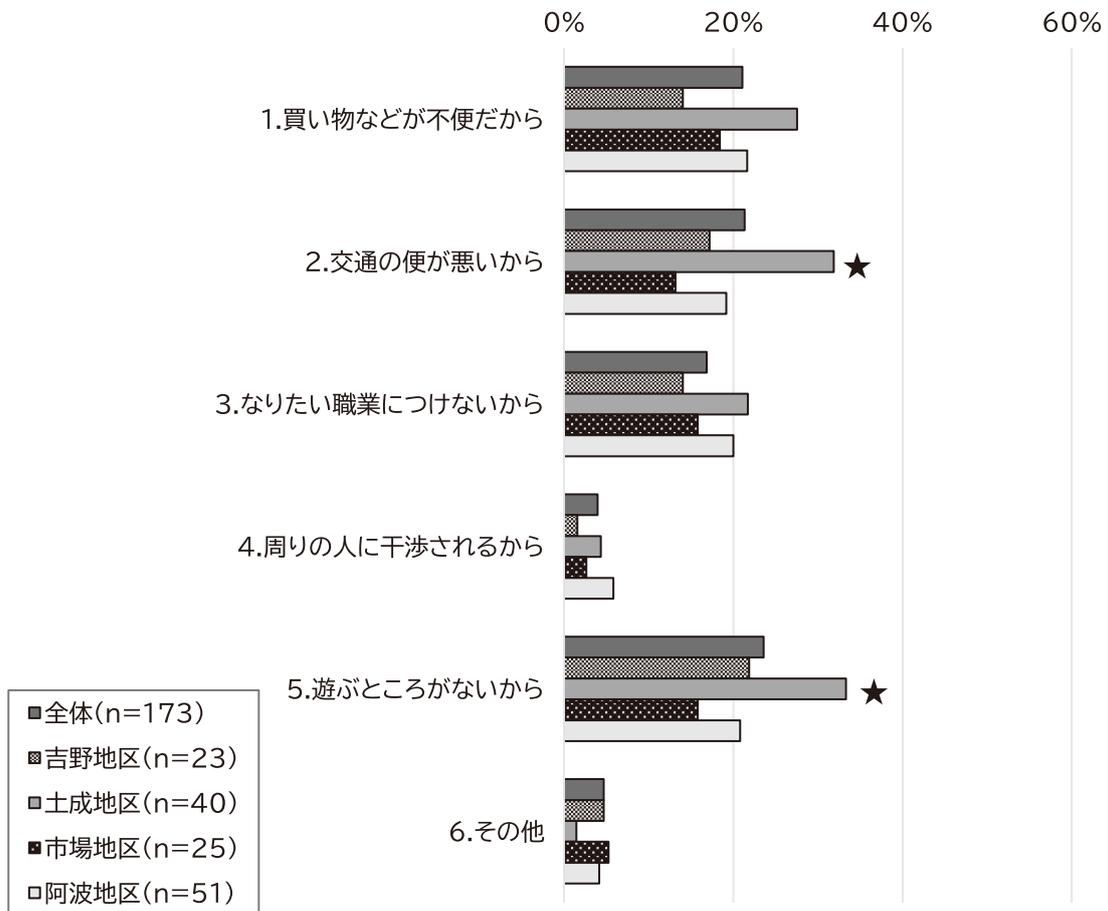


生まれ育った地域への定住理由に関して、全体では「家族がいるから」の割合がもっとも高く、次に「友達や知り合いがいるから」でした。

地区別では、全体と同様の傾向を示し「家族がいるから」と「友達や知り合いがいるから」とも吉野、市場地区が高くなっていました。

生まれ育った地域への定住は「場所」ではなく「人」による理由が大きいことが分かりました。人とのつながりを高める仕組みづくりがいっそう求められます。

● 生まれ育った地域への不定住理由について(住みたくないと回答した者)



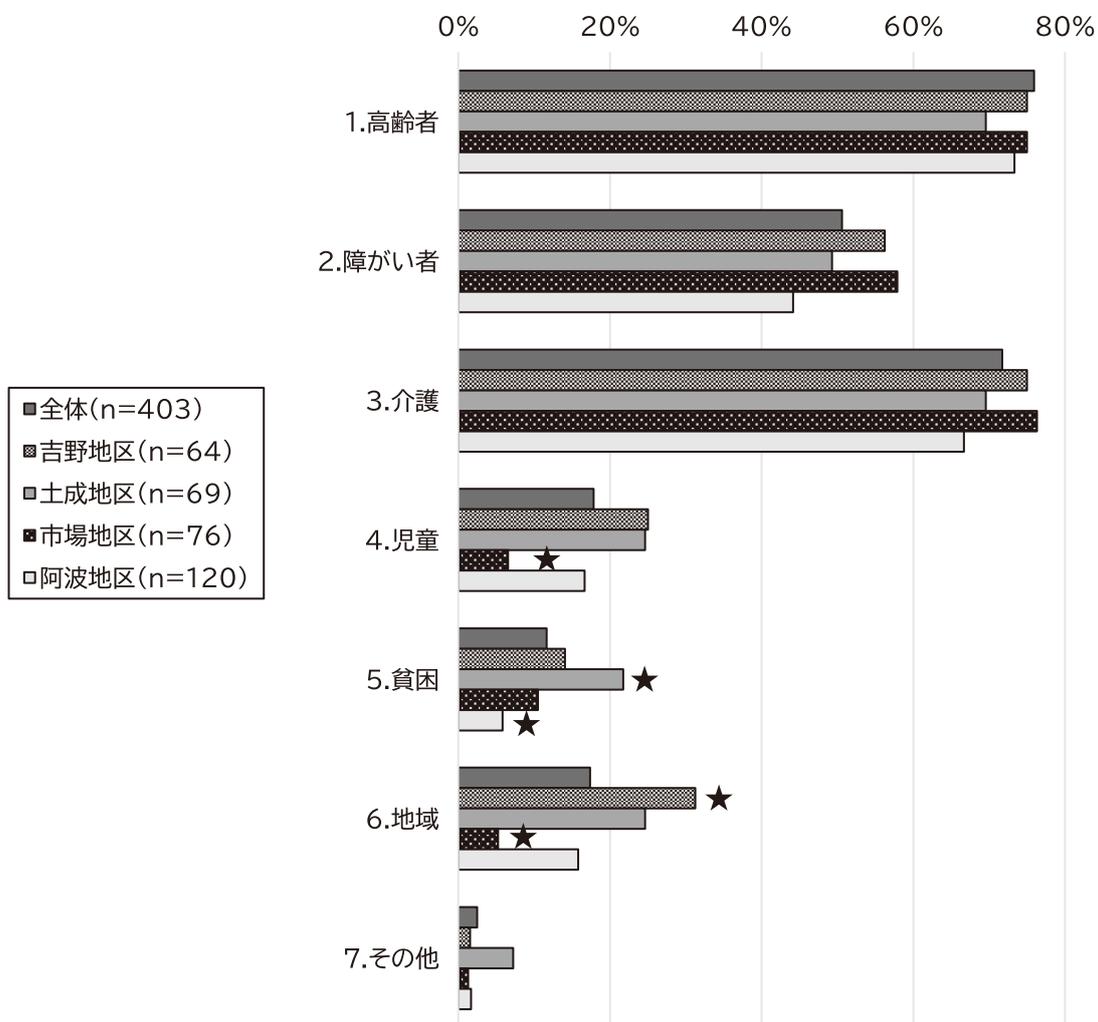
生まれ育った地域への不定住理由に関して、全体では「遊ぶところがないから」が最も高く、次に「交通の便が悪いから」でした。

地区別では「遊ぶところがないから」の土成地区が全体と比べて極めて高く「交通の便が悪いから」についても土成地区が極めて高くなっていました。



福祉のことについて

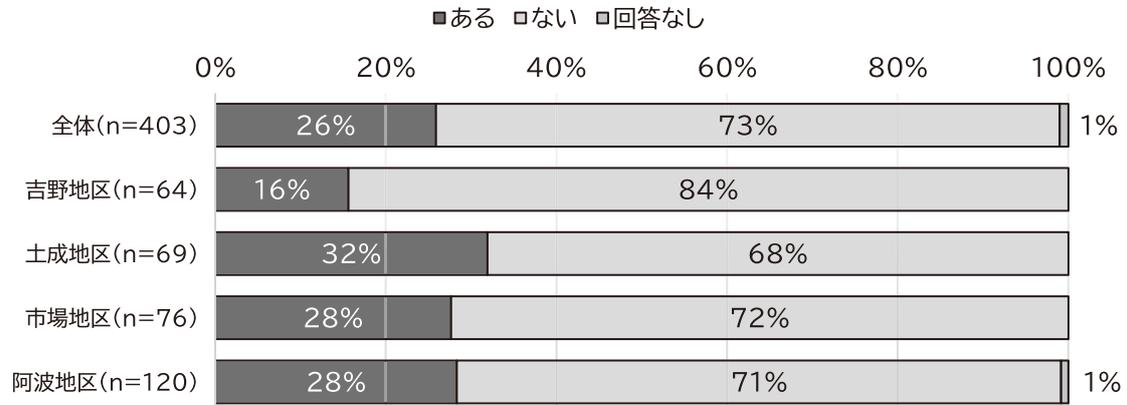
● 「福祉」という言葉から連想する事柄について



「福祉」という言葉から連想する事柄に関して、全体では「高齢者」「介護」「障がい者」の割合が順に高くなっていました。

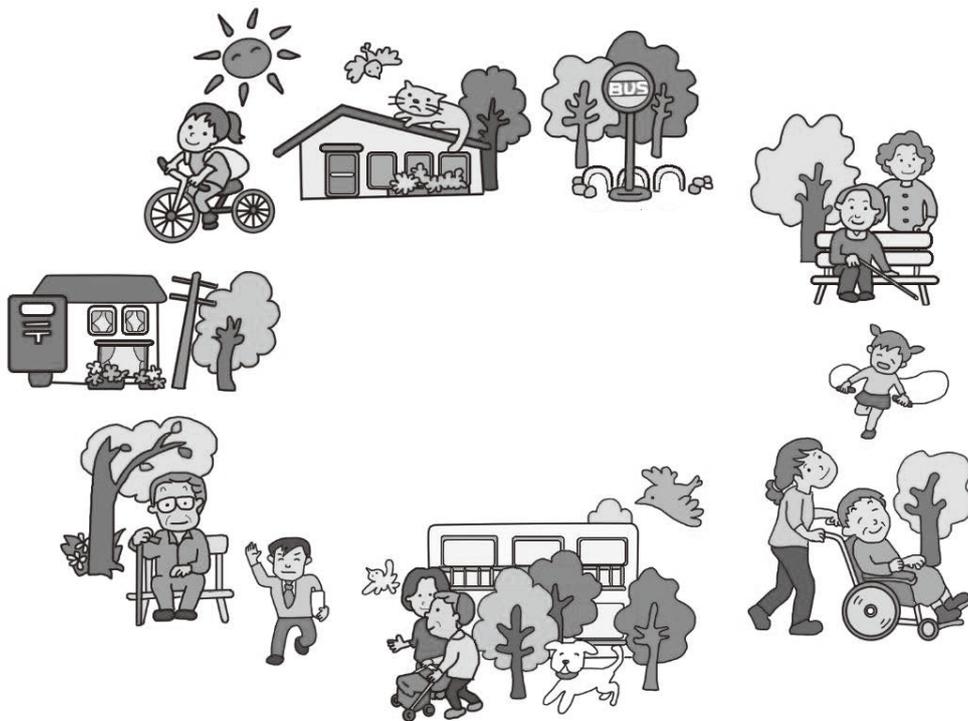
福祉という用語から連想する事柄として、高齢や障がい、介護に関することが多いことから、高齢者・障がい者施策の進展によって中高生にも見える形になっていることが分かりました。一方、地域、児童、貧困に関する事柄の連想が低いことから、福祉教育のいっそうの充実が望まれます。

● 高齢者や障がいのある人が困っている場面への遭遇について

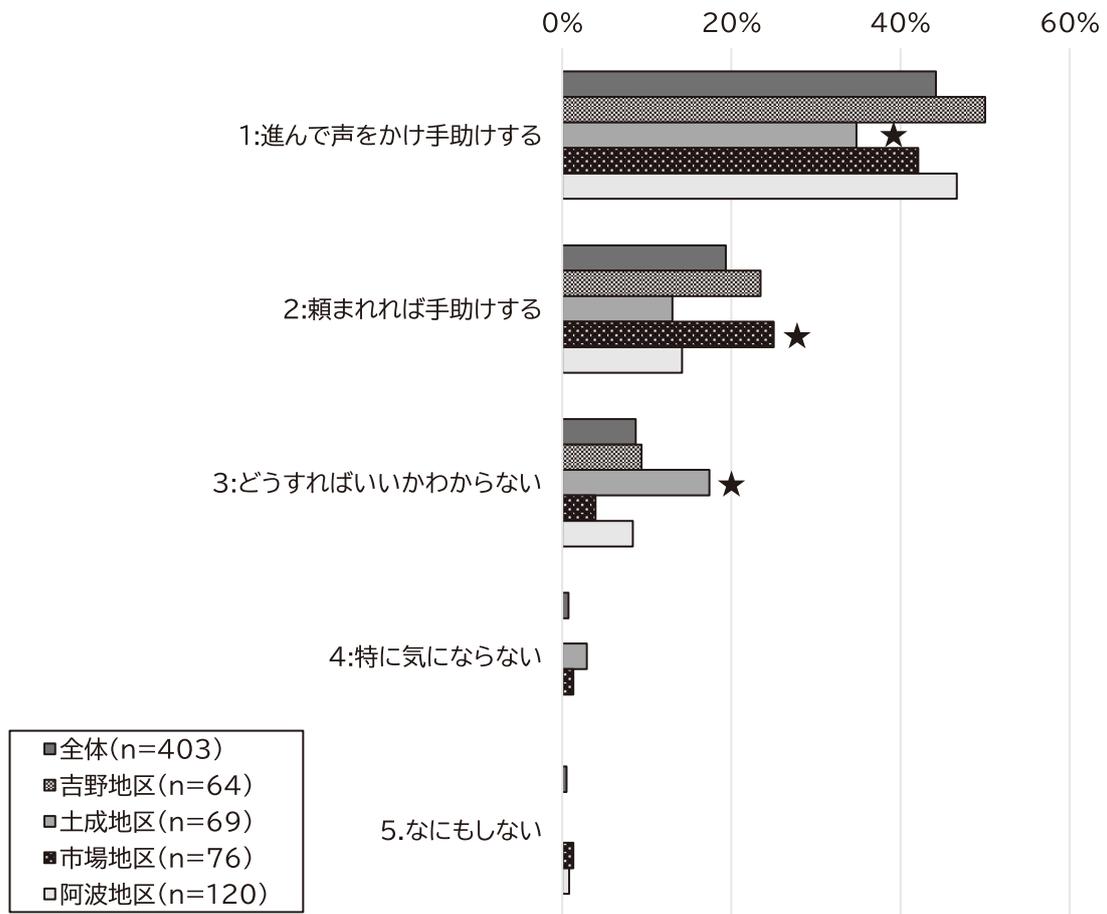


高齢者や障がいのある人が困っている場面への遭遇に関して、全体では「ある」と回答した割合は約3割となっていました。

地区別では、土成地区が最も高く、吉野地区が低くなっていました。



● 高齢者や障がいのある人が困っている場面での対応について



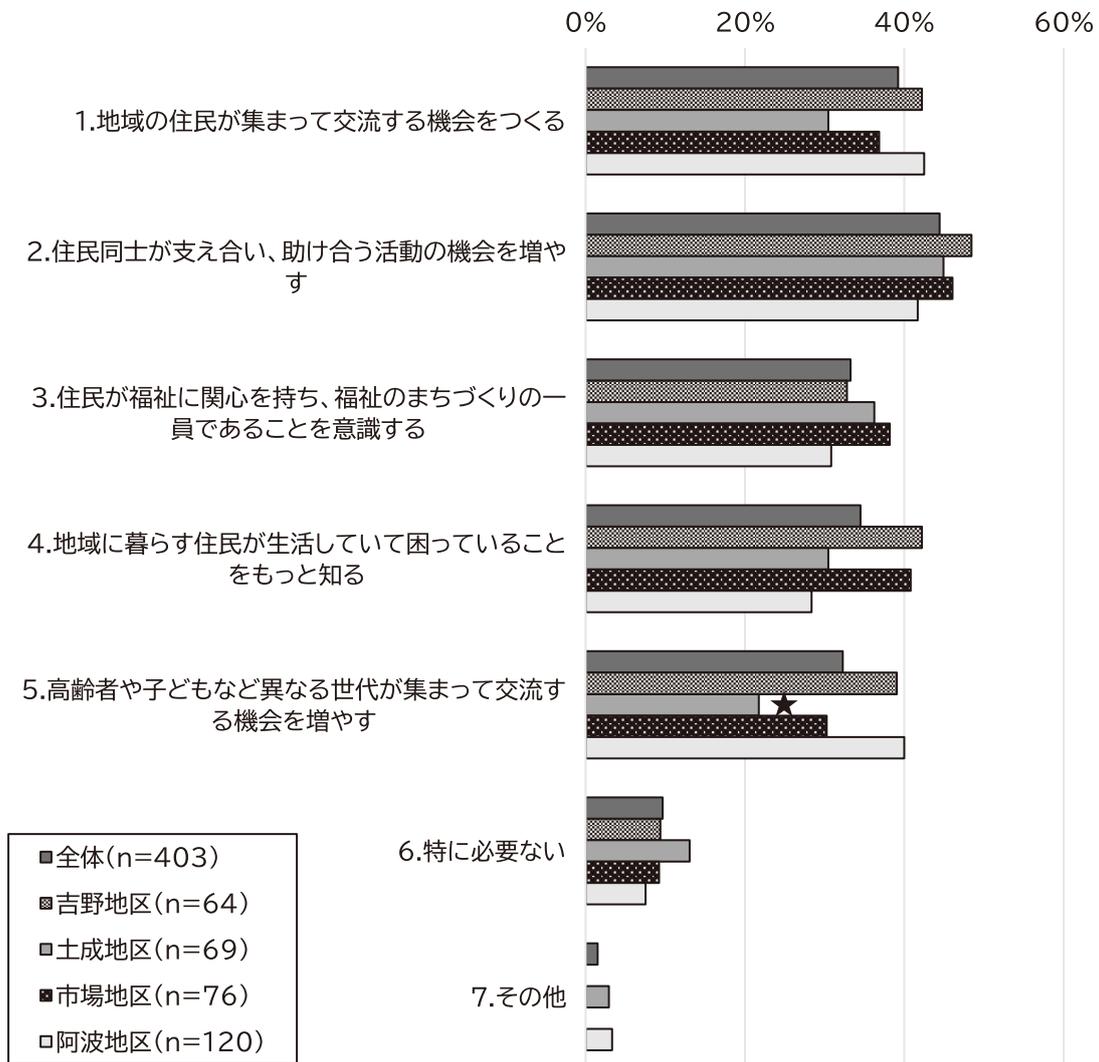
高齢者や障がいのある人が困っている場面での対応に関して、全体では「進んで声をかけ手助けする」の割合が最も高く、次いで「頼まれれば手助けする」でした。

地区別では「進んで声をかけ手助けする」の土成地区が全体と比べて極めて低く「頼まれれば手助けする」の市場地区が極めて高く「どうすればいいかわからない」の土成地区が極めて高くなっていました。

高齢者や障がいのある人が困っている人への対応について、適切な方法を学ぶ福祉教育の機会確保と推進が求められます。



● 地域福祉を充実させるための必要な事柄について



地域福祉を充実させるための必要な事柄に関して、全体では「住民同士が支え合い、助け合う活動の機会を増やす」の割合がもっとも高く、次いで「地域住民が集まって交流する機会をつくる」でした。

地区別では、全体と同様の傾向を示し「高齢者や子どもなど異なる世代が集まって交流する機会を増やす」の土成地区が全体と比較して極めて低くなっていました。

地域の福祉の充実には、様々な世代間の交流を増やし、地域住民同士の支え合い・助け合いの活動の場に中高生時代から参加することにより、地域福祉の力を高める原動力になると考えられます。

● 具体的意見のまとめ

全体では、地域住民同士の交流の機会、イベント参加を望む声が多く聞かれました。また、福祉に関心がもてる街づくり、という提案も寄せられています。あとは、ショッピングセンターなど、若者が集まれる場所を増やしてほしいという要望が多く提案されていました。

地区別では、吉野地区は、自然と助け合いができる地域になることや、交通安全、道路整備など、通学にまつわる意見も散見されました。土成地区は、交通の利便性を高める意見や遊び場、買い物の場を増やしてほしいとの要望もあり、市場地区は、地域の人との交流促進、道路環境を整えて欲しいとの意見が聞かれ、スポーツができる公園の整備といった声もありました。阿波地区は、バリアフリー環境の充実、地域イベントの増加を望む意見が聞かれました。さらに、インターネット環境など、若者に対する支援充実といった意見もありました。



第4章 基本目標(阿波市地域福祉計画と共有)

第1節 4つの基本目標

第3次阿波市地域福祉計画では、すでに4つの基本目標が設定されており、本計画も地域福祉の充実に資する片輪を担うため、同様の目標としました。

1. 地域全体での地域福祉活動の推進

社協では、地区レベルの小規模なイベントから市全体で実施する大規模な行事に至るまで、様々な行事、イベント、講演会などの地域福祉活動を実施しています。また、これらの地域福祉活動では、地域住民、関係団体、行政をはじめとした多くの人たちが携わっています。計画策定にあたり実施された調査からは、地域福祉に関わる団体が社会全体の変化を受け、参加者集め、広報活動、活動内容や開催方法など、地域福祉活動を進めていく際、多くの課題に直面していることが示されました。これらの課題について、各団体と連携し解決に向けた取り組みを進めていくことで、地域福祉活動の活性化を図り、いっそうの推進を図ります。

2. 地域福祉活動のネットワーク構築

地域福祉活動の大きな課題として、地域福祉に関わる団体、地域の事情に詳しい民生委員・児童委員、ボランティア、行政など、地域に関わる人・団体間で連携が十分には行われていないことが挙げられます。一方で、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）をはじめとした、地域福祉に関わる団体や行政をつなぐ人たちが活発に活動を進めており、現時点で連携体制が整備されつつある分野も少なからずあります。団体間の協力・連携体制を強化するようなこれらの活動を引き続き推進すると同時に、“地域福祉の活動”という大きな枠組みの中にある潜在化している地域の課題に目を向け、より包括的な連携体制を築きます。

3. 福祉サービスの充実と適切な利用の促進

地域で暮らす誰もが充実した生活を送るためには、日常生活を送る中で困難を抱えている人たちの課題を地域全体で解決していくことが必要です。独居の高齢者、障がいのある方、認知症の方、生活困窮者、子育て中の方など、地域住民が抱えている課題は多岐にわたります。地域で解決すべき課題や解決策と

しての福祉サービスも多岐にわたり、地域で暮らす誰もが不自由なく暮らしていけるサービスを検討していく必要があります。また、その際には、個々のサービスでは対応できず制度の狭間で困難を抱えている人たちへの支援が必要であり、地域で暮らす誰一人として取り残さない福祉サービスの充実を目指します。

4. 安全・安心な地域づくりの推進

地域福祉を推進していく際には、様々な背景を抱えて暮らす地域の人たちについて、お互いがお互いのことを知り、理解していく営みが不可欠です。

また、誰もが人生の最終段階に至るまで自立した生活を送り、他者と積極的に交流していけるような地域交流が必要です。それに加え、災害発生時などの緊急事態への対応は継続的に検討を進めていきます。ここでも支援を必要とする人への体制として、関係団体間のさらなる連携が重要な課題として挙げられます。地域で暮らす人たちの尊厳を守り、緊急時の体制の確立という双方の安心・安全を確保することで、住み慣れた地域で誰もが長く暮らしていける地域づくりを果たします。



阿波市社会福祉協議会は
誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
誰もがかけがえない個人として尊重される社会
誰もが地域社会の一員として積極的に貢献できる社会
を目指します。



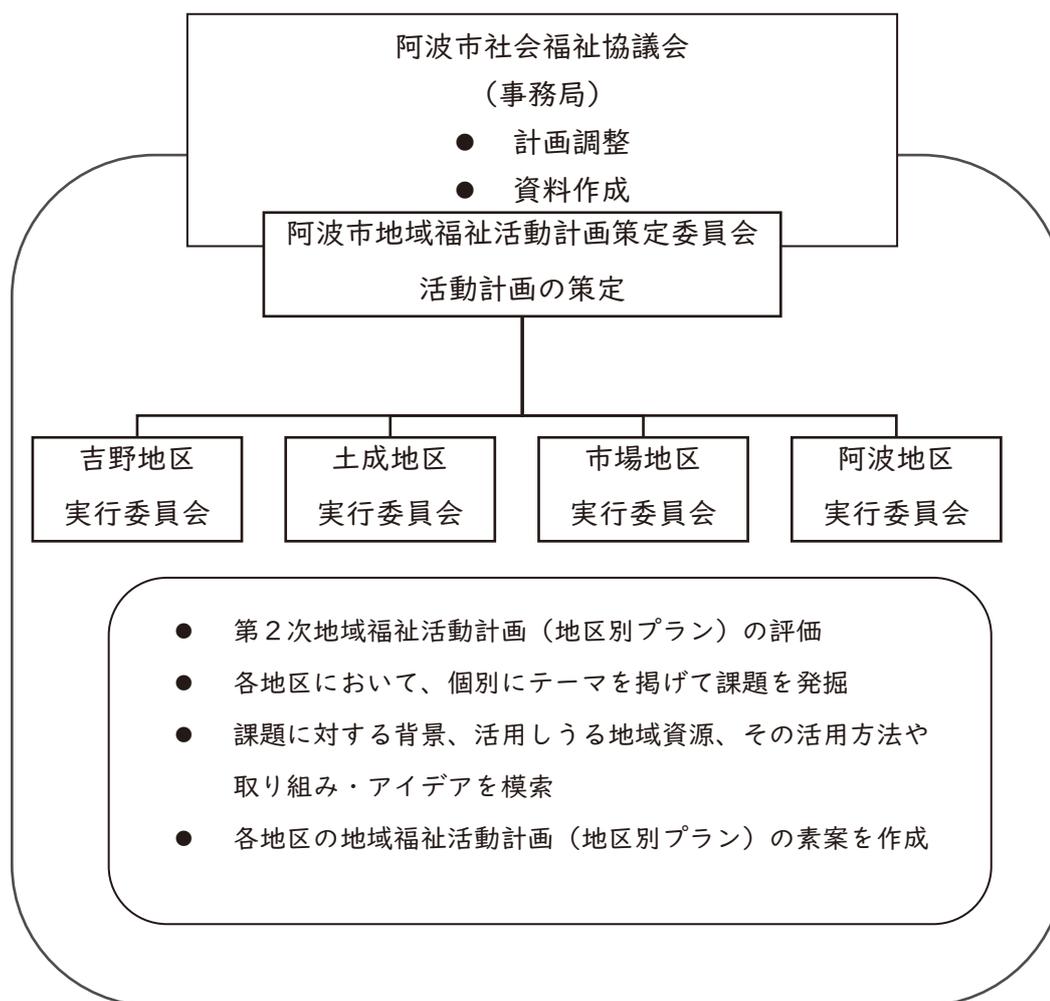
第5章 第3次地域福祉活動計画

第1節 計画策定までの流れと体系

まず、計画策定に向けて全社協職員を対象に「地域福祉活動計画とは」の研究を行いました。次に、社協職員が地区の実行委員に説明を行い、実行委員会が主体となったワークショップでは、アンケート調査結果から抽出された課題を基に、目標設定および活動内容について協議検討を行いました。そして、地区ごとに得られた計画案について、阿波市地域福祉活動計画策定委員会の審議を経て決定しました。

計画の体系は、以下の図に示すとおり、吉野、土成、市場、阿波地区の実行委員会を基盤としたボトムアップ方式としました。

図 阿波市地域福祉活動計画の体系

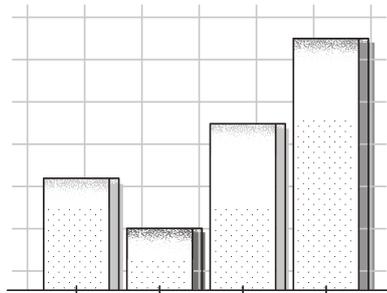


第2節 地区別計画

地区別計画は、関係者、一般市民、中高生のアンケート結果から課題として挙げられた項目を地区別に分け、それを基に実行委員を主としたワークショップを開催しました。そこで、4つの基本目標に沿って重点課題、目標、活動内容について社協職員と協働して計画シートを作成しました。

たとえば、〇〇地区では、【地域全体での地域福祉活動の推進】について以下の提案を行いました。

- ①地域福祉活動に関わる人材不足
 - * 人手が不足していると感じている→(関係者 83%)
 - * 地域活動、勉強会、イベント→(市民関心高い)
 - * 交流機会、活動の機会→(中高生関心高い)
- ②地域福祉活動の停滞
 - * マンネリ化→64%(関係者)
 - * ご近所の関係づくり→(関係者、市民関心高い)
 - * 地域の見守り体制と強化→(関係者、市民関心高い)



分析結果を基に各地区で



重点課題を1~2つ程度決める

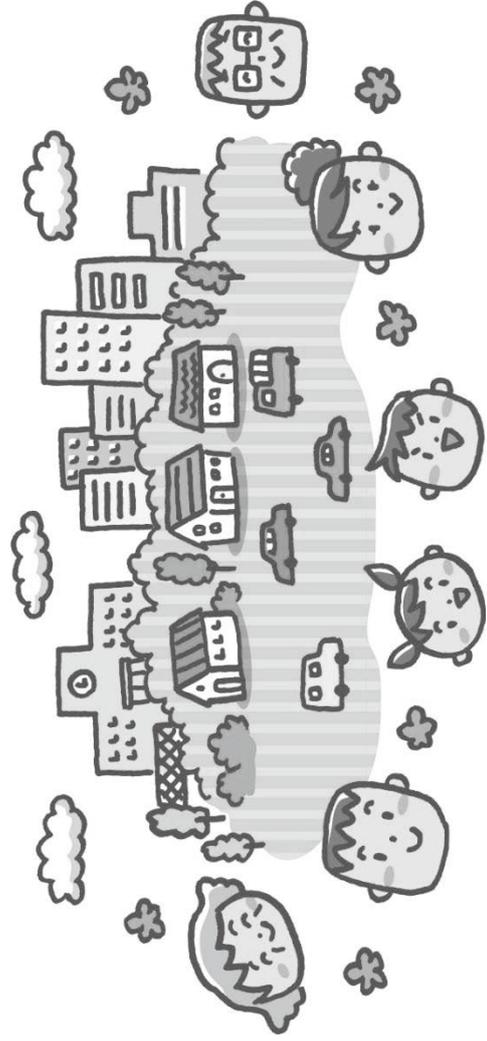


課題解決に向けて活動(行動)計画を立てる



活動内容を定める

第3次阿波市地域福祉活動計画（地区別）



吉野地区 第3次地域福祉活動計画



【シャキシャキ、キラキラ絆深める吉野町】育てる・守る・つなげる

基本目標1 地域全体での地域福祉活動の推進		
課題	目標	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉を支える人材が不足している ■ 活動がマンネリ化している 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多世代に向けた地域福祉活動の情報発信と交流促進 ■ 地域福祉計画の活動の見える化 ■ 地域課題のほりおこしや地域資源の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉の理解と関心を高めるための研修、講座、学習会の実施をし、担い手を育成する ■ 学校、企業、他団体と連携し環境美化活動（アドプト活動）を行い、地域への愛着心を育み連帯感のある地域を目指す ■ 地域全般、各種団体に幅広く啓発を行う
基本目標2 地域福祉活動のネットワーク構築		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉活動をつなぐネットワークの希薄化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉活動をつなぐネットワークの構築と強化 ■ 地域の見守り体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 誰もが参加できるイベントを開催し、次世代を担うリーダーを発掘し、多世代が交流できる場をつくる ■ 地域で安心して暮らせるように、配慮の必要な方を他団体と連携し見守り、保健、医療、福祉等の情報提供を行う地域を目指す

基本目標 3 福祉サービスの充実と適切な利用の促進		
課題	目標	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域包括ケアシステムや地域共生社会の浸透不足 ■ 保健・福祉に関する教育・情報提供不足 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域包括ケアシステム・地域共生社会の普及促進 ■ 専門職・学校と連携した福祉教育の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 誰もが自由に参加できる集いの場への参加、協力し、悩み事相談や情報交換の場をつとめる ■ 学校や地域での体験学習や生涯学習等の機会を通じて地域福祉の推進及び参加協力を行う
基本目標 4 安全な地域づくりの推進		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 災害時の避難の混乱が予想される ■ 自主防災組織の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有事に備えた避難シミュレーションの構築 ■ 多世代による自主防災組織の再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の関係団体や福祉事業者などと連携し、災害時要支援体制づくりを進める活動や地域の防災訓練などへの協力、参加を行う ■ 自主防災組織に協力し活動が活性化するように見守り活動の充実、地域への繋がりがりづくりへつなげる



土成地区 第3次地域福祉活動計画

まちが好き、人が好き、笑顔あふれる土成町！



基本目標1 地域全体での地域福祉活動の推進		
課題	目標	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉に関わる人材不足 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域への愛着を育む地域福祉活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中高生、一般市民を巻き込んだ行事・イベントの開催を行い、情報発信や実行委員会のPRを行う ■ 地域への愛着を育むため、地域を知り、地域の人々との交流の機会を増やす
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域における「つながり」の強化
基本目標2 地域福祉活動のネットワーク構築		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉に関わる情報共有、連携への認識不足 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉活動につなぐネットワークの構築 ■ 地域福祉活動にかかると各活動の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修会を実施し、施設、NPO、各種団体との連携を行い、実行委員会に参加をしてもらう
		<ul style="list-style-type: none"> ■ イベント等開始時に各種活動をPRし参加協力を依頼する

土成地区 第3次地域福祉活動計画

まちが好き、人が好き、笑顔あふれる土成町！

基本目標3 福祉サービスの充実と適切な利用の促進		
課題	目標	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 身近な相談窓口が分からない ■ 地域包括ケアシステムと地域共生社会の浸透不足 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 困りごとの相談の利用促進 ■ 多世代・多分野における福祉教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 行事やイベントでの窓口設置や、各団体と連携して情報収集、発信を行う ■ 学生が地域の人々や高齢者、障がい者、子どもと交流・接触できる機会をつくり、交流の場を増やしていく ■ 継続したイベントの開催と、様々な人が参加しやすい工夫をする ■ 研修会を通じて、知る機会をつくる
基本目標4 安全な地域づくりの推進		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 災害時対応に住民間の差がある ■ 地域で支え合う体制が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有事に備えた避難シミュレーションの構築 ■ 自主防災組織の強化に加え、防災意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災訓練やセミナーの実施、避難マップ及びハザードマップの作成をおこなう ■ 食糧備蓄・防災グッズの準備や点検を呼びかけ、様々な人が参加できる自主防災イベントを実施する ■ 要援護者の把握、見守り、訪問活動を心掛ける



市場地区 第3次地域福祉活動計画

「おもてなしのまち・ひとにやさしい市場」



基本目標1 地域全体での地域福祉活動の推進		
課題	目標	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉活動が周知されていない ■ 地域福祉を支える人材が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多世代への情報発信と見守り体制の強化 ■ 様々な人が参加しやすい地域福祉活動の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域清掃の行事や世代間交流のイベントを通して地域のための活動を企画し、参加する ■ 地元学生や地域住民のみなさんに協力してもらい、自分の地域を良くする活動に興味を持ってもらう
基本目標2 地域福祉活動のネットワーク構築		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉に関わる情報共有、連携ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉活動における連携体制の構築 ■ 地域団体や関係団体との協調 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 誰もが自由に使えて楽しめる空間と活動場面を作る ■ 活動の場で情報交換や相互連携できるように、地域住民のみなさんに情報発信を行い、活動支援体制の強化に取り組む

基本目標3 福祉サービスの充実と適切な利用の促進		
課題	目標	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域共生社会の浸透不足 ■ 地域福祉を推進できる人材がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域共生社会の普及と相談体制の見直し ■ 多世代の福祉への関心や理解の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 身近な人の悩みや困り事が相談できる窓口について情報収集を行う ■ 公的な窓口から地域住民の中で相談聞き上手な方の情報を収集して情報をまとめる
		基本目標4 安全な地域づくりの推進
<ul style="list-style-type: none"> ■ 災害時の避難の混乱が予測される ■ 災害時に支え合える組織作りが不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有事に備えた避難シミュレーションの構築 ■ 見守り活動の強化と自主防災組織づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域住民の皆さんに協力してもらい、災害に役立つ情報を収集する ■ 集めた情報を表や図上に表示するなどし、見える化する事で災害意識を高める ■ 平時のゆるやかな見守り方法を学び、住民の方々が実践できるように情報の発信を行う



阿波地区 第3次地域福祉活動計画



ちからをAWAせて支え合い絆深めて阿波の町 ～自然いっぱい😊笑顔いっぱい～

基本目標1 地域全体での地域福祉活動の推進		
課題	目標	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉活動に関わる人材不足 ■ 地域福祉活動が周知されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新たな地域福祉活動の創出 ■ 多世代での交流促進及びご近所づきあいの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 幅広い年齢層に情報を発信するために、SNS 以外にチラシなどの作成を行う。また、関係団体や関係機関にチラシの設置協力を求める中で関係の構築をはかる ■ 多世代が参加しやすく楽しめるように、季節行事に合わせたイベントや、福祉相談コーナーを企画し、地域福祉活動に興味を持ってもらう ■ 子育て支援センターとの連携や、地元のお店とのイベントコラボなど、交流を通して顔見知りの関係から作っていきけるような場を提供する
基本目標2 地域福祉活動のネットワーク構築		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉活動に関わる情報共有、連携ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉活動における連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ マルシェなどのイベント等の場を活用し、地域福祉活動について発信を行うことで、情報交換や相互連携ができるようなきっかけづくりを行う

基本目標3 福祉サービスの充実と適切な利用の促進		
課題	目標	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 相談体制の整備不足 ■ 地域福祉のリーダー不足と福祉教育への認識不足 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の相談体制の見直しと情報発信 ■ 次世代の地域福祉リーダーの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 相談支援機関の名称と電話番号が記入されたカードを作成し、配布する ■ 次世代の地域福祉リーダーの育成に向けて、マルシェなどのイベントを開催する際、学生ボランティアに参加してもらい、地域活動を体験してもらう
基本目標4 安全な地域づくりの推進		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 災害時に対応できる組織作りが不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有事に備えた避難シミュレーションの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災グッズの展示や紹介の他に、普段から取り組めること（近所への呼びかけ等）を意識してもらえような情報発信を行う



第6章 計画の推進

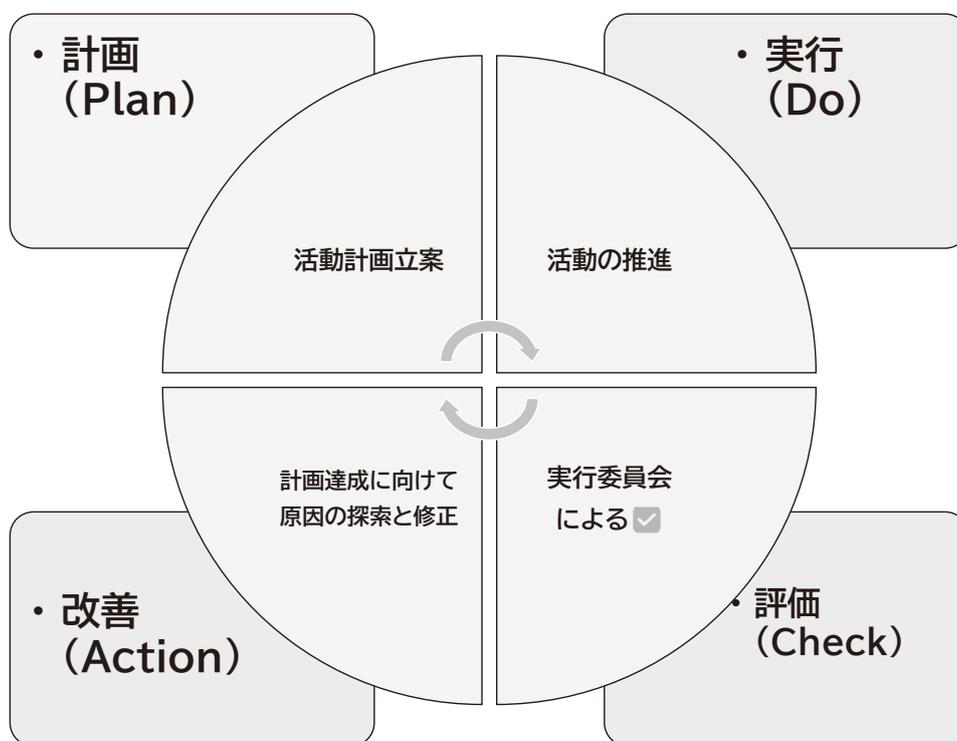
第1節 計画の進捗

本計画で推進していく内容は、第3次阿波市地域福祉計画と連動して、社協、関係者、一般市民、中高生と共に地域共生社会の実現を推進します。そして、計画の進捗に基づき、高齢者、障がい者、児童、困窮などにおける課題解決に努め、場合によっては施策の提言も行って参ります。

また、広報紙やインターネットを通じて活動計画の周知徹底を図り、新たな活動に参加するボランティア人材の確保や関係機関と連携し、持続可能な地域づくりに貢献します。

第2節 計画の進捗管理

本計画の実行性をより高めるために「計画(Plan)」「実行(Do)」「評価(Check)」「改善(Action)」のPDCAサイクルにより取り組みを前に進めていきます。特に「評価(Check)」は、終了時だけでなく、地区実行委員会を随時開催するなどし、進捗状況の報告と評価を行います。計画に遅れが出ている場合は、その原因を探り、計画達成に努めます。



第7章 資料編

I.阿波市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 阿波市における地域福祉を計画的・効果的に推進するため、阿波市社会福祉協議会（以下「本会」という。）が地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）を策定することを目的に、地域福祉活動計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 策定委員会は、次の事項を行う。

- (1) 活動計画の策定に関すること。
- (2) 活動計画の策定に必要な調査研究に関すること。
- (3) その他活動計画策定にあたり必要と認められること。

(組織)

第3条 策定委員会は、阿波市地域福祉活動計画実行委員会の中から本会会長が委嘱し、12人以内をもって組織する。

(委員長及び副委員長)

第4条 策定委員会に委員長及び副委員長を各1名置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選任する。
- 3 委員長は、策定委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 策定委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 策定委員会の庶務は、地域課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

(失効)

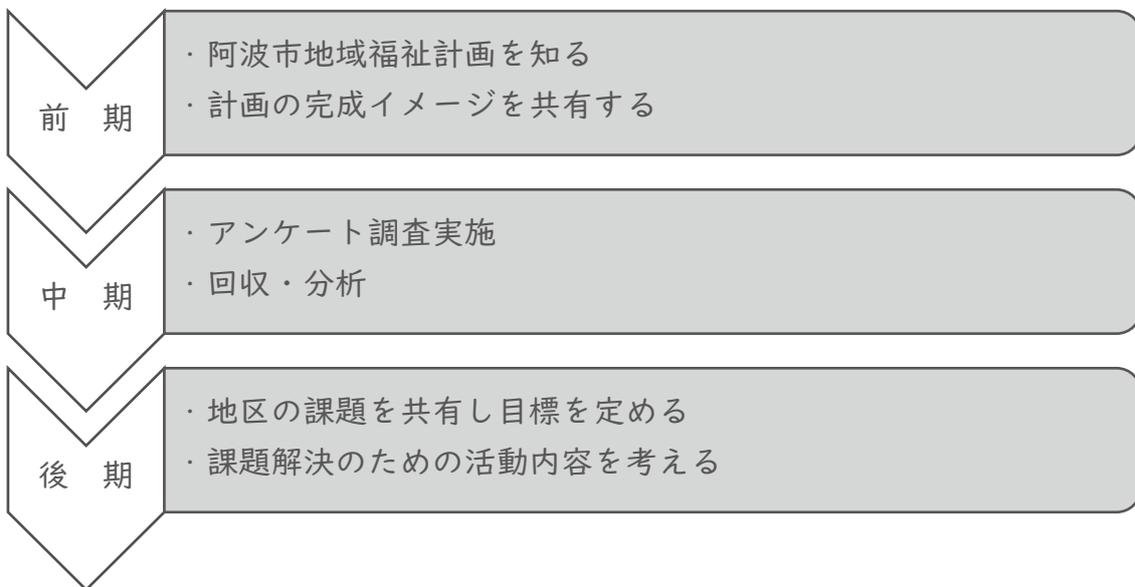
- 2 この要綱は、計画の策定が完了したときに効力を失う。

II. 阿波市地域福祉活動計画策定委員会名簿

◎会長 ○副会長

地区	氏名	氏名	氏名
吉野	(◎) 佃 浩行	森 弘光	森岡 ゆかり
土成	田村 二男	前田 利夫	藤本 一郎
市場	前田 晋志	(○) 井内 恭代	近藤 和子
阿波	安田 佳子	大星 きよみ	近藤 真里

III. 計画の策定経過(工程表)



IV. アンケート調査票(関係者、一般市民、中高生)

次頁のとおり

●阿波市地域福祉活動計画アンケート調査票●

令和5年(2023年)7月

社会福祉法人

阿波市社会福祉協議会 会長 関 敏行

《この調査の目的は、》

この調査は、社会福祉法人阿波市社会福祉協議会が策定する「第3次阿波市地域福祉活動計画」の基礎資料とすることを目的としています。

《ご記入にあたってのお願い》

- 1) 回答は匿名で処理いたしますので、プライバシーが侵されることはありません。また、回答内容が本計画策定の目的以外に使用されることは一切ありません。
- 2) 調査に同意いただける場合は、下記の同意チェック欄にチェック☑を入れてください。
- 3) 回答は、該当する項目を○印で囲んでください。
- 4) 「その他」をお答えになった場合は、()内に具体的な内容を記入ください。
- 5) 回答に迷う場合は、できるだけ近いものを選ぶようにしてください。

《御記入が終わりましたら…》

- ◎ 御記入が終わりましたら、もう一度、回答漏れがないかお確かめください。
- ◎ 御記入後は、返信用封筒(職員への手渡し)にて令和5年8月15日までにご投函ください。

《この調査に関するお問い合わせは…》

◎阿波市社会福祉協議会

〒771-1622 徳島県阿波市市場町興崎字北分 60 番地

阿波市社会福祉協議会 地域課

TEL : 0883-36-5511 FAX : 0883-36-7040

《同意チェック欄》

調査協力に同意します。

あなた自身のことについてお尋ねします

問1. お住まいの地区を教えてください。(いずれか1つに○)

1. 吉野地区	2. 土成地区	3. 市場地区	4. 阿波地区
5. その他 ()			

問2. 性別を教えてください。(いずれか1つに○)

1. 男性	2. 女性	3. 無回答
-------	-------	--------

問3. 年代を教えてください。(いずれか1つに○)

1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳代	8. 80歳代
9. それ以上			

問4. 第2次地域福祉活動計画(2019年度~2023年度)の存在を知っていますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問5. 第2次地域福祉活動計画の内容を知っていますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問6. 第2次地域福祉活動計画によって地域の活動や組織体制が変わったと思いますか。
(該当すると思われるすべての項目に○)

1. 住民間のつながりが少しずつ深まった
2. 地域の福祉活動が少し活発になった
3. ネットワークが広がった
4. 地域の課題が少しずつ解決している
5. 特に変わらない
6. よくわからない

地域福祉のネットワーク構築について

問1 1. あなたの地区で地域福祉に関わる団体等(*2)で様々な情報を共有していますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

*2:住民、住民組織(ボランティア、民生委員・児童委員、老人クラブ、NPO 団体等)、社会福祉施設、その他の団体(福祉、保健、医療、教育、労働 他)

問1 2. あなたの地区で地域福祉に関係する利用者などの情報の取り扱いについて、各団体で検討していますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問1 3. あなたの地区で個々の地域福祉活動をつないでいくネットワーク(*3)が必要だと感じますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

*3:情報発信、他団体との連携、人材交流

問1 4. あなたの地区で地域福祉に関わる個人、団体、行政、社会福祉協議会などと積極的に連携がとれていると感じますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問1 5. 社会福祉協議会が行う活動・支援で充実してほしいことは何ですか。
(該当すると思われるすべての項目に○)

<ol style="list-style-type: none">1. 福祉サービス利用のための適切な情報を得る体制づくり2. 保健・医療・福祉の連携による在宅サービス(*4)の充実3. 身近なところで福祉の相談ができる体制の充実4. 地域における福祉サービスのネットワーク化(*5)5. ボランティアの養成6. 学校教育における福祉教育の充実7. 地域のさまざまな社会福祉施設との交流8. 地域活動に利用できる場の整備9. 緊急時の防災・安全対策のための体制づくり10. 生涯学習における地域活動・ボランティアにおける自己実現11. その他() <p>*4:ホームヘルプサービスなど、生活しながら受けられる介護サービスの事 *5:情報発信、他団体との連携、人材交流</p>

安心安全な地域づくりの推進について

問17. (1) あなたの地区で災害などの緊急事態が発生した場合、地区の皆さんが適切に避難できると思いますか。

1. 避難できると思う

2. 避難できないと思う

(2) 問17で「2. 避難できないと思う」を選んだ方におうかがいします。避難できないと思う理由は何ですか。(該当すると思われるすべての項目に○)

1. 避難所が遠い
2. とおり近所で助け合えるかわからない
3. 避難所が分からない
4. 緊急時の情報が入らない
5. 支援してくれる人が分からない
6. その他 ()

問18. あなたの地区では災害の発生に備え、日ごろ話し合いや準備などをしていますか。(該当すると思われるすべての項目に○)

1. 日ごろからの挨拶や声かけ
2. 地域や隣近所での災害対策に関する意見交換
3. テレビなどでの防災情報の収集
4. 地区の防災訓練などへの参加
5. 食糧備蓄・防災グッズの準備
6. 家具の転倒防止や自宅の耐震補強の実施
7. 災害時の避難場所の確認
8. 災害時の避難経路の確認
9. 災害時に支援を依頼する人を決めている
10. 何もしていない
11. その他 ()

●阿波市地域福祉活動計画アンケート調査票●

令和5年(2023年)7月

社会福祉法人

阿波市社会福祉協議会 会長 関 敏行

《この調査の目的は、》

この調査は、社会福祉法人阿波市社会福祉協議会が策定する「第3次阿波市地域福祉活動計画」の基礎資料とすることを目的としています。

《御記入にあたってのお願い》

- 1) 回答は匿名で処理いたしますので、プライバシーが侵されることはありません。また、回答内容が本計画策定の目的以外に使用されることは一切ありません。
- 2) 調査に同意いただける場合は、下記の同意チェック欄にチェック☑を入れてください。
- 3) 回答は、該当する項目を○印で囲んでください。
- 4) 「その他」をお答えになった場合は、()内に具体的な内容を記入ください。
- 5) 回答に迷う場合は、できるだけ近いものを選ぶようにしてください。

《御記入が終わりましたら…》

- ◎ 御記入が終わりましたら、もう一度、回答漏れがないかお確かめください。
- ◎ 御記入後は、返信用封筒(職員への手渡し)にて令和5年8月15日までにご投函ください。

《この調査に関するお問い合わせは…》

- ◎ 阿波市社会福祉協議会

〒771-1622 徳島県阿波市市場町興崎字北分 60 番地

阿波市社会福祉協議会 地域課

TEL : 0883-36-5511 FAX : 0883-36-7040

《同意チェック欄》

調査協力に同意します。

あなた自身のことについてお尋ねします

問1. お住まいの地区を教えてください。(いずれか1つに○)

1. 吉野地区	2. 土成地区	3. 市場地区	4. 阿波地区
5. その他 ()			

問2. 性別を教えてください。(いずれか1つに○)

1. 男性	2. 女性	3. 無回答
-------	-------	--------

問3. 年代を教えてください。(いずれか1つに○)

1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳代	8. 80歳代
9. それ以上			

問4. 第2次地域福祉活動計画(2019年度~2023年度)を聞いたことありますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問5. 第2次地域福祉活動計画の内容を知っていますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

地域福祉のネットワーク構築について

問10. 行政や地域福祉に関わる団体などに、日々暮らしていく中で感じたことや意見を伝えたことはありますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問11. 利用できる福祉サービスについて、必要な情報を得る仕組みが整っていると感じますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問12. 自分の周囲やご近所の方で困りごとを抱えている人について関心はありますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問13. 社会福祉協議会が行う活動・支援で充実してほしいことは何ですか。
(該当すると思われるすべての項目に○)

<ol style="list-style-type: none">1. 福祉サービス利用のための適切な情報を得る体制づくり2. 保健・医療・福祉の連携による在宅サービス(*2)の充実3. 身近なところで福祉の相談ができる体制の充実4. 地域における福祉サービスのネットワーク化(*3)5. ボランティアの養成6. 学校教育における福祉教育の充実7. 地域のさまざまな社会福祉施設との交流8. 地域活動に利用できる場の整備9. 緊急時の防災・安全対策のための体制づくり10. 生涯学習における地域活動・ボランティアにおける自己実現11. その他() <p>*2: ホームヘルプサービスなど、生活しながら受けられる介護サービスの事 *3: 情報発信、他団体との連携、人材交流</p>

安心安全な地域づくりの推進について

問16. 災害発生時に迅速に避難できるよう、避難経路や避難方法の確認はできていますか。

1. はい

2. いいえ

問17. あなたの地区で災害時に住民が支え合う地域づくりに何が必要だと思いますか。
(該当すると思われるすべての項目に○)

1. 自主防災組織の整備
2. 地域での定期的な避難訓練
3. 地域での勉強会や話し合い
4. 災害時手助けが必要な方の台帳整備
5. 日常からの見守り活動
6. 手助けが必要な方のマップづくり
7. 日常からの啓発活動
8. その他 ()

問18. 阿波市が策定している成年後見利用促進基本計画を知っていますか。

1. はい

2. いいえ

問19. 阿波市が策定している再犯防止推進計画を知っていますか。

1. はい

2. いいえ

阿波市社会福祉協議会への意見・ご提案などがございましたらご自由にお書きください

以上でアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

●阿波市地域福祉活動計画アンケート調査票●

令和5年(2023年)7月

社会福祉法人

阿波市社会福祉協議会 会長 関 敏行

《この調査の目的は、》

この調査は、社会福祉法人阿波市社会福祉協議会が策定する「第3次阿波市地域福祉活動計画」の基礎資料とすることを目的としています。

《御記入にあたってのお願い》

- 1) 回答は匿名で処理いたしますので、プライバシーが侵されることはありません。また、回答内容が本計画策定の目的以外に使用されることは一切ありません。
- 2) 調査に同意いただける場合は、下記の同意チェック欄にチェック☑を入れてください。
- 3) 回答は、該当する項目を○印で囲んでください。
- 4) 「その他」をお答えになった場合は、()内に具体的な内容を記入ください。
- 5) 回答に迷う場合は、できるだけ近いものを選ぶようにしてください。

《御記入が終わりましたら…》

- ◎ 御記入が終わりましたら、もう一度、回答漏れがないかお確かめください。
- ◎ 御記入いただきました調査票は、担任の先生に渡してください。

《この調査に関するお問い合わせは…》

- ◎ 阿波市社会福祉協議会
〒771-1622 徳島県阿波市市場町興崎字北分60番地
阿波市社会福祉協議会 地域課
TEL: 0883-36-5511 FAX: 0883-36-7040

《同意チェック欄》

調査協力に同意します。

あなた自身のことについてお尋ねします

問1. お住まいの地区を教えてください。(いずれか1つに○)

1. 吉野地区	2. 土成地区	3. 市場地区	4. 阿波地区
5. その他 ()			

問2. 性別を教えてください。(いずれか1つに○)

1. 男性	2. 女性	3. 無回答
-------	-------	--------

問3. あなたの家族構成を教えてください。(いずれか1つに○)

1. 親と自分
2. 祖父母と親と自分
3. 曾祖父母と祖父母と親と自分
4. その他 ()

問4. あなたが落ち着く(心が安らぐ)場所はどこですか。
(該当すると思われるすべての項目に○)

1. 自宅
2. 学校
3. 友達の家
4. 祖父母や親戚の家
5. 図書館
6. その他 ()

問5. あなたはボランティア活動をしたことがありますか。(いずれか1つに○)

*ボランティア活動とは、缶拾いや町内会活動、道路・河川清掃などのことで、家でのお手伝いは含みません。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問6. 問5「あなたはボランティア活動をしたことがありますか」で「1. はい」と答えた方にお聞きします。

どのようなボランティア活動をしましたか。

(該当すると思われるすべての項目に○)

1. 地域の清掃活動
2. 祭りの準備など地域行事の手伝い
3. 施設ボランティア
4. 募金運動
5. その他 ()

問7. 問5で「1. はい」と答えた方にお聞きします。

あなたがボランティア活動をしたきっかけとして一番大きいのは何ですか。

(いずれか1つに○)

1. 自分から進んで
2. 友達に誘われて
3. 親に言われて
4. 先生に言われて
5. その他 ()

問8. 問5で「2. いいえ」と答えた方にお聞きします。

それはなぜですか。(いずれか1つに○)

1. 機会がないから
2. したい活動がないから
3. 何をすればいいかわからないから
4. 時間がないから
5. 興味がないから
6. その他 ()

問9. 問8で「2. したい活動がない」と答えた方にお聞きします。

したい活動は何ですか。

自由記述

ご近所のことについてお尋ねします

問10. あなたは近所の人についてどう思いますか。(いずれか1つに○)

1. 近所づきあいは当然であり、特別なこととは思わない
2. 助け合って生きていくためには大切な人だと思う
3. あいさつぐらいはするが、深く関わりたくない
4. わずらわしいので、ほとんど付き合いはしたくない
5. その他 ()

問11. あなたの近所の人、あいさつや声掛けをしてくれますか。(いずれか1つに○)

1. 会えば必ず声をかけてくれる
2. ときどき声をかけてくれる
3. あまり声をかけてくれない
4. まったく声をかけてくれない

問12. あなたは近所の人と、どれくらい話をしますか。

(いずれか1つに○)

1. よく話をする
2. ときどき話をする
3. あまり話をしない
4. まったく話をしない

問13. あなたは、住んでいる地域に対して愛着を持っていますか。(いずれか1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問14. あなたは、今後も生まれ育った地域に住みたいと思いますか。(いずれか1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問15. 問14で「1. はい」と答えた方にお聞きします。どうしてそう思いますか。

(該当すると思われるすべての項目に○)

1. 家族がいるから
2. 友達や知り合いがいるから
3. 生まれ育った地域が好きだから
4. その他 ()

問16. 問14で「2. いいえ」と答えた方にお聞きします。どうしてそう思いますか。

(該当すると思われるすべての項目に○)

1. 買い物などが不便だから
2. 交通の便が悪いから
3. なりたい職業につけないから
4. 周りの人に干渉されるから
5. 遊ぶところがないから
6. その他 ()

あなたが考える福祉のことについてお尋ねします

問17. あなたは、「福祉」という言葉からどのようなことを思い浮かべますか。
(該当すると思われるすべての項目に○)

1. 高齢者
2. 障がい者
3. 介護
4. 児童
5. 貧困
6. 地域
7. その他 ()

問18. あなたは、お年寄りや障がいのある人が困っている場面に出会ったことがありますか。ある場合はどんな対応をしましたか。

1. はい	2. いいえ
「はい」の場合どのような対応をしましたか ()	

問19. 問18で「2. いいえ」と答えた方におたずねします。
あなたは、お年寄りや障がいのある人が困っている場面に出会った時どんな対応をしますか。(いずれか1つに○)

1. 進んで声をかけ手助けする
2. 頼まれれば手助けする
3. どうすればいいかわからない
4. 特に気にならない
5. なにもしない
6. その他 ()

令和 6 年 3 月発行

社会福祉法人 阿波市社会福祉協議会
〒771-1622 徳島県阿波市市場町興崎字北分 60 番地
TEL 0883-36-5511 / FAX 0883-36-7040

